シ ラ バ ス

（実務教育研究科）

※ シラバスの変更、追加等が生じた場合は、Teams・掲示等でお知らせいたします

令和 7（2025）年度 学年暦

前期	週	日	月	火	水	木	金	土	備考
4月	－			1	2	3	4	5	・4/5：入学式 ・4/7-12：導入集中授業期間 ・4/14-19：オリエンテーション期間 ・4/14-20：履修登録期間
	導	6	7	8	9	10	11	12	
	AB1	13	14	15	16	17	18	19	
	A2	20	21	22	23	24	25	26	
	－	27	28	***29***	30				
5月	－					1	2	***3***	
	B2	***4***	***5***	***6***	7	8	9	10	
	A3	11	12	13	14	15	16	17	
	B3	18	19	20	21	22	23	24	
	A4	25	26	27	28	29	30	31	
6月	B4	1	2	3	4	5	6	7	・6/8：2年次中間審査会（6月）
	A5	8	9	10	11	12	13	14	
	B5	15	16	17	18	19	20	21	
	A6	22	23	24	25	26	27	28	
	B6	29	30						
7月	B6			1	2	3	4	5	
	A7	6	7	8	9	10	11	12	
	B7	13	14	15	16	17	18	19	
	A8	20	***21***	22	23	24	25	26	
	B8	27	28	29	30	31			
8月	B8						1	2	・8/9-10：3年次中間報告会（8月） ・8/9-10：1年次中間報告会（8月） ・8/9-10：2年次最終審査会（8月） ・8/6-23：補講期間
	補	3	4	5	6	7	8	9	
	－	10	***11***	12	13	14	15	16	
	補	17	18	19	20	21	22	23	
	－	24	25	26	27	28	29	30	
	－	31							
9月	－		1	2	3	4	5	6	・9/20：学位授与式（秋）・入学式（秋） ・9/22-27：導入集中授業期間（秋） ・9/29-10/4：オリエンテーション期間 ・9/30-10/5：履修登録期間
	－	7	8	9	10	11	12	13	
	－	14	***15***	16	17	18	19	20	
	導	21	22	***23***	24	25	26	27	
	AB1	28	29	30					

後期	週	日	月	火	水	木	金	土	備考
10月	AB1				1	2	3	4	
	A2	5	6	7	8	9	10	11	
	B2	12	***13***	14	15	16	17	18	
	A3	19	20	21	22	23	24	25	
	B3	26	27	28	29	30	31		
11月	B3							1	・11/2-3：2年次中間審査会（11月）
	A4	2	***3***	4	5	6	7	8	
	B4	9	10	11	12	13	14	15	
	A5	16	17	18	19	20	21	22	
	B5	23	***24***	25	26	27	28	29	
	A6	30							
12月	A6		1	2	3	4	5	6	
	B6	7	8	9	10	11	12	13	
	A7	14	15	16	17	18	19	20	
	－	21	22	23	24	25	26	27	
	－	28	29	30	31				
1月	－					***1***	2	3	・1/27-2/7：補講期間
	B7	4	5	6	7	8	9	10	
	A8	11	***12***	13	14	15	16	17	
	B8	18	19	20	21	22	23	24	
	補	25	26	27	28	29	30	31	
2月	補	1	2	3	4	5	6	7	・2/9-10, 12-14：2年次最終審査会（2月） ・2/16-21：1年次中間報告会（2月） ・2/16-21：社会構想プロジェクト報告会
	－	8	9	10	***11***	12	13	14	
	－	15	16	17	18	19	20	21	
	－	22	***23***	24	25	26	27	28	
3月	－	1	2	3	4	5	6	7	・3/20：学位授与式
	－	8	9	10	11	12	13	14	
	－	15	16	17	18	19	***20***	21	
	－	22	23	24	25	26	27	28	
	－	29	30	31					

※***斜体***は祝祭日

令和 7（2025）年度 実務教育研究科 開設科目一覧

科目区分	科目コード	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期
基礎科目	PEPA1101L	知の理論	川山 竜二	①②	講義	2	1	前期
	PEPA1102L	社会学基礎理論	富井 久義	①②	講義	2	1	前期
	PEPA1103L	教育学基礎理論	齊藤 崇徳	①②	講義	2	1	前期
	PEPA1104L	人材育成の基礎	田原 祐子	①③	講義	2	1	前期
	PEPA1105L	現代社会論	大谷 晃	①②	講義	2	1	後期
	PEPA1106L	実践研究法Ⅰ	オムニバス	①②	講義	2	1	前期
	PEPA1107S	実践研究法Ⅱ	富井 久義	①②	演習	2	1	後期
必修科目「知の理論」（2単位）を修得する。								
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期
専門基礎科目	PEPB1201L	教育社会学	齊藤 崇徳	①②	講義	2	1	後期
	PEPB2202L	産業社会学	富井 久義	①②	講義	2	1	前期
	PEPB1203S	組織論	田原 祐子	①③	講義	2	1	後期
	PEPB1204L	知識社会学	川山 竜二	①②	講義	2	1	後期
	PEPB2206L	認知学習論	石﨑 友規	②③	講義	2	1	後期
	PEPB1212L	教育サービスの現状と未来	中川 哲	③	講義	2	1	前期
	PEPB1214L	生涯学習の理論と発展	川山 竜二	①②	講義	2	1	前期
	PEPB1215L	生涯学習支援論	大谷 晃	①②	講義	2	1	後期
	PEPB0216L	社会教育経営論	荒木 貴之	①②④	講義	2	1	前期
	PEPB1211L	教育産業と教育事業	廣政 愁一	③	演習	2	1	後期
	PEPB0216L	心理と学習のフロンティア	齋藤 玲	①②	講義	2	2	後期
専門基礎科目から4単位以上を修得する。								
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期
教育実践科目	PEPF1501S	実践教育プロジェクト	小泉 雄	①③④	演習	2	1	前期
	PEPF1502S	インストラクショナル・デザイン	北村 士朗	②③④	演習	2	1	後期
	PEPF2503S	成人教育・学習論	北村 士朗	②③④	演習	2	1	前期
	PEPF2504S	実務家教員のキャリア開発	北村 士朗	①③④	演習	2	2	前期
	PEPF2505S	社会教育演習	荒木 貴之	①②④	演習	2	2	後期
教育実践科目から4単位以上を修得する。								
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期
専門科目 知識社会	PEPC1301S	省察的実践	齊藤 崇徳	①②	演習	2	1	後期
	PEPC2302S	実践と理論の融合	川山 竜二	②	演習	2	2	前期
	PEPC2303L	知識・教育・社会	川山 竜二	①③	講義	2	2	後期
	PEPC2304S	専門職教育論	齊藤 崇徳	①③	講義	2	2	後期
組織学習	PEPC1305S	学習する組織	田原 祐子	①③	演習	2	1	後期
	PEPC2307S	ナレッジ･マネジメント	田原 祐子	②③	演習	2	1	前期
	PEPC2308S	現代社会と人的資本	川山 竜二	③	講義	2	2	後期
	PEPC2313S	コーチングとファシリテーション	佐藤 宏樹	①③	演習	2	2	前期
教育構想	PEPC2314S	グローバル・ラーニングイノベーション	金光 秀和	①②	演習	2	1	後期
	PEPC2310S	教育コンテンツ開発	廣政 愁一	③	演習	2	2	前期
	PEPC2311L	教**育**のマネジメントの理論と実践	藏田 實	①②	講義	2	2	前期
	PEPC2312S	ICTと教育	中川 哲	③	演習	2	2	後期
専門科目から6単位以上を修得する。								
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期
展開科目	PEPD1401S	探究基礎演習	川山竜二/藏田實/大谷晃/荒木貴之	①②③④	演習	2+2	1	前期・後期
	PEPD2402S	探究演習（知識社会学）	川山 竜二	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期
	PEPD2403S	探究演習（教育マネジメント）	藏田 實	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期
	PEPD2405S	探究演習（教育学）	齊藤 崇徳	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期
	PEPD2406S	探究演習（教育産業と教育事業）	廣政 愁一	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期
	PEPD2407S	探究演習（組織・マネージメント）	中川 哲	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期
	PEPD2410S	探究演習（社会教育）	荒木 貴之	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期
	PEPD2411S	探究演習（地域社会論）	大谷 晃	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期
	PEPD2412S	探究演習（教育デザイン）	北村 士朗	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期
展開科目の必修科目「探究基礎演習」（4単位）、選択科目から4単位以上（8単位以内）を修得する。								

※2022 年度までの入学者は教育実践科目の「実践教育プロジェクト」「実務家教員のキャリア開発」を必ず履修すること

実務教育研究科 令和 4(2022)年度からの読替え表

読替え後		読替え前		特記事項
科目コード	2025 年度科目名	科目コード	2022 年度科目名	
PEPB0216L	社会教育経営論			新設
PEPF2505S	社会教育演習			新設
		PEPA1105L	現代教育政策	廃止
		PEPB1213S	情報リテラシー	廃止
PEPB1212L	教育サービスの現状と未来	PEPB1212L	現代の教育事情	
PEPB1214L	生涯学習の理論と発展	PEPC1305S	学習社会論	
PEPF1501S	実践教育プロジェクト	PEPD2410S	実践教育プロジェクト演習	
PEPF1502S	インストラクショナル・デザイン	PEPB1205S	インストラクショナル・デザイン	
PEPF2503S	成人教育・学習論	PEPB2207L	アンドラゴジー	
PEPF2504S	実務家教員のキャリア開発	PEPB1205S	実践教育プロジェクト演習	
PEPC2303L	知識・教育・社会	PEPC2303L	知識と大学	
PEPC2304S	専門職教育論	PEPC2304S	プロフェッションとプロフェッショナルスクール	
PEPC2308S	現代社会と人的資本	PEPC2308S	人材開発マネジメント	
PEPC2313S	コーチングとファシリテーション	PEPC2310L	教育相談	
PEPC2314S	グローバル・ラーニングイノベーション	PEPB1209S	グローバル教育実践	2022 年度までに両科目を履修している場合、履修不可
		PEPC1309S	ラーニング・イノベーション	
PEPC2311L	教育のマネジメントの理論と実践	PEPC2311L	教学マネジメントの理論と実践	

令和 7(2025)年度 実務教育研究科 時間割

前期 A	月	火	水	木	金	土
1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40						教育のマネジメントの理論と実践 藏田 實 探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷
3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50						探究演習(知識社会学) 川山 竜二
5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	人材育成の基礎 田原 祐子 教育コンテンツ開発 廣政 慈一	生涯学習の理論と発展 川山 竜二 ナレッジ・マネジメント 田原 祐子	教育サービスの現状と未来 中川 哲 探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷 探究演習(教育産業と教育事業) 廣政 慈一	社会教育経営論 荒木 貴之 実践教育プロジェクト 小泉 雄 成人教育・学習論 北村 士朗	探究演習(教育学) 齋藤 崇徳 実務家教員のキャリア開発 北村 士朗	
前期 B	月	火	水	木	金	土
1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40						探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷 探究演習(教育マネジメント) 藏田 實
3・4限 14:40 - 16:10 16:20 – 17:50						知の理論 川山 竜二
5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40		実践研究法Ⅰ オムニバス 実践と理論の融合 川山 竜二 探究演習(教育デザイン) 北村 士朗	社会学基礎理論 富井 久義 探究演習(組織・マネジメント) 中川哲	探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷 産業社会学 富井 久義 探究演習(社会教育) 荒木 貴之	コーチングとファシリテーション 佐藤 宏樹 教育学基礎理論 齋藤 崇徳 探究演習(地域社会論) 大谷 晃	
後期 A	月	火	水	木	金	土
1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40						省察的実践 齋藤 崇徳 探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷
3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50						教育社会学 齋藤 崇徳 探究演習(知識社会学) 川山 竜二
5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	教育産業と教育事業 廣政 慈一 組織論 田原 祐子	実践研究法Ⅱ 富井 久義 知識社会学 川山 竜二 学習する組織 田原 祐子	探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷 ICTと教育 中川 哲 探究演習(教育産業と教育事業) 廣政 慈一	社会教育演習 荒木 貴之 インストラクショナル・デザイン 北村 士朗	心理と学習のフロンティア 齋藤 玲 探究演習(教育学) 齋藤 崇徳 現代社会論 大谷 晃	
後期 B	月	火	水	木	金	土
1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40						探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷 探究演習(教育マネジメント) 藏田 實
3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50						知識・教育・社会 川山 竜二
5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40		現代社会と人的資本 川山 竜二 生涯学習支援論 大谷 晃 探究演習(教育デザイン) 北村 士朗	専門職教育論 齋藤 崇徳 探究演習(組織・マネジメント) 中川哲	探究基礎演習 川山・荒木・齋藤・大谷 探究演習(社会教育) 荒木 貴之	グローバル・ラーニングイノベーション 金光 秀和 探究演習(地域社会論) 大谷 晃 認知学習論 石崎 友規	

授業名称	知の理論			科目コード	PEPA1101L
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	土 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「知の理論（Theory of Knowledge, TOK）」の核心的な内容を理解するとともに、その社会的・学問的・教育的な位置付けについて深く洞察する力を養うことにある。本授業では、現代社会における「知」の多様性と複雑性を認識し、履修者が自身の知識観を深化させることを重視する。

「知の理論（TOK）」は、国際バカロレア（IB）の必修科目として知られていますが、本授業ではその枠を超え、より広範な知識論の探究へと踏み出す。具体的には、知識を分析するための多様な理論や視点を提供し、それによって履修者が自らの知識や価値観を相対化し、新たな視座を獲得できるよう支援する。

さらに、「知の理論」は単なる学問的探究にとどまらず、私たちが日常生活や専門分野で直面する「知識」の創造（知識を生み出す）、普及（知識を共有する）、活用（知識を応用する）といったプロセスにおいて不可欠な視座を提供する。本授業では、これらの視座を通じて、履修者が現代社会における多様な課題に対処するための思考力と洞察力を磨くことを目指す。

到達目標

① 履修者が「知の理論」を理解し、「知の理論」のおかれている社会的・学問的・教育的布置を自ら説明することができる。
② 履修者が「知の理論」というメタ的観点から、自らの実践を実践知として捉えて説明することができる。
③ 履修者が自らの研究している領域の布置を説明し、他者にその知識の意図を伝えることができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）イントロダクション 本授業の探究の旅路を深めるとともに、「知の理論」とはいかなるものかについて概説する。	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h）
第 2 週	（第 2 講）国際バカロレア（IB）とは何か （第 3 講）国際バカロレアにおける「知の理論（TOK）」 「知の理論」は、国際バカロレア（IB）の必修科目になっていることから、IB の思想と「知の理論」の役割について理解を深める。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）
第 3 週	（第 4 講）知識とは何か 知識とは、いかなるものかを検討する。 （第 5 講）知識の知識（メタ知識） 知識を分析するための知識の構造を考究する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）
第 4 週	（第 6 講）科学 科学的知識とは何かを、科学哲学等の知見から概説する。 （第 7 講）真理	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h）

	「真である」とはどういうことなのかを考究する。		総括討論に向けた資料探索（1h）
第 5 週	（第 8 講）自然・人文・社会 自然・人文・社会の 3 つの知識のカテゴリーを考察する。 （第 9 講）政治・教育の知識 応用領域として政治、教育領域の知識について考察する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 総括討論に向けた資料探索（1h）
第 6 週	（第 10 講）知識にかかわる思想 1――認識論 知識にかかわる思想について、認識論から概説する。 （第 11 講）知識にかかわる思想 2――社会理論 知識にかかわる思想について、社会理論から概説する。	事前	事前配布資料を読む（3h） 総括討論に向けた資料探索（2h）
		事後	総括討論に向けた資料作成（2h） コメントペーパーの提出（1h）
第 7 週	（第 12 講）社会のなかの知識 知識がいかなる社会的機能を担っているかを考察する。 （第 13 講）実践知 実践知や暗黙知の可能性について検討する。	事前	事前配布資料を読む（3h） 総括討論に向けた資料作成（3h）
		事後	総括討論に向けた資料作成（3h） コメントペーパーの提出（1h）
第 8 週	（第 14 講）総括討論 1 （第 15 講）総括討論 2 履修者が対象としている研究領域がどのような知識であるのかを報告する。	事前	総括討論に向けた資料作成（10h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90 分×2 コマ連続で実施する。

また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。

※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

以下、参考図書を列記する。

- Sue Bastian, Julian Kitching, Ric Sims（2020）*Theory of Knowledge for the IB Diploma: TOK for the IB Diploma (Pearson International Baccalaureate Diploma: International Editions)*, Oxford University Press.
- シェリング著／西川富雄・藤田正勝監訳（2022）『学問論』岩波文庫。
- 上枝美典（2020）『現代認識論入門――ゲティア問題から徳認識論まで』、勁草書房。
- 坂本尚志（2022）『バカロレアの哲学「思考の型」で自ら考え、書く』日本実業出版社。
- ジャン＝フランソワ・ブラウンスタン（2022）『グランゼコールの教科書――フランスのエリートが習得する最高峰の知性』、プレジデント社。

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるように換算する。60 点を超えるものに単位を付与する。

1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」（35%）
   本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。

2.　最終授業回でのディスカッションならびに発表（65%）

本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。

その他の重要事項

詳細のシラバスや参考情報

- ❖ 基本的には、本学の LMS（Microsoft Teams）に掲載するので参照すること。
- ❖ 授業担当者の Web サイトに、授業科目などに関する情報を掲載する。

コンタクトならびにオフィスアワー

- ❖ メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡すること。〔@r.kawayama〕
- ❖ 授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成するので、そちらから予約を取ること。

2022 年度科目との読替え

なし。

	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	○	○	－	－

授業名称	社会学基礎理論			科目コード	SDPA1102L
担当教員	富井久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、社会学の基本的な理論や視座、発想法を理解し、社会学的想像力を身につけることにある。社会課題や経営課題に取り組み、実行可能な解決策を見いだしていくためには、その課題の社会的な位置づけを見定める俯瞰的な視点や、課題を多角的にとらえる複眼的思考が求められる。「より大局的な歴史的場面を、個人ひとりひとりの内的な精神生活や外的な職業経歴によってそれがどのような意味をもっているのか」（C. W. Mills 1959＝2017: 19）を考える社会学的想像力を身につけることは、そうした能力を身につける一助となるだろう。

本授業では、主要な社会学理論をその射程の別に取り上げるなかで、社会学的想像力の多様な発揮のしかたについて検討し、履修者の関心や課題に近しい社会学理論を習得することをめざす。

到達目標

① 社会学的想像力について理解し、みずから関心をもつ社会課題や経営課題に関連する事例に関連づけて説明することができる。
② 社会学の基本的な理論をもちいて、みずから関心をもつ世の中のさまざまな事象を解釈・説明することができる。
③ みずから関心をもつ社会課題や経営課題に関連することがらについて、社会学の理論をもちいて説明することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）社会学とはなにか（イントロダクション） ——社会学、社会学的想像力、近代社会	事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる（1h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、予習・復習スケジュールの割当検討（4h）
第 2 週	（第 2・3 講）初期の理論家に学ぶ社会学的視座 ——ウェーバー、デュルケム、マルクス	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）
第 3 週	（第 4・5 講）ミクロ・レベルに照準する社会学の基礎理論 ——象徴的相互作用論、相互行為、自己	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）
第 4 週	（第 6・7 講）メゾ・レベルに照準する社会学の基礎理論 ——官僚制、中間集団、社会関係資本、制度と文化	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）
第 5 週	（第 8・9 講）マクロ・レベルに照準する社会学の基礎理論 ——機能主義、顕在的機能と潜在的機能、中範囲の理論	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）
第 6 週	（第 10・11 講）社会学は社会変動をいかにとらえているのか ——葛藤理論、テクノロジーと制度、変化への意志	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）
第 7 週	（第 12・13 講）社会学は時間と空間をいかにとらえているのか	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）

	――歴史、記憶、都市	事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）
第 8 週	（第 14・15 講）課題発表と討論 ――関心のある社会課題／経営課題についての発表と討論	事前	フィードバックコメントの確認、課題発表準備（14h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、発表者へのフィードバックシートの記入（5h）

授業の進め方と方法

本授業は、第 2 週目以降、2 講連続で実施する。

第 2 週から第 7 週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義（話題提供）、ディスカッション（演習課題）で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。

第 8 週では、関心のある社会課題／経営課題について社会学の概念をもちいた考察をする発表を各履修者に求め、相互に討論するかたちで進行する。

教科書・参考書

【教科書】指定しない

【参考書】

- アンソニー・ギデンズ，2006＝2009,『社会学 第五版』而立書房.
- 長谷川公一ほか，2019,『社会学 新版』有斐閣.
- 田中正人編，2019,『社会学用語図鑑』プレジデント社.

評価方法

- コメントペーパーの内容　30%
- ディスカッションへの貢献　30%
- 第 8 週の課題発表の内容　40%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③
	○	−	−

授業名称	教育学基礎理論			科目コード	PEPA1103L
担当教員	齋藤 崇徳	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、教育学の理論や教育に関する思想、歴史を理解し、教育の意義や課題を考察することを通じて、学校、企業、地域社会等における教育で応用可能な知識や能力を涵養することである。

「教育」とは何であり、人類の歴史においてどのように営まれてきただろうか？　本授業では、「教育」をその「基礎」から理論的に捉え、時代と共に変遷してきた諸現象や考え方について学ぶ。そして、これらの学んだ教育学の概念や理論を、様々な教育場面（高等教育機関、企業、地域、家庭など）での教育実践の参考にして、自らの教育方法や内容を省察したり、新たに構築したりすることを目指す。

到達目標

① 教育学の考え方や意義を説明することができる。
② 教育史を踏まえて現代の教育の特徴を説明することができる。
③ 授業で学ぶ教育学の概念や理論を用いて、自らの教育的実践を省察し、その応用を構想することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	第 1 講：イントロダクション―教育学とは何か― 本授業の名称は「教育学」「基礎理論」であるが、「教育学」とはどのような学問であるか、また、その「基礎」の「理論」とはどのようなものであるのか（あり得るのか）を議論する。	事前	シラバスの精読（1h）
		事後	ミニットペーパー作成（2h） 授業内容の復習（1h）
第 2 週	第 2 講：子ども／第 3 講：新教育 現代の教育（学）の「基礎」を考える上で重要なルソーとデューイの思想について、とくに新教育として議論する。	事前	授業資料の確認（1h） 事前課題（2h）
		事後	ミニットペーパー作成（2h） 授業内容の復習（1h）
第 3 週	第 4 講：新教育批判／第 5 講：学校批判 教育を「基礎」から考えるためにはその原理的な批判を押さえることが重要である。そのために、第 3 週では新教育への批判および学校制度への批判の議論を取り上げる。	事前	授業資料の確認（1h） 事前課題（2h）
		事後	ミニットペーパー作成（2h） 授業内容の復習（1h）
第 4 週	第 6 講：カリキュラムと方法／第 7 講：能力 第 4 週以降では、第 3 週の批判を踏まえた上で、学校および広く社会における教育の課題を考える。第 4 週ではカリキュラムはいかにあるべきか、育成される能力とは何かを考察する。	事前	授業資料の確認（1h） 事前課題（2h）
		事後	ミニットペーパー作成（2h） 授業内容の復習（1h）
第 5 週	第 8 講：歴史／第 9 講：公教育 第 5 週では、まず歴史的な視点から教育の「基礎」を捉えることの重要性を議論した後に、現代における教育制度を考えるうえで重要な「公教育」という思想を主にコンドルセの議論から考える。	事前	授業資料の確認（1h） 事前課題（2h）
		事後	ミニットペーパー作成（2h） 授業内容の復習（1h）

第 6 週	第 10 講：政治／第 11 講：教育の科学 第 10 講では、国家、シティズンシップなどの主題と教育との関連を捉える。第 11 講では、本授業の中間考察として、教育を「科学」的に捉える試みについて改めて考察する。	事前	授業資料の確認（1h） 事前課題（2h）
		事後	ミニットペーパー作成（2h） 授業内容の復習（1h）
第 7 週	第 12 講：社会／第 13 講：職業 第 7 週では、まず「社会のなかの教育」という一見当然のように見える発想を「基礎」から思想的に考察し、そのうえで職業と教育の関係について理論的に考察する。	事前	授業資料の確認（1h） 事前課題（2h）
		事後	ミニットペーパー作成（2h） 授業内容の復習（1h）
第 8 週	第 14 講：道徳／第 15 講：宗教 最後に現代でも重要な主題である道徳教育について主にデュルケームの議論から考え、さらにこれと関連する教育における「宗教」の位置について取り上げる。	事前	授業資料の確認（1h） 事前課題（2h）
		事後	ミニットペーパー作成（2h） 授業内容の復習（1h） 最終レポート作成（14h）

授業の進め方と方法

上記の目的および到達目標を達成するため、各授業においてその内容に応じたワークおよびディスカッションを行う。講義による解説と、考えを表現する活動を各授業内で往還させる。また、各週に事前課題および事後課題を設定する。事前課題はワークあるいは指定する文献の読解である。

教科書・参考書

本授業では教科書は指定しない。参考書は以下の通りである。授業内容に応じてその都度文献を紹介する。

- 勝野正章・庄井良信，2022，『問いからはじめる教育学 改訂版』有斐閣.
- 安彦忠彦・藤井千春・田中博之編著，2020，『新版よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房.
- 木村元・小玉重夫・船橋一男，2019，『教育学をつかむ 改訂版』有斐閣.
- 今井康雄編，2009，『教育思想史』有斐閣.

評価方法

- 事前課題（20%）
- ワークおよびディスカッション（30%）
- ミニットペーパー（事後課題）（20%）
- 最終レポート課題（30%）

その他の重要事項

授業の初回にオフィスアワーについて説明する。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	–	–

授業名称	人材育成の基礎			科目コード	PEPA1104L
担当教員	田原 祐子	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	月 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、人材に内在する限りない潜在能力を引き出し、モチベーション・エンゲージメント・知的生産性の高い自律型人材を育成するため、人材育成に関する理論や手法を理解・修得することである。

「人的資本経営」という言葉が示すように、人材なくして事業は成り立たず、人材は企業にとって、かけがえのない貴重な資本（キャピタル）である。人生 100 年時代を迎え、人材に必要とされるスキルの変化・仕事に対する価値観や働き方の多様化によって、人材育成や人事に関する戦略も変革を求められている。加えて、ジョブ型雇用の導入・従来のピラミッド型とは対極にあるティール組織が注目されるといった時代の流れの中で、人材育成・人材マネジメントの手法も、HR テクノロジーの活用等を含め大きく変化している。

本授業では具体的に、こうした変革が進む中で、「人材育成のあり方や、しくみ・環境整備をどうすべきか」といったテーマについて、関連する理論・知見を参照しつつ検討していく。

到達目標

① 履修者が、転換期を迎えている今の時代に合致した、「人的資本経営」「DE&I（ダイバーシティマネジメント）」等の考え方にもとづく、実践的な人材育成・人事戦略に関する理論や視点を説明できるようになる。
② 履修者が、モチベーション・エンゲージメントや知的生産性の高い、自律型人材の育成に向けた施策について検討できるようになる。
③ 履修者が、修得した理論や視点をもとに、人材育成について説得的に分析できるようになる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）ガイダンス:「人的資本経営の概要」と「人材育成における課題」、ISO30414（Human resource management）、ESG	事前	シラバスの精読（0.5h） 授業での質問事項の検討（0.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 2 週	（第 2 講）（第 3 講）「企業内教育訓練」と「人材育成～基本と実践法」: 学習のメカニズム、学習モデル、学習環境デザイン、フレーム＆ワークモジュールの理解と応用、e ラーニング	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書該当部分の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 3 週	（第 4 講）（第 5 講）「人材の強みを活かす①～ヒューマン・リソース・マネジメント」: コンピテンシー、タレントマネジメント、 キャリア・アンカーの理解と応用、スキル可視化の重要性	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書該当部分の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 4 週	（第 6 講）（第 7 講）「人材の強みを活かす②～キャリアコンサルティング」:キャリア開発、ゼネラリスト vs スペシャリスト、ジョブカードの理解と応用	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書該当部分の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 5 週	（第 8 講）（第 9 講）「人材を育てモチベーションを高める、“承認”と“評価”のしくみ : 動機づけの理論 、承認欲求、人事考課、考課面談、報酬、MBO（Management by Objectives）の理解と応用、ウェルビーイング（Well-being）	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書該当部分の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）

第 6 週	（第 10 講）（第 11 講）「組織開発・チームビルディング、チェンジマネジメント」: サーバントリーダーシップ、ティール組織、1on1 コーチングの理解と応用	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書該当部分の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 7 週	（第 12 講）「最新の人材育成戦略、および、データドリブン人事戦略」: HR Tech（ヒューマン・リソース・テクノロジー）の理解と応用 （第 13 講）最終発表の計画立案	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書該当部分の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h） 最終発表の計画立案（5h）
第 8 週	（第 14 講）（第 15 講）発表・プレゼンテーション～これまで学修した内容を活用し、履修者が所属する組織等を題材とした組織課題の解決、および、「効果的な人材育成」実現のためのアプローチ、講評～総合ディスカッション	事前	最終発表の準備（2h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（1h） 最終発表フィードバックの復習（1h） 最終レポート課題（4h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッション、グループワークを中心に進行する。また、履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係する、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてミニットペーパーに記入し、毎回の授業後の課題として提出する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。参考書は下記の通り。

中原淳（編著）・荒木淳子・北村士朗・長岡健・橋本論（著），2006,『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社.

田原祐子，2017,『マネージャーは「人」を管理しないでください』秀和システム.

ラーニングエージェンシー (著, 編集)・眞﨑 大輔 (監修),2019,『人材育成ハンドブック 新版 いま知っておくべき 100 のテーマ』

その他、授業中に適宜参考図書を紹介する。

評価方法

① ミニットペーパーの提出（15%）: 毎回の授業後、履修者の意見と、そう考える理由を記す。

② ディスカッション・グループワークへの貢献度（25%）

③ 最終プレゼンテーション（40%）

④ 最終レポート課題（800 字）（20%）

その他の重要事項

遅刻や欠席をする場合は、学内の LMS（学習管理システム）またはメール等を通じて事前に連絡すること。

本授業に関する疑問点や不明点については、担当教員まで問い合わせること。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○		○	

授業名称	現代社会論			科目コード	PEPA1105L
当教員	大谷 晃	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	金 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会における教育や人材育成、コミュニケーションの位置づけを明らかにするために、社会学の主要な概念と方法をもちいて現代社会の分析をおこなうことである。

現代社会はどのような社会なのか。どのようにすれば現代社会を分析的にとらえることができるのだろうか。現代社会について理解を深めることは、私たちが生きる社会についての複眼的な視座を身につけ、解像度を高めていくことにつながる。そしてそれは、履修者各自が関心を有する社会課題や経営課題についての社会的位置づけを明らかにする一助となる。

本授業では、グローバル化・階層と資源の分配・社会関係の変容をめぐる議論等を中心に、現代社会を論じる社会学の議論を検討することで、履修者各自が現代社会を論じる視座を身につけることをめざす。

到達目標

1　履修者が、現代社会を分析するための主要な概念や発想法を理解し、説明することができる。

2　履修者が、現代社会を分析する議論について、みずから関心をもつ社会課題や経営課題に関連づけて説明することができる。

3　履修者が、現代社会を分析する議論について、分析視角、知見、課題を正しく読解することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）現代社会をとらえるための視座と方法① ——イントロダクション	事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる（1h）
		事後	コメントペーパー記入（0.5h）、授業内容の復習（2h）、予習・復習スケジュールの割当検討（1h）
第 2 週	（第 2・3 講）現代社会をとらえるための視座と方法② ——現代社会をめぐる理論と社会学の調査方法	事前	フィードバックコメントの確認（0.5h）、授業タイトル・キーワードの予習（2 h）
		事後	コメントペーパー記入（0.5h）、授業内容の復習（2 h）
第 3 週	（第 4・5 講）地域社会とコミュニティの変容 ——地域開発、住民組織、ネットワーク、 まちづくり、バーチャル・コミュニティ	事前	フィードバックコメントの確認（0.5h）、授業タイトル・キーワードの予習（2 h）
		事後	コメントペーパー記入（0.5h）、授業内容の復習（2h）
第 4 週	（第 6・7 講）少子高齢化の進展と福祉国家 ——家族の戦後体制、少子化対策、資源の分配、 ボランティア・NPO	事前	フィードバックコメントの確認（0.5h）、授業タイトル・キーワードの予習（2h）
		事後	コメントペーパー記入（0.5h）、授業内容の復習（2h）
第 5 週	（第 8・9 講）グローバル化する都市と移動 ——マクドナルド化・空間の再編、 観光のまなざし、世界都市仮説	事前	フィードバックコメントの確認（0.5h）、授業タイトル・キーワードの予習（2h）
		事後	コメントペーパー記入（0.5h）、授業内容の復習（2h）、課題発表文献の選択（2h）
第 6 週	（第 10・11 講）知識・情報とメディア、階層 ——文化資本、知識社会、格差社会	事前	フィードバックコメントの確認（0.5h）、授業タイトル・キーワードの予習（2h）
		事後	コメントペーパー記入（0.5h）、授業内容の復習（2h）、課題発表文献の精読（6h）

第 7 週	（第 12・13 講）政治不信と民主主義 ——政治意識、政治参加、新しい社会運動、分極化、アイデンティティ、熟議	事前	フィードバックコメントの確認（0.5h）、授業タイトル・キーワードの予習（2h）
		事後	コメントペーパー記入（0.5h）、授業内容の復習（2h）
第 8 週	（第 14・15 講）現代社会論を読む——課題発表と討論	事前	フィードバックコメントの確認（0.5h）、課題発表準備（12h）
		事後	コメントペーパー（発表へのリアクション含む）記入（3h）、授業内容の復習（2h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は担当教員による社会学理論や方法の講義に加え、履修者によるディスカッションを取り入れる形で進める。本授業は、第 2 週目以降、2 講連続で実施する。

第 2 週から第 7 週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義（話題提供）、ディスカッション（演習課題）で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーにはフィードバックを行い、次週の授業冒頭のふりかえりの際にいくつかを紹介する。

第 8 週については、各履修者の関心に近い現代社会についての論文を取り上げ、その分析視角・知見・課題等を発表し、討論をおこなうかたちで進行する。

教科書・参考書

【教科書】指定しない

【参考書】以下の文献を参照。また、それ以外にも初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。

本田由紀編（2015）『現代社会論』有斐閣.

長谷川公一ほか（2019）『社会学 新版』有斐閣.

アンソニー・ギデンズ, 松尾精文・成富正信訳（2006＝2009）『社会学 第五版』而立書房.

アルベルト・メルッチ, 新原道信・長谷川啓介・鈴木鉄忠訳（1996＝2008）『プレイング・セルフ——惑星社会における人間と意味』ハーベスト社.

評価方法

コメントペーパーの内容	30%
ディスカッションへの貢献	30%
第 8 週の課題発表の内容	40%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。

＊担当教員の連絡先：大谷晃（akira.otani@sentankyo.ac.jp）

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	−	−

授業名称	実践研究法 I			科目コード	CDPA0113L
担当教員	オムニバス	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は，履修者が社会構想大学院大学の専門職学位課程において，修士論文相当の最終成果物を作成するにあたり必要となるアカデミック・スキルズを身につけることにある。社会人学生が大学院において効率的に実りある学びを得るためには，これまでに蓄積された学術知にアクセスし，それらを読み解き，自ら新たな知を生み出し，他者に伝達するための一連の能力を高い水準で有することが必要不可欠である。

本授業ではまず「研究」や「調査」とはいかなる営みか整理し，それらを支える思考法を学び，そのうえで文献調査の技法や，アカデミックコンテンツを読み・書き・伝える能力を身につけていく。併せて，適切な倫理性を備えた研究計画を立案するための基礎的な考え方を習得する。

到達目標

① 履修者が「研究」や「調査」といった概念や，その前提となる思考法・倫理について説明できるようになる。
② 履修者が書籍や論文といった学術的リソースを利活用できるようになる。
③ 履修者がアカデミックなコンテンツを読み・書き・伝える能力を身につける。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講／橋本純次）研究とはなにか，調査とはなにか：オリエンテーション	事前	シラバスの精読（0.5h） 授業での質問事項の検討（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 指定された文献の精読（2h）
第 2 週	（第 2・3 講／橋本純次）論理的思考とデザイン思考：高度専門職業人の基礎となる世界の捉え方	事前	授業資料の確認（1.5h） 課題への取り組み（2h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 指定された文献の精読（2h）
第 3 週	（第 4・5 講／齋藤崇徳）文献調査の技法：学術情報を体系的に検索する方法	事前	授業資料の確認（1.5h） 課題への取り組み（2h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 指定された文献の精読（2h）
第 4 週	（第 6・7 講／齋藤崇徳）クリティカル・リーディングの基礎と実践：文献レビューのための読書法	事前	授業資料の確認（1.5h） 課題への取り組み（5h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 指定された文献の精読（2h）
第 5 週	（第 8・9 講／大谷晃）アカデミック・ライティングの基礎	事前	授業資料の確認（1.5h） 課題への取り組み（2h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 指定された文献の精読（2h）
第 6 週	（第 10・11 講／全教員）アカデミック・ライティング演習：パラグラフ・ライティングの実践	事前	授業資料の確認（1.5h） 課題への取り組み（6h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 指定された文献の精読（2h）
第 7 週	（第 12・13 講／橋本純次）アカデミック・プレゼンテーションの基礎と実践：研究内容を伝えるコミュニケーション	事前	授業資料の確認（1.5h） 課題への取り組み（5h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） ディスカッションの復習（2h）

第 8 週	（第 14・15 講／富井久義）研究計画と研究倫理：調査依頼状にあらわれるリサーチ・デザインと調査倫理	事前	授業資料の確認（1.5h） 課題への取り組み（2h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内課題のブラッシュアップ（2h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため，本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。併せて，アカデミックな方法論を履修者全体に内在化する観点から，いくつかのテーマでは課題へのフィードバックを全体で共有しながら授業を進める。

教科書・参考書

参考書として以下 3 点を挙げる。履修者の状況に応じていずれかを手元に置くことが望ましい。

- 戸田山和久（2022）『最新版 論文の教室』, NHK 出版.
- 鹿島茂（2003）『勝つための論文の書き方』，文藝春秋.
- ウェイン・ブース（2018）『リサーチの技法』，ソシム.

評価方法

① 毎回の授業でのディスカッションへの貢献とコメントペーパーの提出

② 各回で課せられる課題の提出

③ 最終課題の提出

以上，①（40%），②（30%），③（30%）の総合評価により判定する。

その他の重要事項

論文等，アカデミックな文章の執筆経験がない学生のほか，そうした技術を改めて習得したいと考える学生に履修を推奨する。各教員のオフィスアワーおよび予約の方法については初回の授業で説明する。

本授業はすべての回をオンラインで実施する。

成績評価教員：橋本純次

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	−	−	−	○

授業名称	実践研究法Ⅱ			科目コード	PEPA1107S
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、社会調査の発想法や具体的な方法論を理解し、みずから有する課題を探究するにあたって適切な調査方法を選択し、調査の設計・実施・集計・分析・解釈・報告ができるようになることである。

具体的には、研究科所属大学院生を対象とした調査票調査である学習時間調査と、修了生を対象とした大学院での学習効果にかんする聞き取り調査を題材に取り上げ、データの分析と調査項目の改善案を検討する演習を取り入れることで、社会調査の手法を実践的に習得することをめざす。

到達目標

① 社会調査の主要なねらいや発想法を理解し、調査にもとづく報告書や論文を適切に読み解くことができる。
② 社会調査の分析・解釈・報告を適切な手法をもちいておこなうことができる。
③ 社会調査の設計・実施・集計を適切な手法をもちいておこなうことができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）社会調査とはなにか・社会調査の設計 ——社会調査、調査倫理、調査企画と設計、調査目的と資源	事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる（1h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、事前・事後学習スケジュールの割当検討（4h）
第 2 週	（第 2・3 講）調査報告の方法論、学習時間調査・修了生調査 ——IMRAD、学習時間調査、卒業生調査	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（2h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、データ読み込み（4h）
第 3 週	（第 4・5 講）質的データ分析の方法論 ——コーディング、事例-コードマトリクス、概念モデル	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（2h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、データ分析の試行（4h）
第 4 週	（第 6・7 講）量的データ分析の方法論① 集計表の作成と分析・統計的検定の発想法 ——既述統計量、度数分布表、クロス集計表、統計的検定	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（2h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、データ分析の試行（4h）
第 5 週	（第 8・9 講）量的データ分析の方法論② 統計的検定・多変量解析の方法 ——カイ二乗検定、平均の差の検定、相関係数、多変量解析	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（2h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、データ分析の試行（4h）
第 6 週	（第 10・11 講）調査データの生成・整理をめぐる方法論 ——ローデータ、エディティング、クリーニング	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（2h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、グループでの調査データの分析（6h）
第 7 週	（第 12・13 講）社会調査の実践① 学習時間調査・修了生調査から得られる知見の提示	事前	フィードバックコメントの確認、グループでの発表準備（5h）
		事後	コメントペーパー記入、グループでの調査データの分析（4h）
第 8 週	（第 14・15 講）社会調査の実践② 学習時間調査・修了生調査の次回案の提案	事前	フィードバックコメントの確認、グループでの発表準備（5h）
		事後	コメントペーパー記入、最終レポート課題の執筆、最終レポート課題相互レビュー（9h）

授業の進め方と方法

本授業は、第 2 週目以降、2 講連続で実施する。

社会調査の発想法や方法論についての講義と、調査票調査または聞き取り調査の分析に取り組む演習の双方を取り入れて授業を進める。授業外に個人あるいはグループで課題に取り組むことも求められる。

毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。

授業で取り組んだ調査結果をもとにした、大学院での学習にかんする考察と、調査項目の改善案を検討するグループ発表・最終レポート課題を課す。最終レポート課題は提出期限後、履修者が相互に閲覧可能な期間を設ける。

教科書・参考書

【教科書】指定しない

【参考書】

- 社会調査協会，2014,『社会調査事典』丸善出版.
- 佐藤郁哉，2015,『社会調査の考え方［上・下］』東京大学出版会.
- 大谷信介ほか編，2023,『最新・社会調査へのアプローチ――論理と方法』ミネルヴァ書房.
- 佐藤郁哉，2008,『質的データ分析法――原理・方法・実践』新曜社.

評価方法

- コメントペーパーの内容　20%
- 演習課題への貢献　40%
- 最終レポート課題の内容　40%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③
	－	○	－

授業名称	教育社会学			科目コード	PEPB1201L
担当教員	齋藤 崇徳	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	土 A（3・4 限）
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

「教育」は、誰もが自らの経験に基づき語ることのできるテーマである。しかしながら、社会学の視点で教育をとらえてみると、そこには様々な「社会的」な要素が埋め込まれていることが見えてくる。すなわち、社会学的に教育を考察することで、教育に関わる諸事象をより客観的・複合的に解き明かすことができるとともに、教育というレンズを通して私たちを取り巻く「社会」についても理解を深めることができるのである。本授業では、履修者が教育社会学の中核的な理論や手法を習得し、教育・社会を新たな視点から読み解き、関連する様々な課題を解決していけるようになることを目指す。

到達目標

① 履修者が、教育社会学の基本的な理論・手法を理解し、他者に説明することができる。
② 履修者の関心のある様々な教育事象・社会現象について説明することができる。
③ 履修者が抱える、また関心のある教育課題を社会学的に構造化し、その解決策を具体化できる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）イントロダクション 本授業の計画を説明するとともに、教育社会学の学問的性格、近代社会における教育のあり方について講義する。	事前	授業資料の予習（2h） 参考書の確認（3h）
		事後	授業の復習（2h） ミニットペーパーの提出（1h）
第 2 週	（第 2 講）学校の社会学／（第 3 講）カリキュラムの社会学 近代学校の性格および学校社会学の理論について理解するとともに、カリキュラムの社会学的分析について学習する。	事前	授業資料の予習（1h） 指定論文の確認（5h）
		事後	授業の復習（1h） ミニットペーパーの提出（1h）
第 3 週	（第 4 講）家族と教育の社会学／ （第 5 講）性別と教育の社会学 近代家族と教育の関係、性別と教育の関係について学習する。	事前	授業資料の予習（1h） 指定論文の確認（5h）
		事後	授業の復習（1h） ミニットペーパーの提出（1h）
第 4 週	（第 6 講）差別と教育／（第 7 講）ナショナリティと教育 社会的差別と教育について学習した上で、ナショナリティ、国民国家と教育の関係について理解する。	事前	授業資料の予習（1h） 指定論文の確認（5h）
		事後	授業の復習（1h） ミニットペーパーの提出（1h）
第 5 週	（第 8 講）社会経済的地位と教育／ （第 9 講）学歴・資格・選抜 社会学的な分析において欠かせない地位と教育の関係、また、これに関連するテーマである学歴・資格・選抜について理解する。	事前	授業資料の予習（1h） 指定論文の確認（5h）
		事後	授業の復習（1h） ミニットペーパーの提出（1h）
第 6 週	（第 10 講）経済と教育の社会学／ （第 11 講）高等教育の社会学 教育経済学的な視座と社会学の関係について検討し、これと実質的に関連するテーマである高等教育の社会学的分析につ	事前	授業資料の予習（1h） 指定論文の確認（5h）
		事後	授業の復習（1h） ミニットペーパーの提出（1h）

	いて学習する。		
第 7 週	（第 12 講）教育問題の社会学／（第 13 講）教育改革の社会学 社会問題の社会学の視点から教育問題を分析するとともに、そして教育改革を社会学的に分析する視座を検討する。	事前	授業資料の予習（1h） 指定論文の確認（5h）
		事後	授業の復習（1h） ミニットペーパーの提出（1h）
第 8 週	（第 14 講・第 15 講）教育社会学に関するプレゼンテーション 履修者がそれぞれの関心から教育課題についての教育社会学的な視点に基づくプレゼンテーションを行う。	事前	プレゼンテーションの準備（5h）
		事後	授業の復習（1h） ミニットペーパーの提出（2h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するために、本授業は毎講、特定のテーマを設定した上で、以下のように進めていく。（1）毎週、履修者は事前に指定した論文を確認する。（2）授業では、教育社会学の理論や近年の研究動向および、事前に指定した論文について講義形式で解説する。（3）そのうえで、履修者同士でディスカッションを行う。（4）授業後にミニットペーパーを提出する。

さらに第 8 週には、それまでに習得した教育社会学の知見を活かし、各履修者が特に関心を持つ教育課題を構造化し、解決策（に関する仮説）を具体化したうえで、プレゼンテーションする機会を設ける。

教科書・参考書

教科書は指定しない。参考書として、以下に主要な教科書等を示す。

- 相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子（2023）『これからの教育社会学』，有斐閣.
- 苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗（2023）『新・教育の社会学：〈常識〉の問い方，見直し方』，有斐閣.
- 酒井朗・多賀太・中村高康編（2012）『よくわかる教育社会学』，ミネルヴァ書房.
- 中村高康・松岡亮二編（2021）『現場で使える教育社会学：教職のための「教育格差」入門』，ミネルヴァ書房.
- 日本教育社会学会編（2018）『教育社会学事典』丸善.

評価方法

① ミニットペーパーの内容（30%）

② ディスカッションへの貢献（30%）

③ 第 8 週に実施するプレゼンテーションの内容・方法（40%）

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。

2023 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	－	－

授業名称	産業社会学			科目コード	SDPB1203L
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	木 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会の産業構造の変化と、その変化への企業や労働者の対応を、産業・労働社会学と関連する理論に基づいて明らかにすることをつうじて、履修者が取り組む社会課題や経営課題が産業社会においてどのような位置づけを有するのかを検討することにある。

現代社会において求められる社会構想のありかたを考え、対象となる人びとの行動変容を効果的にうながすためには、人びとの活躍の場となる産業社会のありかたを理解することや、産業社会を生きる人びとの置かれる状況や主観的意味世界を理解することが大きなヒントとなる。

そこで本授業では、産業や労働に関連する多様なテーマについて、産業・労働社会学と関連する理論的視座から分析を加えることで、現代の産業社会についての理解を深めることをめざす。

到達目標

① 現代の産業社会の主要な特徴を理解し、説明することができる。
② みずからが手がける社会構想の位置づけを、産業・労働社会学の概念をもちいて説明することができる。
③ みずからが手がける社会構想にかんする取り組みについて、その意義を、企業・労働者・社会それぞれの立場から説明することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）産業社会学とはなにか（イントロダクション） ——産業社会学、労働社会学	事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる（1h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、予習・復習スケジュールの割当検討（4h）
第 2 週	（第 2・3 講）産業構造の変化と社会変動論 ——産業構造の変動、社会変動論、脱産業社会論	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）
第 3 週	（第 4・5 講）技術革新と仕事・職場の変化 ——技術革新、疎外された労働、ブルシット・ジョブ	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）
第 4 週	（第 6・7 講）雇用・処遇システム ——職業分類、ジョブ型雇用、日本型雇用システム	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）
第 5 週	（第 8・9 講）能力開発とキャリア ——新規学卒採用、職業能力開発、キャリア	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）
第 6 週	（第 10・11 講）労使関係と企業コミュニティ ——労使関係、労働組合、企業コミュニティ	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）
第 7 週	（第 12・13 講）雇用の流動化と働きかたの多様化 ——雇用の柔軟性、非典型雇用、多様な働きかた	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習（3h）

第 8 週	（第 14・15 講）労働力移動と離職・転職・失業 ――労働力移動、離職・転職・失業、雇用のミスマッチ	事前	フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習（3h）
		事後	コメントペーパー記入、授業内容の復習、最終レポート課題への取り組み・執筆、最終レポート課題相互レビュー（16h）

授業の進め方と方法

本授業は、第 2 週目以降、2 講連続で実施する。

第 2 週から第 8 週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義（話題提供）、ディスカッション（演習課題）で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。

このほか、自身の研究課題について産業社会学の観点から考察することを求める最終レポート課題を課す。なお、最終レポート課題は提出期限後、履修者が相互に閲覧可能な期間を設ける。

教科書・参考書

【教科書】指定しない

【参考書】

- 松永伸太朗・園田薫・中川宗人編，2022,『21 世紀の産業・労働社会学』ナカニシヤ出版.
- 小川慎一ほか，2015,『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』有斐閣.
- 佐藤博樹・佐藤厚編，2012,『仕事の社会学――変貌する働き方 改訂版』有斐閣.
- 上林千恵子編，2012,『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房.

評価方法

- コメントペーパーの内容　30%
- ディスカッションへの貢献　30%
- 最終レポート課題の内容　40%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③
	○	−	−

授業名称	組織論			科目コード	PEPB1203S
担当教員	田原 祐子	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	月 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、組織というものの構成要素や構造的課題を理解することで、人材・組織・社会との関係性を理解し、再考することである。組織とそれを構成する人材の持続的な成長を促す観点に軸足をおいて、「どのような組織デザインが望ましいのか」「理念や社内外のステークホルダーとの関係性をどのように設計することが望ましいのか」などの問いに応えられるよう授業を進行する。

「組織は人材の集合体」であり、人材を扱う担当者は、組織の本質やジレンマを俯瞰して理解する必要がある。組織とは何か、ガバナンスの意義は何か、組織は何のために存在しているのか等の、本質的な問いに向き合うことで、組織と社会、組織と人材の関係性を整理できるようになることを目指す。

本授業では、社会全体が大きな変化を迎えている、不確実性の時代における組織のあり方について、さまざまな事例、および、組織に関連する理論・知見を参照しつつ検討していく。

到達目標

④ 履修者が、組織の可能性と課題を分析する基本的な視点を獲得する。
⑤ 履修者が、組織と社会の関係性を、人材・組織・社会という視点で体系的に考察することができる。
⑥ 履修者が、組織を設計する際、重視すべき点について、自らの考えを述べることができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）ガイダンス:「組織論の枠組み」 組織とは何か、組織と組織論、ビュロクラシー、権限と権威、組織均衡、組織のダイナミックス、組織化、組織慣性、制度	事前	シラバスの精読（0.5h） 授業での質問事項の検討（0.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 2 週	（第 2 講）（第 3 講）「人材」視点からの考察 感情と環境　モチベーション、行動科学、コミットメント、目標管理（MBO）、キャリア、ストレス、コーピング	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書該当部分の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 3 週	（第 4 講）（第 5 講）人材の集合体「集団」視点からの考察 グループ・ダイナミックス、リーダーシップ、役割分化、アントレプレナー・意思決定	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書該当部分の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 4 週	（第 6 講）（第 7 講）「組織」視点からの考察 組織デザイン、組織の形態、組織文化、組織戦略、コアコンピタンス、戦略ポジション	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書該当部分の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 5 週	（第 8 講）（第 9 講）「組織変革」視点からの考察 チェンジマネジメント、コンフリクトマネジメント、学習する組織、システム思考、心理的安全性	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書該当部分の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 6 週	（第 10 講）（第 11 講）「人的資源・人的資本」視点からの考察 エンパワーメント、メンタリングとコーチング、ジョブデザイン、アカウンタビリティ、ヒューマンエラー、DE&I	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書該当部分の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）

第 7 週	（第 12 講）（第 13 講）「ガバナンス」視点からの考察 組織のアーキテクチャー、ガバナンスとマネジメント、ビジネスモデル、パーパス経営、リスクマネジメント、最終発表準備	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書該当部分の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h） 最終発表の計画立案（5h）
第 8 週	（第 14 講）（第 15 講）発表・プレゼンテーション これまで学修した内容を活用し、履修者が所属する組織等を題材とした組織課題の解決、および、「理想的な組織」実現のためのアプローチ、講評～総合ディスカッション	事前	最終発表の準備（2h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（1h） 最終発表フィードバックの復習（1h） 最終レポート課題（4h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッション、グループワークを中心に進行する。また、履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係し、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてミニットペーパーに記入し、毎回の授業後の課題として提出する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。参考書は下記の通り。

田尾雅夫（編著）,2010,『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房. その他、授業中に適宜参考図書を紹介する。

評価方法

⑤ ミニットペーパーの提出（15%）：毎回の授業後、履修者の意見と、そう考える理由を記す。

⑥ ディスカッション・グループワークへの貢献度（25%）

⑦ 最終プレゼンテーション（40%）

⑧ 最終レポート課題（800 字）（20%）

その他の重要事項

遅刻や欠席をする場合は、学内の LMS（学習管理システム）またはメール等を通じて事前に連絡すること。

本授業に関する疑問点や不明点については、担当教員まで問い合わせること。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○		○	

授業名称	知識社会学			科目コード	PEPB1204L
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、社会のなかで知識がいかに捉えているか／知識がいかに使われているのかを探究する知識社会学について理解し、また知識社会学の知見を実社会で活用することである。知識にかかわる分析手法のいくつかをトピック――科学社会学や言説分析などの周辺領域や応用領域――として扱うことで、知識基盤社会のなかでの知識の役割を再検討したい。

到達目標

① 履修者が知識社会学の基本的な理論や概念を理解し、自らの言葉で知識社会学を他者に対して説明することができる。
② 履修者が知識社会学の理論を用いて知識の相対性を理解し、知識社会学で用いる概念を一つ以上もちいてそれを自らの言葉で説明することができる。
③ 履修者が知識社会学やその周辺領域の理論や概念を理解し、自らの知識／研究対象を社会と関連づけて説明することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	**（第 1 講）*Positioning for the Journey*** 本授業の探究の旅路を深めるとともに、知識社会学の基本的な考え方について概観する。	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h）
第 2 週	**（第 2 講／第 3 講）知識社会学を知識社会学する** 知識社会学がどのような社会的背景のもとで成立したのかを概説することで知識と社会の関係性を考究する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）
第 3 週	**（第 4 講／第 5 講）知識社会学の理論と系譜** 知識社会学の理論と系譜について考究する。とくにマルクス、マンハイム、マートンを中心に検討する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）
第 4 週	**（第 6 講／第 7 講）社会構成主義** 社会構成主義について概観し、知識の社会構成主義について考究する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 総括討論に向けた資料探索（1h）
第 5 週	**（第 8 講／第 9 講）科学社会学** 知識の一つの類型として科学を捉え、科学的知識の社会学／科学者集団の社会学について考究する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 総括討論に向けた資料探索（1h）
第 6 週	**（第 10 講／第 11 講）知の考古学** 人文社会科学の知識をいかに分析するのかを考究する。とくに、知の考古学などの手法について議論をする。	事前	事前配布資料を読む（3h） 総括討論に向けた資料探索（2h）
		事後	総括討論に向けた資料作成（2h） コメントペーパーの提出（1h）
第 7 週	**（第 12 講／第 13 講）リフレクション** 知識の反省理論について考究する。とくに社会システム論の観点から知識を分析する新たな理論枠組みについて議論する。	事前	事前配布資料を読む（3h） 総括討論に向けた資料作成（3h）
		事後	総括討論に向けた資料作成（3h） コメントペーパーの提出（1h）

第 8 週	**（第 14 講／第 15 講）総括討論** 「知識社会学」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。	事前	総括討論に向けた資料作成（10h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90 分×２コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。

※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

それぞれの授業で、Lecture Notes を配布する。

以下、参考図書を列記する。

カール・マンハイム著／鈴木二郎訳（1968）『イデオロギーとユートピア』、未来社。

ロバート・K・マートン（1961）『社会理論と社会構造』、みすず書房。

ピーター・L.バーガー、トーマス・ルックマン（2003）『現実の社会的構成――知識社会学論考』、新曜社。

ケネス・J・ガーゲン（2020）『関係からはじまる――社会構成主義がひらく人間観』、ナカニシヤ出版。

金森修（2014）『新装版　サイエンス・ウォーズ』、東京大学出版会。

ミシェル・フーコー（2020）『言葉と物〈新装版〉――人文科学の考古学』、新潮社。

ニクラス・ルーマン（2009）『社会の科学１・２』、放送大学出版局。

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるように換算する。

60 点を超えるものに単位を付与する。

１．授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」（35%）

　本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。

２．最終授業回でのディスカッションならびに発表（65%）

　本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。

その他の重要事項

コンタクトならびにオフィスアワーについて

○メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること（相談内容については問わない）。

○授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること（予約優先）。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	－	－

授業名称	認知学習論			科目コード	PEPB2206L
担当教員	石﨑 友規	実施方法	一部オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が人間の認知メカニズムについての理解を基礎として、知識や技能の効果的な習得のためにいかなる手段が求められるか、さらに、そうした手段に適応する形での実践知の体系化はどうすれば可能か、といった事柄について構想する能力を身につけることにある。本授業では、教育機関におけるフォーマルな学習のみならず、あらゆる知識や技能を身につける過程の総体たる「学習」について、教授-学習論研究の知見に基づき多種多様な場面における認知メカニズムを検討することにより、現代社会における適切な学習のあり方を検討する。

到達目標

① 履修者が、人間の認知メカニズムの基礎について説明することができるようになる。
② 履修者が、認知学習論とその周辺領域について説明することができるようになる。
③ 履修者が、実際に成立する多様な学習について学習科学の知見に基づき分析することができるようになる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）オリエンテーション 本授業全体の授業計画を共有するとともに、「学習」の意味や本授業が扱う範囲・立場について理解する。	事前	シラバスの精読（0.5h）
		事後	授業内容の再整理（1h） 紹介された参考書の概観（2h） ミニットペーパーの提出（1h）
第 2 週	（第 2 講）認知と思考 「認知」と「思考」の関係や「認知科学」の研究が生まれた背景を理解する。関連して、人工知能による学習の概要をつかむ。 （第 3 講）受講者による「学習」の省察 ディスカッションを通して、自身の「学習」をとらえなおす。	事前	授業資料の確認（1.5h）
		事後	ディスカッションの復習（2h） 授業内容の再整理（2h） ミニットペーパーの提出（1h）
第 3 週	（第 4・5 講）学びの諸理論と認知学習論の関係 古典的な学習論から現代的な学習論に至るまでの様々な理論を概観し、「学習」を再定義する。	事前	授業資料の確認（1.5h）
		事後	授業内容の再整理（3h） ミニットペーパーの提出（1h）
第 4 週	（第 6・7 講）概念学習のプロセス 「概念」の定義を整理するとともに、典型的な誤概念とその特徴、概念学習のとらえ方について理解する。	事前	授業資料の確認（1.5h）
		事後	授業内容の再整理（3h） ミニットペーパーの提出（1h）
第 5 週	（第 8 講）概念学習プログラムの作成演習 第 4 週までの内容をもとに学習プログラム案を作成してディスカッションを行い、学習論の理解を深める。 （第 9 講）熟達化のプロセス（1）熟達者は何を獲得しているか 熟達者は何をどのように見ているのか、それをどのように身に付けていくのかを理解する。	事前	ディスカッションの準備（2h） 授業資料の確認（1.5h）
		事後	ディスカッションの復習（1h） 授業内容の再整理（2h） ミニットペーパーの提出（1h）

第 6 週	（第 10 講）熟達化のプロセス（2）認知的徒弟制 認知的徒弟制の枠組みとその各項目の要点について理解する。 （第 11 講）ことばの学習 母国語学習と外国語学習の特徴とその違いを取り上げ、認知学習の具体像をつかむ。	事前	授業資料の確認（1.5h）
		事後	授業内容の再整理（3h） ミニットペーパーの提出（1h）
第 7 週	（第 12・13 講）認知学習論からみたリカレント教育 社会人の認知学習として、メタ認知学習論を手掛かりに、受講者自身の学習を例にその特性や体系化について議論する。	事前	授業資料の確認（1.5h）
		事後	ディスカッションの復習（1h） 授業内容の再整理（2h） ミニットペーパーの提出（1h）
第 8 週	（第 14・15 講）人は何を学べばよいのか 自己調整学習論を概観するとともに、本授業全体を振り返り、現代的な学習のあり方について総合的な議論を行う。	事前	授業資料の確認（1.5h）
		事後	授業内容の再整理（2h） ミニットペーパーの提出（1h） 最終レポート課題（15h）

授業の進め方と方法

本授業は、第 2 週目以降、90 分×2 コマ連続の隔週で実施する。
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行し、テーマに応じてグループワーク等を取り入れる。また、履修者による学習の振り返りを重視し、毎回のミニットペーパーでの感想や質問等を次回の授業冒頭で取り上げ、教員からコメントする。

教科書・参考書

教科書：
・今井むつみ・野島久雄・岡田浩之（2012）『新・人が学ぶということ：認知学習論の視点から』，北樹出版
参考書：
・大島純・千代西尾祐司編（2019）『学習科学ガイドブック』，北大路書房
・全米科学・工学・医学アカデミー編，秋田喜代美・一柳智紀・坂本篤史監訳（2024）『人はいかに学ぶのか―授業を変える学習科学の新たな挑戦』，北大路書房
その他の参考文献については各回の授業の中で提示する。

評価方法

・ミニットペーパーの内容（30%）
・ディスカッションへの貢献度（20%）※やむを得ずリアルタイムで出席できない場合は代替課題を課す。
・最終レポート課題（50%）

その他の重要事項

オフィスアワーおよび予約方法については、初回の授業で説明する。毎回の授業に対する質問は基本的にはミニットペーパーに記入することとなるが、個別の質問や相談等には、初回の授業で説明する方法にて対応する。
本授業は、第１～６週をハイフレックス、第７～８週をオンラインで実施する。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	－	○	○	－

授業名称	教育サービスの現状と未来			科目コード	PEPB1212L
担当教員	中川 哲	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	水 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、日本の行政や団体等が意図的計画的に行う学校教育と、教育産業が提供する教育や教材、サービスの全貌を捉え、教育サービスの各カテゴリの現状を把握し、教育サービスの全体像についての知識を身に付ける。

授業では、学校教育と学校教育を補完する教材や各種サービス、学校外教育について、それぞれの現状と問題を分析し、今後の在り方につて検討する。受講者は、各種のプログラムを把握し、教育産業の未来について提案できる基盤を築くことを目指す。この講義は、将来、教育行政や教育業界に参入する企業のコンサルタントやアドバイザーをめざす授業者にとって、そのキャリアを形成する上で不可欠な知識を提供する。

到達目標

1　履修者が、教育サービスの現状について網羅的に説明することができる。

2　履修者が、現状の教育サービスの課題について説明することができる。

3　履修者が、時代の変化に対応して、今後求められる教育サービスについて自らの考えを述べることができるようになる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）オリエンテーション（本授業の目的・到達点・授業の進め方、教育サービスの全体像把握）	事前	シラバスの精読（1h） 到達目標についての自己設定（2h）
		事後	リフレクション(2h)
第 2 週	（第 2・3 講）： わが国の学校教育と社会教育の変遷 キーワード：総合教育政策、施策の柱、施策、事業	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 3 週	（第 4・5 講）： 初等中等教育における GIGA スクール構想 キーワード：SMAR モデル、個別最適・協働的な学び	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 4 週	（第 6・7 講）：教育データ利活用 キーワード：スキル、コンピテンシー、可視化	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 5 週	（第 8・9 講）：AI の理解と教育利用 キーワード：生成 AI	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 6 週	（第 10・11 講）：特色ある学校とサービス キーワード：通信制学校、コミュニティスクール、MOOC	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 7 週	（第 12・13 講）：人材育成と人的資本主義 キーワード：リスキリング、ジョブ型雇用	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 8 週	（第 14・15 講）課題の発表と全体ディスカッション・講評～	事前	発表準備(5h)

	授業総括	事後	リフレクション(2h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は授業範囲の内容を各自が事前学習することが求められる。また、第 2－7 週の授業では、受講者が持ち回りで授業範囲について発表を行い、全参加者でディスカッションを行う。また、各自、授業についてのリフレクションを行い、授業終了後に提出する。
第 8 週の授業では、第 7 週までに学んだ内容をもとに課題設定と考察を行い、まとめ発表を行うものとする。
なお、各会の講義内容については、受講者の既有知識や社会の情勢変化に対応して変更することがある。

教科書・参考書

教科書は使用しない。
参考書として、「月刊先端教育」（2022 年 3 月号）学校法人先端教育機構
ほか参考となる行政文書や書籍等については、毎回の授業で適宜提示する。

評価方法

・第 2 週～7 週の授業での発表資料準備とその資料を用いた発表（25%）
・第 2 週～7 週の授業でのディスカッションへ参加や発言内容などの貢献度（25%）
・第 2 週～7 週の授業終了後のリフレクション（25%）
・第 8 週の授業での発表内容（25%）

その他の重要事項

遅刻や欠席をする場合は、学内の LMS（学習管理システム）などを通じて事前に連絡すること。
担当教員のオフィスアワーおよび予約方法については、初回の授業で説明する。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	－	－	○	－

授業名称	生涯学習の理論と発展			科目コード	PEPB1214L
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	１・２年次	開講学期	前期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、我が国における生涯学習及び社会教育の本質について理解を深めることである。そのために本授業では、生涯学習ならびに社会教育にかかわる理念・政策・制度及び理論のみならず、それらをとりまく社会や指導者の問題について探究する。

これまでの生涯学習や社会教育に関する研究から、いかに現代社会に求められる生涯学習・社会教育へのイノベーションを起こすことができるのかを履修者とともに検討していきたい。

本授業は、「社会教育主事講習等規程（昭和二六年文部省令第一二号)」にある「生涯学習概論」の授業に相当以上の科目である。

到達目標

④ 履修者がこれまでの生涯学習研究ならびに社会教育研究の知見を踏まえて、生涯学習・社会教育の定義や社会における位置づけを生涯学習論等の基本理論から説明することができる。

⑤ 履修者が生涯学習・社会教育を先導する指導者としての役割を理解し、実践することができる。

⑥ 履修者が社会構造の変化に伴い、適切な生涯学習・社会教育を構想し自身の考えを述べることができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）イントロダクション 学習のなかの生涯学習・社会教育の布置	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h）
第 2 週	（第 2 講）生涯学習論 （第 3 講）社会教育論	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）
第 3 週	（第 4 講）社会教育の系譜 （第 5 講）社会教育・社会教育をとりまく法令と制度	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）
第 4 週	（第 6 講）生涯学習・社会教育の指導者は誰か （第 7 講）社会教育主事・社会教育士とは何か	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 最終課題に向けた資料探索（1h）
第 5 週	（第 8 講）生涯学習・社会教育の理論 （第 9 講）生涯学習・社会教育の学習計画立案論	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 最終課題に向けた資料探索（1h）
第 6 週	（第 10 講）リカレント教育・リスキリング・学び直し１ （第 11 講）リカレント教育・リスキリング・学び直し２	事前	事前配布資料を読む（3h） 最終課題に向けた資料探索（2h）
		事後	最終課題に向けた資料作成（2h） コメントペーパーの提出（1h）
第 7 週	（第 12 講）社会変動と生涯学習・社会教育 （第 13 講）生涯学習社会論・学習社会論	事前	事前配布資料を読む（3h） 最終課題に向けた資料作成（3h）
		事後	最終課題に向けた資料作成（3h） コメントペーパーの提出（1h）
第 8 週	（第 14 講）生涯学習社会の展開	事前	最終課題に向けた資料作成（10h）

	（第 15 講）生涯学習の課題とイノベーション	事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90 分×２コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。

※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

以下に、参考図書を列挙する。

- 生涯学習・社会教育行政研究会 編集（2023）『令和 6 年度版 生涯学習・社会教育行政必携』第一法規。
- 市川昭午・潮木守一 編者（1979）『教育学講座 21 学習社会への道』学習研究社。
- ガート・ビースタ（2014）『民主主義を学習する――教育・生涯学習・シティズンシップ』勁草書房。
- 出相泰裕 編著（2023）『学び直しとリカレント教育』ミネルヴァ書房。
- 香川正弘・鈴木眞理・永井健夫 編（2016）『よくわかる生涯学習 改訂版』ミネルヴァ書房。
- 赤尾勝己 編（2004）『生涯学習理論を学ぶ人のために』世界思想社。

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるように換算する。

60 点を超えるものに単位を付与する。

３．授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」（35%）

本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。

４．最終課題（65%）

本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。

その他の重要事項

本授業科目は、「社会教育主事養成講習」科目である。

詳細のシラバスや参考情報

❖基本的には、本学の LMS（Microsoft Teams）に掲載するので参照すること。

❖授業担当者の Web サイトに、授業科目などに関する情報を掲載する。

コンタクトならびにオフィスアワー

❖メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡すること。〔@r.kawayama〕

❖授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成するので、そちらから予約を取ること。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	－	－

授業名称	生涯学習支援論			科目コード	PEPB1215L
担当教員	大谷 晃	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	１・２年次	開講学期	後期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図ることである。そのため本授業では、学習者をとりまく社会環境の理解や学習者の特性を分析――とりわけ、社会人並びに高齢者に関する支援を検討する――、また学習内容や学習環境の改善についても探究する。

生涯学習は、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習という意味で用いられることから、教育基本法第３条に定められている「自己の人格を磨き，豊かな人生を送ることができるよう，その生涯にわたって，あらゆる機会に，あらゆる場所において学習することができ，その成果を適切に生かすことのできる社会の実現」に資する支援とは何かを本授業では検討する。

本授業は、「社会教育主事講習等規程（昭和二六年文部省令第一二号)」にある「生涯学習支援論」の授業に相当以上の科目である。

到達目標

１　履修者が生涯学習支援の定義や生涯学習の種類など、生涯学習支援に関する基本的知識について説明することができる。

２　履修者が生涯学習支援のための有効な学習プログラムの計画、あるいは学習環境改善の計画を作成することができる。

３　履修者が生涯学習支援の現状を分析し、課題解決策について具体的に述べることができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第1講）イントロダクション	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h）
第 2 週	（第2講）知識基盤社会と学習組織論 （第3講）学習者支援論	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）
第 3 週	（第4講）学習者理解１――生涯発達論 （第5講）学習者理解２――学習ニーズ論	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）
第 4 週	（第6講）成人学習論１――学習支援者の教育学 （第7講）成人学習論２――成人の特性	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 最終課題に向けた資料探索（1h）
第 5 週	（第8講）教育老年学１――教育老年学とは／教育老年学理論 （第9講）教育老年学２――高齢社会の学習	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 最終課題に向けた資料探索（1h）
第 6 週	（第10講）学習内容編成論１――学習内容編成と学習課題 （第11講）学習内容編成論２――学習プログラム開発論	事前	事前配布資料を読む（3h） 最終課題に向けた資料探索（2h）
		事後	最終課題に向けた資料作成（2h） コメントペーパーの提出（1h）
第 7 週	（第12講）テクノロジー変化と学習	事前	事前配布資料を読む（3h） 最終課題に向けた資料作成（3h）

	（第13講）ネットワークのなかの学習	事後	最終課題に向けた資料作成（3h） コメントペーパーの提出（1h）
第 8 週	（第14講）ナラティブと暗黙知・身体知	事前	最終課題に向けた資料作成（10h）
	（第15講）イノベーティブな学習環境の形成	事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90 分×２コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。

※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

以下、参考図書を列記する。

- 生涯学習・社会教育行政研究会 編集（2023）『令和 6 年度版 生涯学習・社会教育行政必携』第一法規。
- 堀薫夫（2022）『教育老年学』放送大学教育振興会。
- 渡邊洋子（2002）『生涯学習時代の成人教育学――学習者支援へのアドボカシー』明石書店。
- 清國祐二（2020）『生涯学習支援論』ぎょうせい。
- 香川正弘・鈴木眞理・永井健夫 編（2016）『よくわかる生涯学習 改訂版』ミネルヴァ書房。

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるように換算する。

60 点を超えるものに単位を付与する。

５．授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」（35%）

本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。

６．最終課題（65%）

本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。

その他の重要事項

本授業科目は、「社会教育主事養成講習」科目である。

詳細のシラバスや参考情報

❖基本的には、本学の LMS（Microsoft Teams）に掲載するので参照すること。

❖授業担当者の Web サイトに、授業科目などに関する情報を掲載する。

コンタクトならびにオフィスアワー

❖メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡すること。〔@r.kawayama〕

❖授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成するので、そちらから予約を取ること。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	―	―

授業名称	社会教育経営論			科目コード	PEPB0216L
担当教員	荒木貴之	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、多様な主体と連携・協働を図りながら、自治体やさまざまなコミュニティにおける学びを基盤とした自律的・持続的な活動の促進に資する社会教育の専門性を有する社会教育人材として、社会教育事業を構想し、実現するための知識及び技能の習得を図る。

到達目標

① 履修者が、さまざまなコミュニティにおける、学びを基盤とした自律的・持続的な活動の促進に資するための専門性を高めることができる。

② 履修者が、学びを基盤とした社会教育活動をオーガナイズするための専門性を高めることができる。

③ 履修者が、社会教育事業を構想し、実現することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）社会教育経営論の目的と視点 社会教育経営論の目的と視点について解説する。	事前	社会関係資本に関するリサーチワーク（3h）
		事後	人的資本主義に関する検討と相互レビュー（2h）
第 2 週	（第 2 講）社会教育経営論の理論 1 （第 3 講）社会教育経営論の理論 2 社会教育経営論をめぐる社会教育の理論的動向を解説する。	事前	脱学校論に関するリサーチワーク（3h）
		事後	社会教育と学校教育との相違に関する検討と相互レビュー（2h）
第 3 週	（第 4 講）社会教育行政と地域活性化 1 （第 5 講）社会教育行政と地域活性化 2 社会教育行政と地域づくり、市民協働・住民自治について解説する。	事前	成人学習理論（アンドラゴジー）に関するリサーチワーク（3h）
		事後	市民協働・住民自治に関する検討と相互レビュー（2h）
第 4 週	（第 6 講）社会教育行政の経営戦略 1 （第 7 講）社会教育行政の経営戦略 2 社会教育行政の経営戦略と、社会教育計画の構造について解説する。	事前	自らが居住する自治体の社会教育行政に関するリサーチワーク（3h）
		事後	社会教育計画に関する検討と相互レビュー（2h）
第 5 週	（第 8 講）学習課題の把握と広報戦略 1 （第 9 講）学習課題の把握と広報戦略 2 地域課題の分析と把握、学習課題把握のための調査法とその活用について解説する。	事前	自らが所属するコミュニティの学習課題に関するリサーチワーク（3h）
		事後	社会教育の調査法の活用と相互レビュー（2h）
第 6 週	（第 10 講）学習課題の把握と広報戦略 3 （第 11 講）社会教育における地域人材の育成 社会教育行政における地域広報戦略と、人材の育成・活動支援について解説する。	事前	自らが居住する自治体が行う、社会教育の広報に関するリサーチワーク（3h）
		事後	地域人材の育成・活動支援に関する検討と相互レビュー（2h）
第 7 週	（第 12 講）学習成果の評価と活用の実際 （第 13 講）社会教育を推進するネットワークの形成	事前	社会教育による学習成果に関するリサーチワーク（3h）
		事後	ステークホルダーのイコールパートナー精神に基づくコミュニティ構築

	学習成果の評価と活用、連携・協働の推進とネットワークの活性化について解説する。		に関する検討と相互レビュー（2h）
第 8 週	（第 14 講）社会教育施設の経営戦略 （第 15 講）社会教育主事及び社会教育士の役割 社会教育施設の経営・ネットワーク、社会教育主事・社会教育士等の社会教育人材の役割について解説する。	事前	社会教育施設の現状把握と課題把握に関するリサーチワーク（3h）
		事後	社会教育計画の策定（7h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、ワークショップやグループ討議など、アクティブ・ラーニングの手法を用いた参加型による学習を適宜行う。また、モデル自治体を設定し、自治体関係者を招いたゲスト講義を行い、より社会実装性の高い構想の提案を目指す。事前学習及び事後学習として、クローズドな SNS を用いた学習者コミュニティによる意見交換や情報共有を行う。

教科書・参考書

教科書：浅井経子（2020）『社会教育経営論』，ぎょうせい
参考書：生涯学習・社会教育行政研究会（2023）『生涯学習・社会教育行政必携（令和 6 年版）』，第一法規、イヴァン・イリッチ（1977）『脱学校の社会』，東京創元社

評価方法

課題、SNS での学習参画、リアクションペーパー、アンケート等（60%）
レポート「社会教育経営計画の策定」（40%）

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法：電子メールにて希望日時を調整し、研究相談を実施する。
授業実施方法の詳細など

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	−	○

授業名称	教育産業と教育事業			科目コード	PEPB1211L
担当教員	廣政 愁一	実施方法	ハイフレックス	単位数	２単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	月 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は履修者が「教育産業」の現状を理解し、「教育事業」の特殊性についての知見を深め、持続的な教育を実践できることである。

到達目標

① 履修者が公教育と私教育の社会的な位置付けや教育産業の歴史的展開と社会の変化により実施されてきた具体的な教育事業について体系的に列挙、分類できる。

② これまでの歴史を紐解けば教育事業は、採算を度外視した公益性を求められるきらいもあった。しかし、教育も一つの事業であるならば、その事業体で収益性を確保しつつ、公益性に応えなければならない。こうした教育事業特有の事情について、履修者は実務的な視座（ケーススタディ）から持続的な教育事業とはどういうものかを他者に説明できる。

③ 履修者が取り組む既存の教育事業をアップデートすることや、新たな教育事業をデザインできる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）オリエンテーション 「教育産業・教育事業は教育が主か否か」 授業の進め方と授業計画の確認を行う。あわせて教育産業・教育事業についての概論を講義する。	事前	シラバスを読み、本授業の期待するところを書き出す(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h)
第 2 週	（第 2・3 講）教育と教育産業の全体と歴史 教育の歴史を振り返り、公益性から徐々に産業へ広がっていく過程を「教育と社会の関係性」から講義する。あわせて、教育産業の政治的背景も見ていく。	事前	課題配布資料を読む(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第 3 週	（第 4・5 講） 教育ベンチャーの現状（１）――マーケットの限界とその規模 日本においてさまざまな教育ベンチャーが生まれてきているが、成功事例を見ながら、なぜ成功したのかを議論する。マーケティングの成功なのか、事業構造の強さなのか、マネジメントなのか。同様な成功の数々を見ながら共通項を探求する。	事前	課題配布資料を読む(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第 4 週	（第 6・7 講） 教育事業の変遷（２））――イノベーションから衰退までの過程 前回に続き、ケーススタディを扱って講義する。 前回の基本的なイノベーションから衰退までの知識を前提に、さらにハイプサイクルを使ってビジネスとしてどのように対応すべきかを考える。	事前	課題配布資料を読む(3h)
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 総括討論に向けた資料探索(1h)
第 5 週	（第 8・9 講） 教育産業と教育聖域の功罪――教育は保守で	事前	課題配布資料を読む(3h)

	あるべきか革新であるべきか 学校教育をはじめとして教育には特殊性が存在する。その特殊性はどこから生まれ、どのような功罪があるかを言及する。教育の「聖域」の功罪を理解してはじめて教育全体の動きがつかめる。分かりやすい事例を出しながら、現状の教育産業のできる範囲を明解にしていく。	事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料探索(1h)
第 6 週	（第 10・11 講） ICT の力は教育産業のどこへ向かわせるのか 教育現場では一気に ICT の風が吹いてきている。しかし、その風はどこから吹いてきて、どんな意図で吹いているのか。社会の要請なのか、政治の要請なのか、それとも教育的観点からなのか。現状の ICT 教育を点検していく。	事前	課題配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料探索(2h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料作成(2h)
第 7 週	（第 12・13 講） 新規教育事業をデザインして革新を起こすことは可能なのか 近年、IT の発達で教育もアイデアさえあれば、事業を興すことが容易になってきた。だからこそ、取るに足らない事業の乱立で教育を混乱させている現状もある。そんな教育の混沌のなかで、王道を走る革新に迫る事業を創造する可能性を考える。	事前	課題配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料作成(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料作成(3h)
第 8 週	（第 14・15 講） 総括討論 これまでの授業をまとめるとともに、履修生に対して現代社会における民間教育の役割とは何かを考え、新規ビジネスを提案する。	事前	総括討論に向けた資料作成(10h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法を用いる。本講義については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く探求するため、90 分×2 コマ連続で実施する。
また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。
※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。それぞれの授業で資料を配布する。
以下、参考図書を列記する。
教育政策 2020 研究会（2016）「公教育の市場化・産業を超えて」八月書館
嶺井正也・中村文夫（2014）「市場化する学校」八月書館
梅野悟（2002）「世界教育史」新評論
川上清市（2021）「教育ビジネスの動向とカラクリがよくわかる本」秀和システム

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるように換算する。
60 点を超えるものに単位を付与する。
１．授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」（35%）
本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。

２．最終授業回でのディスカッションならびに発表（65%） 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。				
その他の重要事項				
Teams のチャット機能で連絡をすること。相談内容は問わない。				
2022 年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	–	–	○	–

授業名称	心理と学習のフロンティア			科目コード	PEPB0216L
担当教員	齋藤 玲	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	金 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

「社会をよりよくするために、我々人間にできることは何か？」この壮大な問いに答えるために担当教員は研究と実践を続けている。そして、この問いへの回答の糸口は、認知科学・心理学、そして教育実践学にあると信じている。この授業の目的は、認知科学・心理学、教育実践学に関する資質・能力を履修者が身につけることである。また、ここで得られる資質・能力を、履修者の生活や仕事に活かせるようにすることも、この授業の目的とする。

専門書を一人だけで読み解くことは難しい。ましてや、その研究分野の専門でなければ、なおさらである。この授業では、専門書を読んでまとめ、仲間・専門家と学びの成果を共有し、それを深め合うという経験を積み重ねる。具体的には、事前に教科書の対象章（例えば、「知識と推論」、「学習への動機づけ」）を発表者が読み解き、まとめ、授業日の前半講に仲間にプレゼンテーションする。その発表を受けて、後半講では、発表者と仲間ともに不明点や疑問点を洗い出すとともに、どのように得られた知見を生活・仕事へ応用できえるかについて議論する。

到達目標

① 履修者が認知科学・心理学、教育実践学に関する専門書の内容を理解することができるようになる。
② 履修者が当該専門書に関する内容を理解し、他者と共有することができるようになる。
③ 履修者が得られた資質・能力を自身の生活や仕事に活かすことができるようになる。
④ 専門書を読み解き、仲間・専門家とともに学びを深めるという経験を獲得し、今後、同様に専門書と対峙できるようになる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）オリエンテーション	事前	教科書の摘読（2h）
		事後	授業リフレクション（1h）
第 2 週	（第 2 講）教科書 1 の【第 4 章】の発表 （第 3 講）感想の共有、生活・仕事への応用可能性の議論	事前	発表者以外：指定章の精読（1.5h） 発表者：　精読・資料作成（6h）
		事後	授業リフレクション（1h）
第 3 週	（第 4 講）教科書 1 の【第 5 章】の発表 （第 5 講）感想の共有、生活・仕事への応用可能性の議論	事前	発表者以外：指定章の精読（1.5h） 発表者：　精読・資料作成（6h）
		事後	授業リフレクション（1h）
第 4 週	（第 6 講）教科書 1 の【第 6 章】の発表 （第 7 講）感想の共有、生活・仕事への応用可能性の議論	事前	発表者以外：指定章の精読（1.5h） 発表者：　精読・資料作成（6h）
		事後	授業リフレクション（1h）
第 5 週	（第 8 講）教科書 1 の【第 7 章】の発表 （第 9 講）感想の共有、生活・仕事への応用可能性の議論	事前	発表者以外：指定章の精読（1.5h） 発表者：　精読・資料作成（6h）
		事後	授業リフレクション（1h）
第 6 週	（第 10 講）教科書 1 の【第 8 章】の発表	事前	発表者以外：指定章の精読（2h） 発表者：　精読・資料作成（6h）

	（第 11 講）感想の共有、生活・仕事への応用可能性の議論	事後	授業リフレクション（1h）
第 7 週	（第 12 講）教科書 1 の【第 9 章】の発表 （第 13 講）感想の共有、生活・仕事への応用可能性の議論	事前	発表者以外：指定章の精読（2h） 発表者：　精読・資料作成（6h）
		事後	授業リフレクション（1h）
第 8 週	（第 14 講）総合ディスカッション（講師と受講生、招待教員とで、これまでの議論を振り返り、学びをさらに深める） 招待教員は TBC （第 15 講）総合ディスカッションのふりかえり	事前	これまでの振り返り（2h）
		事後	最終レポート作成（3h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は履修者の発表と、感想の共有をお願いします。発表者は、自分の担当回（オリエンテーション時に決定）において、発表いただきます。その後、感想の共有を行なうとともに、その回で学んだ内容をいかに生活・仕事に応用できるかについて議論を通してまとめます。

教科書・参考書

教科書

以下の教科書は必ず購入のこと。発表者の指定章はオリエンテーション時に決定する。

[1] 全米科学・工学・医学アカデミー 編，秋田喜代美・一柳智紀 監訳（2024）『人はいかに学ぶのか：授業を変える学習科学の新たな挑戦』，北大路書房.

参考書

適宜履修者の興味・関心に合わせて参考書を紹介します。興味・関心についていつでもご共有ください。

評価方法

[1] 授業リフレクション・授業中の発言や態度（35%［5%×7 回］）

[2] 担当回の発表（40%）

[3] 最終レポート「授業で学んだことは何か、いかに学んだことをよりよく生きていくうえで活かすか」(25%)

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法：オフィスアワーは随時とします。メール（ryo@tohoku.ac.jp）にて適宜受け付けます。

授業実施方法の詳細：前半の講義では、担当者の発表と質疑応答を行います。後半の講義では、学んだことを振り返りながら、それらを自身の生活や仕事に、いかに活かせるかについて議論、共有します。

*履修者の人数に伴い、方法を変更する可能性があります。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	−	−

授業名称	実践教育プロジェクト			科目コード	PEPF1501S
担当教員	小泉 雄	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業は、履修者の実務経験を言語化し、体系的な教育プログラムへ落とし込むことで、人材育成を効率的かつ効果的に行うスキルの習得を目的とする。授業では、教育プログラムの作成や模擬授業の実施に関する理論を学び、履修者自身がプログラムを提案・設計し、模擬授業や研修を実践する。また、実践を振り返り、課題や可能性を議論することで教育プログラムの改善を図る。受講生の興味関心に基づいたテーマ設定や教材作成を通じ、実践知を活かした教育・研修プログラムを構築し、知識の伝達・継承能力を養うことを目指す。

到達目標

① 教育プログラムの作成及び教育実践のために必要となる各種理論を説明することができる。
② 履修者自身の経験や各種理論を元に実務的内容を主題とした教育プログラムを作成することができる。
③ 教育プログラム、および各種理論に基づいた授業実践・研修実践を行うことができる。
④ 担当教員や履修者等の相互の議論を踏まえ、他者及び自己の作成した教育プログラムを批判・改善できる

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）オリエンテーション プログラム全体の目的、学びのゴール、進め方を共有。	事前	シラバスを精読し、自身の学習目標を設定する（1 時間）
		事後	-（受講選択の検討）
第 2 週	（第 2 講）（第 3 講）インストラクショナルデザインと目標設定 インストラクショナルデザイン（ID）の基礎、ADDIE モデルの概要。学習目標設定の手法（SMART ゴール、メーガーの 3 つの質問）。	事前	指定文献を精読し、ADDIE モデルの特徴を整理する（３時間）
		事後	コメントペーパー: 授業内容の振り返りを提出。自身の教育プログラムの学習目標を作成（5 時間）
第 3 週	（第 4 講）（第 5 講）学習環境と教材設計 学習環境の構成要素（物理的・心理的環境）と効果的な環境設計。学習目標に基づく教材設計の方法。	事前	参考書文献等から学習環境デザインのポイントを整理（３時間）
		事後	コメントペーパー: 授業内容の振り返りを提出。教材のプロトタイプを作成し、講師に提出（５時間）
第 4 週	（第 6 講）（第 7 講）アクティブラーニングとグループワーク アクティブラーニングの種類と効果、授業での適用方法。グループワークの進行方法と管理技術。	事前	参考文献を読み、アクティブラーニングの成功事例を調べる（４時間）
		事後	コメントペーパー: 授業内容の振り返りを提出。グループワークの計画案を作成（４時間）
第 5 週	（第 8 講）（第 9 講）学習評価 形成的評価と総括的評価の違いと適用方法。学習評価の実践演習とフィードバック共有。	事前	自分の教育プログラムに適用可能な評価方法を考える（４時間）
		事後	コメントペーパー: 授業内容の振り返りを提出。評価基準を改良し、最終課題に反映（３時間）
第 6 週	（第 10 講）（第 11 講）クラスデザインの演習 クラス全体のデザイン構築と授業構成の具体化。デザイン案のグループ共有とフィードバック。	事前	ADDIE モデルを用いたクラスデザインの下書き作成（４時間）
		事後	コメントペーパー: 授業内容の振り返りを提出。改良したデザインをまとめる（４時間）
第 7 週	（第 12 講）（第 13 講）教材開発とプレゼンテーション 教材の完成度を高める演習と、プレゼンテーション準備と実施。プレゼン後にフィードバックを受けて教材を改良。	事前	プレゼン資料を準備（5 時間）
		事後	コメントペーパー: 授業内容の振り返りを提出。フィードバックを基に教材を改良（３時間）

第 8 週	（第 14 講）（第 15 講）最終課題の発表と講評 教育プログラム設計の最終調整と発表準備。各自の教育プログラムを発表し、講評を受ける。最終成果物: 教育プログラムのコース内容とクラス 1 回分の詳細設計を完成。	事前	これまでの課題を振り返り、発表のポイントを整理（6 時間）
		事後	コメントペーパー: 授業内容の振り返りを提出。発表後のフィードバックを反映し、完成版を提出（6 時間）

授業の進め方と方法

本授業は、第 2 週目以降、90 分×2 コマ連続の隔週で実施する。授業全体の前半部で講義を行い、後半部では当日の講義内容に沿った演習を実施する。演習は、個人ワーク、ペアワーク、グループワークとその共有や発表を通じて、その日の講義で学んだことを実践、アウトプットする場を設ける。履修者には、毎回授業終了後にコメントペーパーを提出し、当日の授業内容のふりかえりを通じて、自身の学習内容の理解や定着度を自ら確認することを求める。毎回の授業内容、および授業後の課題対応を漸進的に積み上げることにより、最終週に履修者自身の教育プログラムのコース内容とクラス 1 回分の完成を達成する。

教科書・参考書

教科書は指定しないが、本授業に関連する参考書として下記のものを紹介する。そのほか、必要に応じて授業内で紹介する。

- 実務家教員 COE プロジェクト編（2021）『実務家教員の理論と実践』, 社会情報大学院大学出版部.
- 鈴木克明・美馬のゆり編（2018） 『学習設計マニュアル 「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン』、北大路書房.
- 鈴木克明（2015） 『研修設計マニュアル 人材育成のためのインストラクショナルデザイン』、北大路書房
- C. M.ライゲルース・B. J. ビーティ・R. D. マイヤーズ（鈴木克明監訳）（2020） 『学習者中心の教育を実現するインストラクショナルデザイン理論とモデル』、北大路書房

評価方法

コメントペーパーの内容：30%

教育プログラム案① コースデザインの内容：35%

教育プログラム案② クラスデザインの内容：35%

※ コメントペーパーは授業毎、教育プログラム案は最終講義の発表内容にて評価する

その他の重要事項

本授業はすべての回をオンラインで実施する。

メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡すること。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	−	○	○

授業名称	インストラクショナル・デザイン			科目コード	PEPF1502S
担当教員	北村 士朗	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者がインストラクショナル・デザイン（ID）に関する主要な理論やモデルを用い、効果・効率・魅力が見込める研修類※をデザインするためのスキルを身につけることにある。

研修の効果・効率・魅力や、今日的な「教えない」研修について考え、目標達成のための「最終手段」と研修を位置づけ、学んだことが分からないままに終わってしまう事態からの脱皮を図る。何をどう教える（学ぶ・学ばせる）かだけでなく、なぜ学ぶ（学ばせる）必要があるのかを徹底的に問い、業務直結型で企業・組織・社会に貢献できる研修デザインを目指す。

※：対面研修だけでなく、オンライン研修、ｅラーニング、マイクロラーニング等も含む

到達目標

① 効果的・効率的・魅力的な研修を、多角的に考えデザインし提案できるようになる。

② 自組織における所属部署、個人の教育面での役割を分析し、アクションプランを計画する

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）オリエンテーション ～インストラクショナル・デザインって何？～	事前	シラバスの内容確認（0.5h）
		事後	リフレクションペーパーの提出と相互コメント（1h）
第 2 週	（第 2・3 講）導入課題 「研修の現状をチェックして改善策を考えよう」(1)（2）	事前	導入課題の事前準備・制作（5h）
		事後	リフレクションペーパーの提出、課題改訂と相互コメント（4h）
第 3 週	（第 4 講）「研修の現状をチェックして改善策を考えよう」(3) （第 5 講）課題 1「研修発注書をつくる」(1)	事前	演習課題の事前準備・制作（4h）
		事後	リフレクションペーパーの提出、課題改訂と相互コメント（4h）
第 4 週	（第 6 講）課題 1「研修発注書をつくる」(2) （第 7 講）課題 1「研修発注書をつくる」(3)	事前	演習課題の事前準備・制作（4h）
		事後	リフレクションペーパーの提出、課題改訂と相互コメント（4h）
第 5 週	（第 8 講）課題 2 「研修企画提案書をつくる」(1) （第 9 講）課題 2 「研修企画提案書をつくる」(2)	事前	演習課題の事前準備・制作（4h）
		事後	リフレクションペーパーの提出、課題改訂と相互コメント（4h）
第 6 週	（第 10 講）課題 2「研修企画提案書をつくる」(3) （第 11 講）課題 3「研修評価計画書をつくる」(1)	事前	演習課題の事前準備・制作（h）
		事後	リフレクションペーパーの提出、課題改訂と相互コメント（4h）
第 7 週	（第 12 講）課題 3「研修評価計画書をつくる」(2) （第 13 講）課題 3「研修評価計画書をつくる」(3)	事前	演習課題の事前準備・制作（4h）
		事後	リフレクションペーパーの提出、課題改訂と相互コメント（4h）
第 8 週	（第 14・15 講）課題 4 「貢献構想メモをつくる」	事前	演習課題の事前準備・制作（5.5h）
		事後	課題改訂と相互コメント（4h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業では自身が実施または主催することを想定した研修の企画書や計画書をステップ・バイ・ステップで制作する。

第 2 週以降は以下のように進める予定である。

事前学習：担当教員の指示に従い、教科書を参照しながら次回までの事前課題に取り組む。

授 業 中：事前課題へ相互コメントし、教員からのコメントや次回に向けてのレクチャー・指示を受ける。

事後学習：学習内容を省察しリフレクションペーパーを提出。授業中のコメントに沿って課題を改訂し提出。

授業の内容や進め方は、進捗状況や履修者数などに応じて調整・変更することがある。

教科書・参考書

【教科書】

鈴木克明（著）(2015)『研修設計マニュアル: 人材育成のためのインストラクショナルデザイン』, 北大路書房

上記教科書はタイトルに「研修設計」とあるが、教材や授業等の設計にも応用可能な内容である。

【参考書・参考文献】

参考書は下記の他、各回の授業で参考書・参考資料を提示する。

· 中原淳（編著）北村士朗ほか（著）(2006)『企業内人材育成入門』,ダイヤモンド社

· 鈴木克明 （著, 監修）ほか（2016)『インストラクショナルデザインの道具箱 101』, 北大路書房

評価方法

下記の成果物の内容を評価する。

毎回のリフレクションペーパー（20 点）

導入課題 （10 点）

課題 1（20 点）～3 （各 20 点　合計 60 点）

課題 4 （10 点）

以上の全てを提出し、それぞれ 6 割以上得点することを単位取得条件とする。

また、ディスカッションや相互コメント等を通じたクラスへの貢献に応じて加点する場合がある。

その他の重要事項

本授業の履修前に教育実践科目「成人教育・学習論」を履修しておくことを推奨する。

教育実践科目「実務家教員のキャリア開発」を履修する前に本授業を履修することを強く推奨する。本授業で策定した計画書は教育実践科目「実務家教員のキャリア開発」の演習で材料として活用できる。

教員とのコンタクトや質疑応答、教員や履修者からのコメント等は Microsoft Teams を用いる。

原則としてクラスのチャットで行い、内容はクラス内で共有する。

受講にあたり、何か特別な配慮を必要とする場合には担当教員に連絡し、相談をすること。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	－	○	○	○

授業名称	成人教育・学習論			科目コード	PEPF2503S
担当教員	北村 士朗	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が、働く社会人をはじめとする成人の学習や教育に関する理論、モデルや先行研究を自らの学習活動や教育活動に活かせるようになることである。

具体的に目指すのは、第一に成人学習者である履修者自身の学習をより良いものにすることである。第二に大学等での授業や企業・組織での人材育成活動といった成人学習者に対する教育活動を、年齢や立場といった履修者の状況によって生じる特性に合わせた教育的配慮をしながらデザインできるようになることである。

本授業では、まず成人学習に関する主要な理論やモデル類を理解するために、それらを用いて成人学習者としての自分自身を分析することで、成人学習者とは何か、成人のより良い学習に有益・必要なものは何かを検討する。その上で、成人教育すなわち成人学習者の支援をどのように考え、デザインすべきかを議論する。

加えて、キャリア開発、リスキリング、アンラーニング、越境学習など今日的な話題に触れ、その解釈について議論する。

到達目標

⑦ 成人の学習・教育に関する主要な理論やモデル、議論、留意点を説明できる。
⑧ 成人の学習・教育についての現状や問題・課題について説明できる。
⑨ 成人学習の理論・モデルに沿って自身の学習を分析し、改善案を策定できる。
⑩ 成人教育の企画・設計・実施を行う際に自身が工夫・留意すべきポイントを挙げることができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）成人の学習と教育を俯瞰する ～自分自身を通して成人学習を考える～	事前	シラバスの内容確認（0.5h）
		事後	学習内容省察とリフレクションペーパー提出（3h）
第 2 週	（第 2 講）成人の学習目的～何のために学ぶのか～ （第 3 講）成人の学習動機～学習を促すもの・妨げるもの～	事前	授業資料講読(1h) 事前課題提出と相互コメント（2h）
		事後	学習内容省察とリフレクションペーパー提出（3h）
第 3 週	（第 4 講）成人学習と学習モデル～どのように学ぶのか～ （第 5 講）成人学習の目的、動機、学習モデル（演習）	事前	授業資料講読(1h) 事前課題提出と相互コメント（2h）
		事後	学習内容省察とリフレクションペーパー提出（3h）
第 4 週	（第 6 講）自発的な成人学習者へ～自らを見定め、律する～ （第 7 講）自発的な成人学習者へ（演習）	事前	授業資料講読(1h) 事前課題提出と相互コメント（2h）
		事後	学習内容省察とリフレクションペーパー提出（3h） 中間レポートの提出(6h)
第 5 週	（第 8 講）成人教育のデザイン～成人の学習を支援する～ （第 9 講）成人教育のデザイン（演習）	事前	授業資料講読(1h) 事前課題提出と相互コメント（2h）
		事後	学習内容省察とリフレクションペーパー提出（3h）
第 6 週	（第 10 講）組織での学びをデザインする （第 11 講）組織での学びをデザインする（演習）	事前	授業資料講読(1h) 事前課題提出と相互コメント（2h）
		事後	学習内容省察とリフレクションペーパー提出（3h）

第 7 週	（第 12・13 講）個人発表（1）とディスカッション	事前	発表準備(6h)
		事後	学習内容省察とリフレクションペーパー提出（3h）
第 8 週	（第 14・15 講）個人発表（2）とディスカッション、振り返り	事前	発表資料改訂と発表準備(5.5h)
		事後	最終レポートの提出と相互コメント(6h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業では教員からの話題提供と指示に基づきクラスワークやディスカッションを行う他、グループワーク、個人ワークを行うこともある。

授業週毎の事前・事後学習は以下の通り。

事後学習：学習した内容を省察しリフレクションペーパーを提出する。

事前学習：授業資料を講読するとともに、事前課題を提出し相互コメントする

授業の内容や進行方法は、進捗状況や履修者数などに応じて調整・変更することがある。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

参考書は下記の他、各回の授業で参考書・参考資料を提示する。

マルカム・ノールズ (著)（2002）『成人教育の現代的実践: ペダゴジーからアンドラゴジーへ』, 鳳書房

鈴木克明・美馬 のゆり (著, 編集)(2018)『学習設計マニュアル』,北大路書房

中原淳（編著）北村士朗ら（著）(2006)『企業内人材育成入門』,ダイヤモンド社

評価方法

下記の成果物の内容を評価する。

中間レポートの内容（40%）

最終レポートの内容（40%）

リフレクションペーパー（各回の振り返り）の内容（20%）

以上の全てを提出し、それぞれ 6 割以上得点することを単位取得条件とする。

また、ディスカッションや相互コメント等を通じたクラスへの貢献に応じて加点する場合がある。

その他の重要事項

教育実践科目「インストラクショナル・デザイン」「実務家教員のキャリア開発」を履修する前に本科目を履修することを推奨する。

教員とのコンタクトや質疑応答、教員や履修者からのコメント等は Microsoft Teams を用いる。

原則としてクラスのチャットで行い、内容はクラス内で共有する。

受講にあたり、何か特別な配慮を必要とする場合には担当教員に連絡し、相談をすること。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	―	○	○	○

授業名称	実務家教員のキャリア開発			科目コード	PEPF2504S
担当教員	北村 士朗	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	金 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が実務家教員・講師※1 としてのキャリアを開発するために、キャリアプランを明確化し、研修・授業を実践するスキル・知識・態度を身につけることにある。その達成のために、キャリアプランを策定した上で、履修者各自の専門性を活かした研修・授業※2 の実施・評価・改善を模擬演習として行う。

※1：企業・組織内の研修講師、オープンセミナーの講師、大学や学校での教職を想定している。

※2：企業・組織内の研修、オープンセミナー、大学や各種学校での科目・講習を想定している。

到達目標

① 実務家教員としてのキャリアプランの方向性、求められる要件や実績を説明できるようになること。

② 自身の専門性を活かした研修や授業の効果・効率・魅力を 10 分以内に伝えられるようになること。

③ 上記研修や授業のコア部分のうち 10 分間を模擬授業として実施し、好評価が得られるようになること。

④ 上記②③についてレベル 1・2 の評価を計画・実施・分析し、改善できるようになること。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）オリエンテーション～実務家教員になるために～	事前	シラバスの精読（1h）
		事後	授業内容の整理（1h） リフレクションペーパー提出（2h）
第 2 週	（第 2・3 講）実務家教員としてのキャリアプラン（演習）	事前	演習準備（4h）
		事後	授業内容整理と提出課題改定（2h） リフレクションペーパー提出（2h）
第 3 週	（第 4・5 講）研修・授業の実践と評価（演習）1	事前	演習準備（4h）
		事後	授業内容整理と提出課題改定（2h） リフレクションペーパー提出（2h）
第 4 週	（第 6・7 講）研修・授業の実践と評価（演習）2	事前	演習準備（4h）
		事後	授業内容整理と提出課題改定（2h） リフレクションペーパー提出（2h）
第 5 週	（第 8・9 講）研修・授業の実践と評価（演習）3	事前	演習準備（4h）
		事後	授業内容整理と提出課題改定（2h） リフレクションペーパー提出（2h）
第 6 週	（第 10・11 講）研修・授業の実践と評価（演習）4	事前	演習準備（4h）
		事後	授業内容整理と提出課題改定（2h） リフレクションペーパー提出（2h）
第 7 週	（第 12・13 講）研修・授業の実践と評価（演習）5	事前	演習準備（4h）
		事後	授業内容整理と提出課題改定（2h） リフレクションペーパー提出（2h）
第 8 週	（第 14・15 講）振り返り～より良い実践に向けて～	事前	演習準備（4h）
		事後	授業内容整理と提出課題改定（2h） リフレクションペーパー提出（2h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、実務家教員・講師としてのキャリアプランを概観する演習と模擬研修・授業演習を行う。模擬研修・授業演習は①自らが行おうとする研修・授業のシラバスの発表、②模擬オリエンテーション（研修・授業の冒頭 10 分間）、③自身の専門性・独自性を最もアピールできる部分の模擬研修（約 10 分間）を段階的に行う。講師役以外の履修者は評価役を務め、各模擬研修・授業後に履修者同士のディスカッション、担当教員による講師役・評価役双方に対するコメントとフィードバックを行う。

- 授業は基本的にオンラインで実施するが、一部ハイフレックスで実施する可能性がある。
- 授業・演習の内容や進め方、演習回数等は、履修者の数や状況に応じて調整する。
- 所定の期間内に指定された課題の提出をもって出席と認めるオンデマンド週を設定することがある。

教科書・参考書

教科書は指定しない。参考書・参考資料は下記の他、各回の授業で必要に応じ提示する。

妹尾(2008),『実務家教員の必要性とその育成について』、広島大学高等教育開発センター　大学論集　第 39 集, pp. 109-128

評価方法

下記の成果物の内容を評価する。演習①～③は評価役（履修者）の評価結果も勘案する。

- キャリアレポート（10%）
- 演習①シラバス、演習②模擬オリエンテーション、演習③模擬授業（各 20%　合計 60%）
- リフレクションペーパー（30%）

以上の全てを提出し、それぞれ 6 割以上得点することを単位取得条件とする。

また、ディスカッションや相互コメント等を通じたクラスへの貢献に応じて加点する場合がある。

その他の重要事項

- 本授業では第３週から模擬研修・授業を行うため、その材料として学期開始前に以下の 2 つの条件を満たすカリキュラムやシラバス、授業・研修案が用意できている必要がある。
  1. 履修者本人が講師や教員として実施を予定または希望している研修・授業に関するもの
  2. 以下のいずれかに該当し、実施可能な水準にあるもの
  ① 教育実践科目「インストラクショナル・デザイン」や同様の科目・研修・講習等における演習課題として作成し、合格レベルとの判定を受けている。
  ② 履修者本人が講師や教員として実施した実績がある。
- 教員とのコンタクトや質疑応答、教員や履修者からのコメント等は Microsoft Teams を用いる。
  原則としてクラスのチャットで行い、内容はクラス内で共有する。
- 受講にあたり、何か特別な配慮を必要とする場合、上記の想定以外の演習材料を用いたい場合など、不明な点があれば、履修前に担当教員に連絡し、相談をすること。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	―	○	○

授業名称	社会教育演習			科目コード	PEPF2505S
担当教員	荒木貴之	実施方法	対面	単位数	2 単位
配当年次	１・２年次	開講学期	後期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、文献講読、シンポジウム参加、実地調査、プレゼンテーション、レポート作成等を通じて、地域社会やさまざまなコミュニティで行われている「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に関する社会教育実践の性格と背景を客観的に把握し、あわせて現実的な提言を行うことを通して、社会教育人材に求められる社会教育の実践能力の育成を図る。

到達目標

① 履修者が、社会教育施設、社会教育行政と関連する制度、社会教育をめぐる連携のあり方に関して、社会教育人材に求められる基本的な視点と知識を得ることができる。
② 履修者が、社会教育人材としての視点と知識を生かして、自治体が企画実施する実際の社会教育事業に対して、客観的把握と実践的提言を行うことができる。
③ 履修者が、社会教育事業を構想し、実現することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）社会教育人材（社会教育主事及び社会教育士、学芸員、司書等）の職務と求められる役割の実際	事前	社会教育施設の体系と各種施設の役割に関するリサーチワーク（3h）
		事後	社会教育施設の現状と課題に関する検討と相互レビュー（2h）
第 2 週	（第 2 講）事業計画立案の実際１（演習） （第 3 講）事業計画立案の実際２（演習） モデル自治体や社会教育施設における社会教育に関する現状を把握し、学習課題を抽出する。	事前	モデル自治体（社会教育施設）の総合教育計画や年間事業計画に関するリサーチワーク（3h）
		事後	モデル自治体（社会教育施設）の学習課題の検討と相互レビュー（2h）
第 3 週	（第 4 講）事業計画立案の実際３（演習） （第 5 講）事業計画立案の実際４（演習） モデル自治体や社会教育施設における社会教育に関する事業計画を検討し、立案する。	事前	モデル自治体（社会教育施設）の社会教育計画に関するリサーチワーク（3h）
		事後	モデル自治体（社会教育施設）の社会教育に関する事業計画の検討と相互レビュー（2h）
第 4 週	（第 6 講）予算・調達の実際１（演習） （第 7 講）予算・調達の実際２（演習） モデル自治体や社会教育施設における社会教育に関する「ヒト・モノ・カネ」の調達計画を検討し、立案する。	事前	ふるさと納税やクラウドファンディングの現状と課題に関するリサーチワーク（3h）
		事後	「ヒト・モノ・カネ」の調達計画の検討と相互レビュー（2h）
第 5 週	（第 8 講）ゲスト講義（シンポジウム参加）１ （第 9 講）ゲスト講義（シンポジウム参加）２ 自治体等が主催するシンポジウムに参加し、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に関する現状と課題を把握する。	事前	モデル自治体が定めた地域総合計画に関するリサーチワーク（3h）
		事後	モデル自治体の「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に関する現状と課題に関する相互レビュー（2h）
第 6 週	（第 10 講）事業計画広報の実際１（演習） （第 11 講）事業計画広報の実際２（演習） モデル自治体や社会教育施設における社会教育に関する広報	事前	モデル自治体（社会教育施設）が行う社会教育の広報活動に関するリサーチワーク（3h）
		事後	プレゼンテーションの検討と相互レビュー（2h）

	計画を検討し、プレゼンテーションを行う。		
第 7 週	（第 12 講）自治体（社会教育施設）への提言１（演習） （第 13 講）自治体（社会教育施設）への提言２（演習） モデル自治体や社会教育施設に対して、社会教育の振興に関する提言を行い、自治体職員等から評価を受ける。	事前	自治体（社会教育施設）へのプレゼンテーション作成（8h）
		事後	プレゼンテーションの成果と課題に関する相互レビュー（2h）
第 8 週	（第 14 講）社会教育人材に求められる専門性の検討 （第 15 講）これからの社会教育のあり方の検討	事前	社会教育人材に求められる専門性に関するリサーチワーク（3h）
		事後	今後の社会教育のあり方に関する検討と相互レビュー（2h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、ワークショップやグループ討議など、アクティブ・ラーニングの手法を用いた参加型による学習を適宜行う。また、社会教育が目指す「人づくり・かかわりづくり・地域づくり」の観点から、実際の自治体で行われている社会教育の取り組みに対して、実地調査を行った上で現実的な提言を行い、自治体職員等からフィードバックを受ける。自治体等が企画するシンポジウム参加や実地調査等は、開講時期や講義の順序性に関わらず、適宜実施する。

教科書・参考書

教科書：なし

参考書：生涯学習・社会教育行政研究会（2023）『生涯学習・社会教育行政必携（令和６年版）』，第一法規、日本青年館公益事業部「社会教育」編集部（月刊）『社会教育』，日本青年館

評価方法

課題、リアクションペーパー、アンケート等（40%）

プレゼンテーション及びレポート「社会教育総合計画の策定」（60%）

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法：電子メールにて希望日時を調整し、研究相談を実施する。

授業実施方法の詳細など

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	−	○

授業名称	省察的実践			科目コード	PEPC1301S
担当教員	齋藤 崇徳	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	土 A（1・2 限）
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、Donald A. Schön による『The Reflective Practitioner: How Professionals Think in Action』の邦訳および「省察的実践」についての文献を読むことを通じて、「行為の中の省察」を中心とした「省察的実践」に関わる諸概念を理論的にも実践的にも身につけることにある。「省察的実践」は教育分野のみならず、幅広い分野・職業で受容され、多数の実践や研究が行われてきた。「省察的実践」の理解を通じて、各履修者の職業人としてのあり方について再考する契機を育むとともに、その限界や応用する際の課題について検討する。

到達目標

① 履修者が『The Reflective Practitioner』の内容、とくに「行為の中の省察」の内容や意義を理解した上で論理的に言語化・体系化し、他者に説明することができる。
② 履修者が『The Reflective Practitioner』の専門職論等の分野における位置づけ、実践・調査上の応用の方法、およびその限界を理解し他者に説明することができる。
③ 履修者が自ら携わる実務や組織、産業の領域にそって「省察的実践」を行うための方法や態度、その将来像についての考え方を身につけることができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）ガイダンス・講義 : 本授業の進め方と方法、なぜ『The Reflective Practitioner』が重要であるのかの説明	事前	授業資料、シラバス、教科書・参考書の確認（2.5h）
		事後	コメントペーパーの提出（0.5h） ガイダンス・講義の復習（2h）
第 2 週	（第 2 講・第 3 講）輪読・討論 :「省察的実践」とは何か 第 2 週では、本授業のテーマである「省察的実践」の概略をつかむために入門的な書籍・論文を読む。	事前	文献の読解（3h） 討論準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（0.5h） 討論の復習（1.5h）
第 3 週	（第 4 講・第 5 講）輪読・討論 :『専門家の知恵』を読む 第 3 週では、『The Reflective Practitioner』の邦訳の一つである『専門家の知恵』を通読する。	事前	文献の読解（3h） 討論準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（0.5h） 討論の復習（1.5h）
第 4 週	（第 6 講・第 7 講）輪読・討論 :「省察的実践」を深く理解する 第 4 週では、三品陽平『省察的実践は教育組織を変革するか』を部分的に読む。	事前	文献読解（3h） 討論準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（0.5h） 討論の復習（1.5h）
第 5 週	（第 8 講・第 9 講）輪読・討論 :「省察的実践」とデューイ 第 5 週では、主に早川操『デューイの探究教育哲学』の「省察的実践」に関わる部分を読む。	事前	文献の読解（3h） 討論準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（0.5h） 討論の復習（1.5h）
第 6 週	（第 10 講・第 11 講）輪読・討論 : 教師教育への「省察的実践」の適用 第 6 週では、教師教育における「省察的実践」を考えるために、秋田喜代美と佐藤学の議論を読む。	事前	文献の読解（3h） 討論準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（0.5h） 討論の復習（1.5h）
第 7 週	（第 12 講・第 13 講）輪読・討論 :	事前	文献の読解（3h） 討論準備（1h）

	看護教育への「省察的実践」の適用 第 7 週では、看護領域における議論を理解するために、G・ロルフ『看護実践のアポリア』（部分）などを読む。	事後	コメントペーパーの提出（0.5h） 討論の復習（1.5h）
第 8 週	（第 14 講・第 15 講）輪読・討論： 成人学習への「省察的実践」の適用 最後に第 8 週では、成人学習における「省察的実践」の応用を理解するために、関連する書籍・論文を読む。	事前	文献の読解（3h） 討論準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（0.5h） 討論の復習（1.5h） 学期末レポート課題（13h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は毎講文献を輪読し討論を行う。各構では発表者を指定し、その際には文献の要約やコメントのみならず自身の経験からの省察の報告を求める。また、各講においては、授業後にコメントペーパーを作成することにより文献の理解を深め、本授業の最後にレポートの提出を行うことで、履修者それぞれ携わる職業等についての省察をさらに深めていく。

教科書・参考書

教科書　本授業を受講するにあたっては、この書籍を購入する必要がある。

- ドナルド・ショーン，2001,『専門家の知恵–反省的実践家は行為しながら考える』佐藤学・秋田喜代美訳．ゆみる出版.

参考文献　これらの文献を購入する必要はない。希望者には『省察的実践とは何か』を貸し出すことができる。

- ドナルド・A. ショーン，2007,『省察的実践とは何か–プロフェッショナルの行為と思考』柳沢昌一・三輪建二監訳．鳳書房.
- 早川操，1994,『デューイの探究教育哲学–相互成長をめざす人間形成論再考』名古屋大学出版会.
- 三品陽平，2017,『省察的実践は教育組織を変革するか』ミネルヴァ書房.
- 三輪建二，2023,『わかりやすい省察的実践–実践・学び・研究をつなぐために』医学書院.
- G・ロルフ，2017,『看護実践のアポリア–D・ショーン《省察的実践論》の挑戦』塚本明子訳．ゆみる出版.

評価方法

① 文献の読解に基づく討論への貢献（20%）
② 輪読における発表（40%）
③ コメントペーパーの提出（20%）
④ レポートの提出（20%）

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。具体的な輪読の進め方・方法については、第 1 講において履修者数等を確認し、履修者と相談の上、決定する。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	−	−

授業名称	実践と理論の融合			科目コード	PEPC2302S
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、専門職大学院などの制度目的にも謳われている「理論と実践の融合」について理解し、それぞれの履修者が「理論と実践の融合」について自分なりの見解をもち、実践の場において提言ができるようになることである。とくに本授業では、実践と理論をつなぐ新たな理論枠組みである「実践の理論」の確立にむけて、「理論」や「実践」を説明するための諸概念の検討をおこなう。そのうえで履修者のそれぞれの問題関心から「実践の理論化」と「理論の実践化」の往還ができるようにトピックにもとづいた考究をおこなう。

到達目標

① 履修者が実践と理論を捉えるための概念やモデルを理解し、自らの言葉で実践を論理的に説明することができる。
② 履修者が「理論」と呼ばれるものの構造や機能を理解し、理論と呼ばれるものの射程と限界を踏まえて比較検討することができる。
③ 履修者が「実践の理論」の基本的な概念について、自分の具体的な実務経験等と結びつけて説明することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	**(第 1 講)*Positioning for the Journey*** 本授業の探究の旅路を深めるとともに、本授業でも一つのメルクマールとなる「実践の理論」について概観する。	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h）
第 2 週	**(第 2 講／第 3 講)実践と理論をとりまく概念** 暗黙知や形式知、あるいは実践知など「実践と理論の融合」をとりまく諸概念の布置について概観する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）
第 3 週	**(第 4 講／第 5 講)実践をどのように捉えるのか** 実践を捉えるための技法について、省察や概念化の手法について考究する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）
第 4 週	**(第 6 講／第 7 講)理論とはなにか** 理論とはいかなるものなのか、概念・構造・機能などの視点から考究する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 総括討論に向けた資料探索（1h）
第 5 週	**(第 8 講／第 9 講)中範囲理論／特定状況理論** 理論の一つのあり方としての中範囲理論、ある**特定**の**状況**のもとで**理論**として機能する特定状況理論について考究する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 総括討論に向けた資料探索（1h）
第 6 週	**(第 10 講／第 11 講)実践の理論** 実践の理論とはいかなるものかを、プラグマティズム思想から説き起こし、実践の理論について考究する。	事前	事前配布資料を読む（3h） 総括討論に向けた資料探索（2h）
		事後	総括討論に向けた資料作成（2h） コメントペーパーの提出（1h）
第 7 週	**(第 12 講／第 13 講)実践と理論の往還**	事前	事前配布資料を読む（3h） 総括討論に向けた資料作成（3h）

	実践と理論を行き来することはいかにして可能となるのかを検討する。	事後	総括討論に向けた資料作成（3h） コメントペーパーの提出（1h）
第 8 週	**（第 14 講／第 15 講） 総括討論** 「実践と理論」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。	事前	総括討論に向けた資料作成（10h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90 分×２コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。

※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。以下、参考図書を列記する。

- 実務家教員 COE プロジェクト（2021）『実務家教員の理論と実践』、社会情報大学院大学出版部。
- G.E.M.アンスコム（2022）『インテンション：行為と実践知の哲学』、岩波書店。
- A.F.ファーナム（2005）『しろうと理論――日常性の社会心理学』、北大路書房。
- A.クラーク（2005）『理論心理学の方法――論理・哲学的アプローチ』、北大路書房。
- 市川伸一（2004）『科学としての心理学――理論とは何か？なぜ必要か？どう構築するか？』、培風館。
- 金井壽宏・楠見孝（2012）『実践知――エキスパートの知性』、有斐閣。
- 野中郁次郎・紺野登（2003）『知識創造の方法論――ナレッジワーカーの技法』、東洋経済新報社。

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるように換算する。60 点を超えるものに単位を付与する。

７．授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」（35%）

本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。

８．最終授業回でのディスカッションならびに発表（65%）

本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。

その他の重要事項

コンタクトならびにオフィスアワーについて

〇メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること（相談内容については問わない）。

〇授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること（予約優先）。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	－	○	－	－

授業名称	知識・教育・社会			科目コード	PEPC2303L
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	土 B（3・4 限）
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会における知識と教育をそれぞれの社会領域として独立の事象として捉えるのではなく、相互に作用することを理解し、知識、教育、社会に関する分析、考察、提案する能力を高めることである。社会のなかに知識や教育が存在しており、それぞれの領域が独立して存在しているわけではない。社会領域のなかでもとくに知識と教育は、密接にかかわり影響しあっている。知識と教育は社会の部分を構成しているが、社会もまた知識と教育を構成しているのである。本授業では、知識あるいは教育を構想する上で、知識・教育・社会の織り成す視線で物事をいかに捉えていくのかをいくつかのトピックを通じて考究していく。

到達目標

① 履修者が少なくとも現代社会における「知識」あるいは「教育」の領域において、それぞれの関心から一つのトピックを説明することができる。
② 履修者が「知識」や「教育」の社会領域の相互作用性を理解し、それぞれの社会領域の相互作用のメカニズムを理解する。
③ 履修者が本授業で得られた知見を基礎にして、重層的な視点から現代社会における知識や教育の在り方に対して提言をすることができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）イントロダクション 本授業の探究の旅路を深めるとともに、社会における学問的知の役割を俯瞰する。	事前	シラバスの閲読（0.5h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 参考書および関連文献の閲読（2h）
第 2 週	（第 2 講・第 3 講）知識社会論／学習社会論 現代社会の一側面として知識社会あるいは学習社会の側面があることを概説する。	事前	参考書および関連文献の閲読（2.5h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 参考書および関連文献の閲読（2h）
第 3 週	（第 4 講・第 5 講）現代社会における知識論 現代社会において「知識」がどのように捉えられているのかを概観する。	事前	参考書および関連文献の閲読（2.5h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 参考書および関連文献の閲読（2h）
第 4 週	（第 6 講・第 7 講）知識と教育の結節点としての大学 知識制度と教育制度の結節点として大学の装置を検討する。	事前	参考書および関連文献の閲読（2.5h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 参考書および関連文献の閲読（2h）
第 5 週	（第 8 講・第 9 講）能力と雇用可能性の社会学 現代社会において「能力」がどのように語られてきたのかを社会学的な観点から考究する。	事前	参考書および関連文献の閲読（2.5h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 参考書および関連文献の閲読（2h）
第 6 週	（第 10 講・第 11 講）教養の変遷 現代社会における「教養」の概念がどのように変遷してきたのかを教育論的／知識論的観点から考究する。	事前	参考書および関連文献の閲読（2.5h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 参考書および関連文献の閲読（2h）
第 7 週	（第 12 講・第 13 講）社会システムのなかの知識と教育	事前	参考書および関連文献の閲読（2.5h）

	社会システム論の観点から、知識と教育をどのように捉えられるのかを考究する。	事後	コメントペーパーの提出（1h） 参考書および関連文献の閲読（2h）
第 8 週	（第 14 講・第 15 講） 総合討論：「知識・教育・社会」の現在と未来	事前	参考書および関連文献の閲読（2.5h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 最終レポート（14.5h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。また履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係するか、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてコメントペーパーに記入し、毎回の授業後に提出する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。以下、参考図書を列記する。

- 小林康夫、船曳建夫（1994）『知の技法：東京大学教養学部「基礎演習」テキスト』東京大学出版会。
- ピーター・F・ドラッカー（2007）『断絶の時代』、ダイヤモンド社。
- 西垣通（2013）『集合知とは何か――ネット時代の「知」のゆくえ』、中公新書。
- イマニュエル・カント（2002）『カント全集〈18〉諸学部の争い・遺稿集』、岩波書店。
- 本田由紀ほか（2010）『労働再審〈1〉転換期の労働と「能力」』、大月書店
- レジー（2022）『ファスト教養　10 分で答えが欲しい人たち』、集英社新書。
- ニクラス・ルーマン（2004）『社会の教育システム』、東京大学出版会。

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるように換算する。60 点を超えるものに単位を付与する。

９．授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」（35%）

本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。

最終授業回でのディスカッションならびに発表（65%）

本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。

その他の重要事項

コンタクトならびにオフィスアワーについて

○メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること（相談内容については問わない）。

○授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること（予約優先）。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	－	○	－

授業名称	専門職教育論			科目コード	PEPC2304S
担当教員	齋藤 崇徳	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は専門職教育についてその背景となる社会や教育制度のあり方から総合的に理解することを通じて、履修者それぞれが考える専門職教育（制度）のあり方について考察を深めることである。専門職教育についての基礎的知識を学習し、その歴史的・社会的な側面についての知識を深め、専門職を広く政治的な側面から学習し、自ら専門職教育を実践する際の制度を構想することを目指す。

到達目標

① 履修者が現代の専門職教育に関する基礎的知識を理解し、他者に説明することができる。
② 履修者が専門職教育の歴史とその社会的条件を理解し、他者に説明することができる。
③ 履修者が専門職教育の総合的理解にもとづき、携わる実務や組織、産業の領域に関連する専門職教育プログラムや制度について自らの言葉で提案することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）授業の導入 本授業の主題と目標について共有し、現代日本における専門職教育の重要性を理解することを通じ授業全体を概観する。	事前	授業資料、シラバス、参考書の確認（4h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h）
第 2 週	（第 2 講）専門職の定義／（第 3 講）専門職をどう研究するか 専門職とは何かを考えることを通じて、本授業の対象について理解するとともに、それを研究・構想するための理論および方法論について考察する。	事前	配布資料の確認（1h）
		事後	講義内容・討論の復習（3h） コメントペーパーの提出（1h）
第 3 週	（第 4 講）専門職の政治／（第 5 講）専門職の量 専門職をめぐる政治について概観するとともに、専門職の量をコントロールする政治的関係について考察する。	事前	配布資料の確認（1h）
		事後	講義内容・討論の復習（3h） コメントペーパーの提出（1h）
第 4 週	（第 6 講）専門職の質／（第 7 講）専門職の創出 第 3 週から引き続き専門職の質にかかわる政治的関係について考察するとともに、政治的な背景を踏まえて新たな専門職を創出することについて検討し、最終週での報告の準備を行う。	事前	配布資料の確認（1h）
		事後	講義内容・討論の復習（3h） コメントペーパーの提出（1h）
第 5 週	（第 8 講）職業教育の理念／（第 9 講）日本の職業教育 専門職教育を考える上で基礎となる職業教育の理念を一般教育との比較から理解するとともに、日本における職業教育の歴史と特徴を学ぶ。	事前	配布資料の確認（1h）
		事後	講義内容・討論の復習（3h） コメントペーパーの提出（1h）
第 6 週	（第 10 講）専門職教育の歴史／（第 11 講）専門職教育の比較 専門職教育が歴史的にどのように発展してきたのかを欧米の事例から学習し、国・社会による差異について理解する。	事前	配布資料の確認（1h）
		事後	講義内容・討論の復習（3h） コメントペーパーの提出（1h）
第 7 週	（第 12 講）プロフェッショナル・スクール／（第 13 講）専門	事前	配布資料の確認（1h）

	職大学院と専門職大学 第 6 週から引き続き専門職教育の代表的制度であるプロフェッショナル・スクールと、日本の専門職大学院・専門職大学（短期大学）制度について理解する。	事後	講義内容・討論の復習（3h） コメントペーパーの提出（1h） 報告の構想（1h）
第 8 週	（第 14 講・第 15 講）報告と討論 履修者それぞれの問題関心から専門職教育についての新しい構想あるいは現状の改革案について報告する。	事前	報告の準備（10h）
		事後	報告内容・討論の復習（3h） コメントペーパーの提出（1h） 発表者へのフィードバックペーパーの提出（10h）

授業の進め方と方法

各講の授業では、最初に配布資料を用いて講義を行い、その後、討論を実施し、さらに各履修者は授業後にコメントペーパーを作成する。これらを通じて授業の主題の理解を深めるとともに自分の中での専門職教育のあるべき像を固めていく。それを踏まえて授業の最後に履修者が専門職教育の新たな構想あるいは現状を改革するための提案について報告を行い、討論を行う。また、報告および討論を踏まえ、他の履修者の報告についてのフィードバックペーパーを提出する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

参考書：内山融・伊藤武・岡山裕編（2012）『専門性の政治学―デモクラシーとの相克と和解』，ミネルヴァ書房.

トム・ニコルズ（2019）『専門知は、もういらないのか―無知礼賛と民主主義』，みすず書房.

橋本鉱市編（2009）『専門職養成の日本的構造』，玉川大学出版部.

橋本鉱市編（2015）『専門職の報酬と職域』，玉川大学出版部.

橋本鉱市編（2019）『専門職の質保証―初期研修をめぐるポリティクス』，玉川大学出版部.

評価方法

毎講の討論への貢献　30%

コメントペーパーの提出　20%

最終週での報告　30%

フィードバックペーパーの提出　20%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	−	○	−

授業名称	学習する組織			科目コード	PEPC1305S
担当教員	田原 祐子	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「学習する組織」に関する理論を学ぶとともに、「学習する組織」を形成するためにどのような視点や方法が必要かを理解し、自らが組織を変革するための知見を身につけることである。

上記目的を達成するため、本授業では、ピーター・M、センゲによるオリジナルの議論を端緒として、計６冊の課題図書を輪読し、組織のレジリエンスを育むために必要な、「学習する組織」に関連する理論を理解し、学習する組織の根幹をなす概念たるシステム思考について実践的に学修する。また、「学習する組織」を形成するために必要とされる、心理的安全性などの環境整備についての知識や、理論的素地を養うとともに、さまざまな組織に散在する課題を理解・分析・解決する方法を検討していく。

到達目標

① 履修者が、「学習する組織」に関連する理論や視点を説明できるようになる。
② 履修者が、所属する組織を「学習する組織」へと発展させるために何が必要かを理解し、実践および、課題解決のための思考法を身につけることができる。
③ 履修者が、修得した理論や視点をもとに、「学習する組織」について説得的に分析できるようになる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）ガイダンス：「学習する組織」が必要とされる背景：学習する組織の意義、チェンジマネジメント、知の共有	事前	シラバスの精読（0.5h） 授業での質問事項の検討（0.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 2 週	（第 2 講）「学習する組織」５つのディシプリン：システム思考、自己マスタリー、メンタル・モデル、共有ビジョン、チーム学習の理解 （第 3 講）５つのディシプリンによって解決できる組織の課題 課題図書：ピーター・センゲ（2011）『学習する組織―システム思考で未来を創造する』,英治出版.	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 3 週	（第 4 講）システム思考：システム思考の概要、原因と結果、ループ図、時系列、パターン、レバレッジ・ポイントの理解 （第 5 講）システム思考によって解決できる組織の課題 課題図書：枝廣淳子、小田理一郎（2007）『なぜあの人の解決策はいつもうまくいくのか？』,東洋経済新報社.	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 4 週	（第 6 講）変革リーダーシップ：変われない理由、免役システム（不安管理システム）、チェンジマネジメントの理解 （第 7 講）変革リーダーシップによって解決できる組織の課題 課題図書：ロバート・キーガン他（2013）『なぜ人と組織は変われないのか―ハーバード流自己変革の理論と実践』,英治出版.	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 5 週	（第 8 講）コミュニティによる実践学習：実践共同体、コミュ	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h）

	ニティ形成、実践学習、経験学習、実践知、集合知、ナレッジマネジメントの理解 （第 9 講）コミュニティによる実践学習によって解決できる組織の課題 課題図書 : エティエンヌ・ウェンガー他著（2002）『コミュニティ・オブ・プラクティス―ナレッジ社会の新たな知識形態の実践』,翔泳社.		参考図書の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 6 週	（第 10 講）対話（ダイアローグ）とエンゲージメント : ダイアローグの本質とオープンコミュニケーションの理解 （第 11 講）対話とエンゲージメントによって解決できる組織の課題 課題図書 : デビッド・ボーム（2007）『ダイアローグ 対立から共生へ 議論から対話へ』,英治出版.	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 7 週	（第 12 講）学習力と実行力を高める組織学習 : チーミング、心理的安全性、失敗からの学習アプローチの理解 （第 13 講）組織学習によって解決できる組織の課題、最終発表の計画立案・準備 課題図書 : エイミー・C・エドモンドソン（2014）『チームが機能するとはどういうことか―「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ』,英治出版.	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h） 最終発表の計画立案（5h）
第 8 週	（第 14 講）（第 15 講）発表~プレゼンテーション : これまで学修した内容を活用し、履修者が所属する組織を題材とした組織課題の解決、および、「学習する組織」実現のためのアプローチ、講評と総合ディスカッション	事前	最終発表の準備（2h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（1h） 最終発表フィードバックの復習（1h） 最終レポート課題（4h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、毎回一冊の課題図書を通読してくることを求め、課題図書で議論されている内容をもとに、講義と発表、ディスカッション、グループワークを中心に進行する。
また、履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係するか、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてミニットペーパーに記入し、毎回の授業後の課題として提出する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。課題図書以外の参考書は、授業中に紹介する。

評価方法

① ミニットペーパーの提出（15%）: 毎回の授業後、履修者の意見と、そう考える理由を記す。
② 発表・ディスカッション・グループワークへの貢献度（35%）
③ 最終プレゼンテーション（30%）
④ 最終レポート課題（800 字）（20%）

その他の重要事項

遅刻や欠席をする場合は、学内の LMS（学習管理システム）またはメール等を通じて事前に連絡すること。

本授業に関する疑問点や不明点については、担当教員まで問合せること。				
2022 年度科目との読替え				
なし				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	−	○	−

授業名称	ナレッジ・マネジメント			科目コード	PEPC2307S
担当教員	田原 祐子	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、人・組織・企業・社会に潜む、知恵やノウハウという「暗黙知」「経験知」に気づき、それらを「形式知化」しながら組織～社会でスパイラルアップしていくという、ダイナミックでエキサイティングなプロセスを通じて、実践的ナレッジ・マネジメント（Knowledge Management）の導入・活用法を理解・修得することである。さらに、2018 年に公示された ISO30401（Knowledge management systems - Requirements）、SFA（Sales Force Automation）、MA（Marketing Automation）等、先端ビジネスの知識も取り入れ、ナレッジ・マネジメントを活用することで、「知を共有する組織」を形成し、新しい知恵やビジネスを創造する力を醸成する。また、社会における知的資本経営の必要性と、企業価値創造における無形資産（インタンジブル・アセット）の重要性等を理解して、組織で知を共有し、ナレッジを戦略的に活用する一方で、人材の流動化による知恵・知財の消滅・流出といった、人的資本と知的資本の関係性や、これらの課題への対応法も同時に修得する。
本授業では、理論と実践を融合させるため、講師がコンサルティングの現場において 20 年以上、実際にナレッジ・マネジメントを手掛けた事例、および、履修者が直面している実際の課題等を取り上げ、自らの手で職場や社会に潜在する「暗黙知を形式知化」し、研究に役立てられるよう、再現性を重視しつつ検討していく。

到達目標

① 履修者が、ナレッジ・マネジメントの視座から、自らの研究に結びつく課題を発見できるようになる。
② 履修者が、ナレッジ・マネジメントを活用して、社会における課題を取り上げ、解決案を提案できるようになる。
③ 履修者が、ナレッジ・知的資本を活用して、社会・業界における競争力を高める戦略を立案できるようになる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）ガイダンス：「暗黙知と形式知」と「ナレッジ・マネジメント」「ISO30401」「無形資産と知的資本・人的資本」	事前	シラバスの精読（0.5h） 授業での質問事項の検討（0.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 2 週	（第 2 講）（第 3 講）「ナレッジ・マネジメントの理論とモデル」：SECI モデル、DIKW モデル、KW モデル、暗黙知を形式知化する 7 つの Step（フレーム&ワークモジュール）の理解と応用	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 参考図書該当部分の読み込み（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 3 週	（第 4 講）（第 5 講）「ケーススタディ」Ⅰ：ナレッジ・マネジメントによる、新規事業、組織開発と、チャネル、クラスター、エコシステム、ビジネスモデルの構築 ① 事業会社②介護・医療施設③法律事務所の事例分析・検証	事前	授業資料の確認（1.5h） ケーススタディ考察（1.5h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 4 週	（第 6 講）（第 7 講）：「ケーススタディ」Ⅱ：ナレッジ・マネジメントによる課題解決手法と「組織で知を共有する方法」の理解・修得 ① 営業（SFA） ②マーケティング（MA） ③人材育成・開発	事前	授業資料の確認（1.5h） ケーススタディ考察（1.5h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）

	④ FC（フランチャイズ）の事例分析・検証		
第 5 週	（第 8 講）（第 9 講）「実践課題・演習Ⅰ」: 発表計画の概要と検討（各自の課題抽出～分析～仮説～導入計画）	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 発表計画立案（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 6 週	（第 10 講）（第 11 講）「実践課題・演習Ⅱ」: 中間報告（分析結果～仮説検証～導入計画、および、手順の確認）	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 発表計画修正（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h） 最終発表の計画立案（5h）
第 7 週	（第 12 講）（第 13 講）発表・プレゼンテーション～これまで学修した内容を活用し、履修者が所属する組織を題材としたナレッジ・マネジメント実現のためのアプローチ、講評～総合ディスカッション	事前	最終発表の準備（2h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 最終発表フィードバックの復習（1h） 講義・ディスカッションの復習（2h）
第 8 週	（第 14 講）（第 15 講）ナレッジ・マネジメントの仮想プロジェクト導入模擬体験 : 導入～実践～PDCA、定着支援、スパイラルアップまでのアプローチ, AI と人間の知について	事前	授業資料の確認（1.5h） ディスカッションの準備（1h） 仮想プロジェクト関連の調査（1.5h）
		事後	ミニットペーパーの提出（1h） 講義・ディスカッションの復習（1h） 最終レポート課題（4h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッション、グループワークを中心に進行する。また、履修者は、学んだ内容が自らの実務の課題と、どのように関係し、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてミニットペーパーに記入し、毎回の授業後の課題として提出する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。参考書は以下の通り。

- 野中郁次郎・竹内弘高(2020)『知識創造企業』,東洋経済新報社.
- 入山章栄（2019）『世界標準の経営理論』,ダイヤモンド社. その他、授業中に適宜参考図書を紹介する。

評価方法

① ミニットペーパーの提出（15%）: 毎回の授業後、履修者の意見と、そう考える理由を記す。

② ディスカッション・グループワークへの貢献度（25%）

③ 最終プレゼンテーション（40%）

④ 最終レポート課題（800 字）（20%）

その他の重要事項

遅刻や欠席をする場合は、学内の LMS（学習管理システム）を通じて事前に連絡すること。

本授業に関する疑問点や不明点については、担当教員まで問い合せること。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
		○	○	

授業名称	現代社会と人的資本			科目コード	PEPC2308S
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会の潮流と人的資本の関係性について理解することである。そのために本授業では、会計学上で議論されている「人的資本」の諸説だけでなく、社会学や経済学の知見を敷衍することで複眼的な観点から「人的資本」について理解すること目指す。本授業では、人的資本そのものの議論だけでなく、人的資本から能力開発や社会的投資国家まで、人的資本という考え方がどのように社会制度に影響を与えるのかという観点もふくめて考究することを予定している。

到達目標

① 履修者が現代社会と人的資本の基礎的な知識を身につけており、人的資本の考え方を理解することができる。
② 履修者が、本授業でとりあげる現代社会と人的資本の理論枠組みを理解し、すくなくとも２つの観点から現代社会と人的資本を説明することができる。
③ 履修者が現代社会の潮流と人的資本の関係性を捉えた上で、自らの所属している組織あるいは我が国における人的資本政策に対する提言ができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	**（第 1 講）*Positioning for the Journey*** 本授業の探究の旅路を深めるとともに、現代社会においてなぜ人的資本が着目されるに至ったのかを検討する。	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h）
第 2 週	**（第 2 講／第 3 講）経済社会学** 現代社会と人的資本を論ずるにあたり、社会における経済システムあるいは労働についての知識を概観する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）
第 3 週	**（第 4 講／第 5 講）人的資本論概説** 人的資本に関わる諸学説について考究し、人的資本の考え方について議論する。あわせて、文化資本・知的資本も検討する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）
第 4 週	**（第 6 講／第 7 講）労働経済学** 人的資本を労働経済学（とりわけシグナル理論との比較）の観点から概観する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 総括討論に向けた資料探索（1h）
第 5 週	**（第 8 講／第 9 講）教育経済学** 人的資本を教育経済学の観点から概観する。あわせて認知資本主義論についても考究する。	事前	事前配布資料を読む（3h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 総括討論に向けた資料探索（1h）
第 6 週	**（第 10 講／第 11 講）能力開発論** 企業や組織における人的資本投資の一つとしての能力開発について、特に OJT と Off-JT の比較について考究する。	事前	事前配布資料を読む（3h） 総括討論に向けた資料探索（2h）
		事後	総括討論に向けた資料作成（2h） コメントペーパーの提出（1h）
第 7 週	**（第 12 講／第 13 講）社会的投資国家**	事前	事前配布資料を読む（3h） 総括討論に向けた資料作成（3h）

	人的資本と社会的投資国家の関係性について概観し、今後の人への投資のありようについて考究する。	事後	総括討論に向けた資料作成（3h） コメントペーパーの提出（1h）
第 8 週	**（第 14 講／第 15 講）総括討論** 人的資本にかかわる様々な議論において、履修者の問題関心から報告する。	事前	総括討論に向けた資料作成（10h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） リサーチワーク（3h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90 分×２コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。

※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。以下、参考図書を列記する。

- マーク・グラノヴェター（2019）『社会と経済：枠組みと原則』、ミネルヴァ書房。
- 伊藤邦雄編著（2006）『無形資産の会計』、中央経済社。
- ゲーリー・ベッカー（1976）『人的資本――教育を中心とした理論的・経験的分析』、東洋経済新報社。
- 猪木武徳（2017）『モダン・エコノミックス 24　経済思想』、岩波オンデマンドブックス。
- ジョナサン・ハスケル（2020）『無形資産が経済を支配する』、東洋経済新報社。
- 清家篤・風神佐知子（2020）『労働経済』、東洋経済新報社。
- 三浦まり（2018）『社会への投資――〈個人〉を支える〈つながり〉を築く』、岩波書店。

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるように換算する。60 点を超えるものに単位を付与する。

１０．　授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」（35%）

本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。

１１．　最終授業回でのディスカッションならびに発表（65%）

本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。

その他の重要事項

コンタクトならびにオフィスアワーについて

○メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること（相談内容については問わない）。

○授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること（予約優先）。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	－	－	○	－

授業名称	コーチングとファシリテーション			科目コード	PEPC2313S
担当教員	佐藤 宏樹	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、実務家教員として必要なコーチングとファシリテーションの力の基礎を身につけることである。これまでの学校教育では、学習者の共通性を前提とした講義形式の「一斉授業（ティーチング）」が主流だったが、「個別具体的な学び」が求められる現在、個々の学生の特性や意欲を引き出すコーチとしての技能が求められている。また「協働的な学び」を実現するためには、心理的に安全な学習環境を設け、学び合いを促進するファシリテーターとしての力が不可欠である。本授業では、コーチングとファシリテーションに関する理論を学ぶと同時に、参加型のグループワークを通じて、理論を土台とした技能を体得するところに主眼を置く。特にファシリテーションは多様な場面で活用されているものの、捉え方の統一が図られていないある種不明瞭な概念でもある。そこで、教員による講義だけでなく、受講者の経験知も交えることでこれらの概念の明瞭さを高め、力を活用する際の拠り所を具体化する。その上で、個人の特性を活かした多様なファシリテーション/コーチングの在り方を構築することを目指す。

到達目標

① 履修者が、ファシリテーションとコーチングの理論的背景や特徴について説明できる。
② 履修者が、ファシリテーション・コーチングの理論を抑えつつ、それらの活用方法の多様性を理解し、自分なりの行動指針を言語化できる。
③ 履修者が、傾聴・質問・承認などコーチングの基本スキルを効果的に使って、学生の指導に活用できる。
④ 履修者が、対話を促すファシリテーションの基本スキルを意識的に用いて、各位の実践または日常的コミュニケーションに活用できる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）ガイダンス／授業で扱う概念（コーチング・ファシリテーション）の整理・求められる社会背景	事前	シラバスの精読(1h)
		事後	自身のコーチングとファシリテーションを意識的に捉える(1h)
第 2 週	（第 2 講）ファシリテーション理論 （第 3 講）ファシリテーションとは何かを再考する	事前	前回授業の振り返り(2h) ファシリテーション経験の俯瞰(2h)
		事後	授業での気づきをリフレクションシートにまとめる(1h) ファシリテーションの実践(3h)
第 3 週	（第 4 講）ファシリテーションを構成する要素①（スキル・能力・思考・知識） （第 5 講）聴く・観る・促す技術	事前	前回授業の振り返り(2h) ファシリテーション経験の俯瞰(2h)
		事後	授業での気づきをリフレクションシートにまとめる(1h) ファシリテーションの実践(3h)
第 4 週	（第 6 講）ファシリテーションを構成する要素②（在り方・纏・個性） （第 7 講）在り方の認識と応用	事前	前回授業の振り返り(2h) ファシリテーション経験の俯瞰(2h)
		事後	授業での気づきをリフレクションシートにまとめる(1h) ファシリテーションの実践(3h)
第 5 週	（第 8 講）場の流動性・ファシリテーターの流動性 （第 9 講）場の理想像の構築と行動指針の明確化	事前	前回授業の振り返り(2h) ファシリテーション経験の俯瞰(2h)
		事後	授業での気づきをリフレクションシートにまとめる(1h) ファシリテーションまたはコーチングの実践(3h)

第 6 週	（第 10 講）コーチング理論／コーチとして在り方 （第 11 講）声がけの技術・GROW モデル	事前	前回授業の振り返り(2h) コーチング経験の俯瞰(2h)
		事後	授業での気づきをリフレクションシートにまとめる(1h) コーチングの実践(3h)
第 7 週	（第 12 講）コーチングを経験から捉える （第 13 講）コーチング実践 ＊第 7 週はゲスト講師による授業を予定	事前	前回授業の振り返り(2h) コーチング経験の俯瞰(2h)
		事後	授業での気づきをリフレクションシートにまとめる(1h) コーチングの実践(3h) 課題発表の準備(1h)
第 8 週	（第 14 講）期末課題発表と相互フィードバック① （第 15 講）期末課題発表と相互フィードバック②／まとめ	事前	前回授業の振り返り(2h) コーチング経験の俯瞰(2h) 課題発表の準備(1h)
		事後	授業での気づきをリフレクションシートにまとめる(1h) 期末課題レポートの執筆(3h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、各回とも前半座学（前回の質問対応等も含む）、後半ワーク（個人・ペア・グループ）を基本形式とする。

教科書・参考書

参考書

- 中野民夫（2001）『ワークショップ』, 岩波書店.
- 中野民夫、堀公俊（2009）『対話する力-ファシリテーター23 の問い』, 日経 BP マーケティング.
- ボブ・スティルガー著、野村恭彦監訳、豊島瑞穂訳（2015）『未来が見えなくなったとき、僕たちは何を語ればいいのだろう』, 英治出版.
- 本間正人他（2018）『日経文庫 コーチング入門（第 2 版）』, 日本経済新聞社.

評価方法

リフレクションシート（コメントペーパー）：30%

授業内対話への貢献度：40%

期末課題の発表および発表内容をまとめたレポート：30%

授業内の演習（対話）へは積極的な（楽しむ心を持って）参加を奨励する。

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法：

Teams のチャットから連絡・調整すること。

授業実施方法等：

オンラインで実施するので、Teams の扱いに慣れておくこと。

他の履修者のプライバシーに十分配慮し、守秘義務を守ること。

履修者の専門分野や方向性に配慮し、各講の内容が前後したり、変更される場合もある。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	−	−

授業名称	グローバル・ラーニングイノベーション			科目コード	PEPC2314S
担当教員	金光　秀和	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業は、グローバルな視野を持ちながら、21 世紀の教育における新たな価値観と方法論を探求し、履修者が実務家教員として新しい教育実践を構築する力を養うことを目的とする。履修者は、ミネルバ大学のような先進的な教育機関の事例、対話型授業、社会と連携した大学教育、グローバル社会における倫理教育、21 世紀に求められる教養教育などのテーマを学ぶ。これらを基に、自らの教育現場で革新的なプログラムを構想し、実践するためのスキルを身に付けることをめざす。また、これらのテーマに関する対話を通じて、多様な視点から現代教育の在り方を再考し、変化する社会環境に柔軟に対応できる教育の未来を創造する力を養う。

到達目標

① 履修者が、21 世紀の教育における新たな価値観や方法論に関する理論や視点を説明できる。
② 履修者が、他者との対話を通じて、現代の教育について多様な視点から検討できる。
③ 履修者が、新しい教育実践を説得力を持って構想し、実践に適用できる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）ガイダンス：本授業の問題意識、内容、評価方法に関する概説	事前	シラバスおよび参考書の確認（1h）
		事後	授業内容の振り返り（1h） 新しい教育実践の構想（2h） 最終レポートに向けた準備（1h）
第 2 週	（第 2 講）新しい教育モデル：ミネルバ大学の事例 （第 3 講）【対話演習】アクティブラーニング再考	事前	シラバスおよび参考書の確認（2h）
		事後	授業の振り返り（2h） 新しい教育実践の構想（2h） 最終レポートに向けた準備（1h）
第 3 週	（第 4 講）対話型授業：現代における対話と問いの重要性 （第 5 講）【対話演習】哲学的対話の実践	事前	シラバスおよび参考書の確認（2h）
		事後	授業の振り返り（2h） 新しい教育実践の構想（2h） 最終レポートに向けた準備（1h）
第 4 週	（第 6 講）社会と連携した大学教育：社会連携科目の事例 （第 7 講）【対話演習】大学の学びと社会とのつながりの考察	事前	シラバスおよび参考書の確認（2h）
		事後	授業の振り返り（2h） 新しい教育実践の構想（2h） 最終レポートに向けた準備（1h）
第 5 週	（第 8 講）個人発表①「教育実践の構想Ⅰ」（対話型授業・社会連携科目の提案） （第 9 講）個人発表②「教育実践の構想Ⅰ」（対話型授業・社会連携科目の提案）	事前	個人発表の準備（3h）
		事後	個人発表の振り返り（2h） 最終レポートに向けた準備・中間まとめ（4h）
第 6 週	（第 10 講）グローバル社会における倫理教育：専門職倫理教育の事例 （第 11 講）【対話演習】大学教育と行動の変容、および評価方法についての考察	事前	シラバスおよび参考書の確認（2h）
		事後	授業の振り返り（2h） 新しい教育実践の構想（2h） 最終レポートに向けた準備（1h）
第 7 週	（第 12 講）これからの教養教育：設計的思考と倫理の関係 （第 13 講）【対話演習】これからの大学教育のあり方の考察	事前	シラバスおよび参考書の確認（2h）
		事後	授業の振り返り（2h） 新しい教育実践の構想（2h）

			最終レポートに向けた準備（1h）
第 8 週	（第 14 講）個人発表③「教育実践の構想Ⅱ」（グローバル社会における新しい教育・これからの教養教育に関する提案） （第 15 講）個人発表④「教育実践の構想Ⅱ」（グローバル社会における新しい教育・これからの教養教育に関する提案）	事前	個人発表の準備（3h）
		事後	個人発表の振り返り（2h） 最終レポートの執筆（6h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は知識を学ぶだけでなく、履修者同士、また履修者と担当教員が対話する時間を多く設ける。また、履修者自身が新しい教育実践を構想して、それを発表する機会を設ける。したがって、履修者は、受動的に講義を受講するだけでなく、能動的に授業および対話に参加し、自らの意見を述べること、他者の意見を聞くこと、他者とともに考えることが期待される。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

参考書：必要に応じて適宜紹介するが、本授業で扱うテーマに関連して以下の書籍を挙げておく。それぞれの書籍と本授業とのかかわりについては、第 1 講で説明する。

・スティーヴン・M・コスリン、ベン・ネルソン編著（2024）『ミネルバ大学の設計書』，東信堂

・河野哲也（2014）『「こども哲学」で対話力と思考力を育てる』，河出書房新社

・友成真一（2016）『ワセダ発! ぶつかる社会連携 大学職員による教育プログラム』，水曜社

・金沢工業大学・科学技術応用倫理研究所編（2017）『本質から考え行動する科学技術者倫理』，白桃書房

・エリザベス・F・バークレイ、クレア・ハウエル・メジャー（2020）『学習評価ハンドブック：アクティブラーニングを促す 50 の技法』，東京大学出版会

・吉見俊哉（2011）『大学とは何か』，岩波書店

評価方法

個人発表 40%（20%×2 回）

※本授業で学んだことを基に、新しい教育実践を構想し、その内容について発表する。

最終レポート課題（60%）

※毎時の授業内容の振り返りを積み重ねた上で、本授業から学んだこと、活かしたいことを論述する。

その他の重要事項

授業後の時間にオフィスアワーを設ける。

本授業は Microsoft Teams を使用してオンラインで行う。授業中に対話があるため、カメラとマイクをオンにできる環境で受講すること。

2022 年度科目との読替え

事務局記入欄

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	−	−	○

授業名称	教育コンテンツ開発			科目コード	PEPC2310S
担当教員	廣政 愁一	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	月 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が知識を社会へと効果的に普及する新たな「教育コンテンツ」「教育サービス」を構想するための能力を身につけることにある。

教育事業や新たなスクール運営を立ち上げようとすれば、マネジメントなどの運営のみならず、何を教えようとするのか教育コンテンツや学習サービスの設計が必要となる。本授業では、塾や予備校、大学・大学院・ビジネススクール、あるいは教育ベンチャーや人材研修といった主体についての学習サービスの設計を通じて、持続可能な教育コンテンツがどのような条件で実現できるのかを検討し、独自の教育コンテンツを創造できるようになる。

到達目標

① 履修者が現代社会から生じる教育への需要を満たすことのできる「コンテンツ」を創り出せる。
② 履修者が教育コンテンツビジネスとは何かを理解し、既存の教育コンテンツがどのようなビジネスモデルになっているかを説明することができる。
③ 履修者が最新の教育コンテンツを作っている主なベンチャーの動向を知り、その成否の原因を経営側から説明することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（1 講） オリエンテーション 「教育コンテンツがなぜ今大切なのか」 授業の進め方と授業計画の確認を行う。あわせて教育コンテンツについての概論を講義する。	事前	シラバスを読み、本授業の期待するところを書き出す(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h)
第 2 週	（2・3 講） 教育コンテンツ・事業の全体像概観 現在の教育事業にどのようなものがあるかを検証し、それぞれの教育事業分野がどの程度成長していく可能性があるのか、それとも飽和、あるいは衰退しているのかを議論していく。その中で、経営でもっとも大切な教育ビジネスの勘所を鍛える。	事前	課題配布資料を読む(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第 3 週	（4・5 講） 教育ベンチャーの現状（１）――マーケットの限界とその規模 日本においてさまざまな教育ベンチャーが生まれてきているが、成功事例を見ながら、なぜ成功したのかを議論する。マーケティングの成功なのか、事業構造の強さなのか、マネジメントなのか。同様な成功の数々を見ながら共通項を探求する。	事前	課題配布資料を読む(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第 4 週	（6・7 講） 教育ベンチャーの現状（２）――マーケットの可能性とその規模 前回に続き、豊富なケーススタディを扱って講義する。日本においてさまざまな教育ベンチャーが生まれてきてい	事前	課題配布資料を読む(3h)
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 総括討論に向けた資料探索(1h)

	るが、前回とは反対に失敗事例を見ながら、どうして失敗したのかを議論する。マーケティングの失敗なのか、事業構造の弱さなのか、マネジメントなのか。同様な失敗の数々を見ながら共通項を探求する。		
第 5 週	（8・9 講）　教育業界でのマーケティング――顧客はだれなのか 教育ビジネスの中でもっとも大切なことは「顧客の対象」である。BtoB なのか BtoC なのかあるいは BtoBtoC なのか。また、塾や予備校の顧客ははたして誰なのかを議論していく。その議論は顧客を明解にした戦略を生みだす元となる。	事前 事後	課題配布資料を読む(3h) コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料探索(1h)
第 6 週	（10・11 講）教育コンテンツ開発―経営戦略の基本に当てはめる 教育コンテンツの中でも大学・大学院・ビジネススクールは新たなサービス局面に入っている。そのコンテンツ戦略を議論する。	事前 事後	課題配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料探索(2h) コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料作成(2h)
第 7 週	（12・13 講）教育コンテンツの設計―骨太な事業計画の作り方 履修者が独自に開発する教育コンテンツをつくる際の「ヒト・モノ・カネ・情報」を検証し、現実的なものにすることを教授する。	事前 事後	課題配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料作成(3h) コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料作成(3h)
第 8 週	（14・15 講）総括討論 これまでの授業をまとめるとともに、履修生に対して独自の新規の教育コンテンツの口頭発表を課す。	事前 事後	総括討論に向けた資料作成(10h) コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法を用いる。本講義については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く探求するため、90 分×2 コマ連続で実施する。
また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。
※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。それぞれの授業で配布する。以下、参考図書を列記する。授業中に適宜、下記のほか参考文献を紹介する。

- 嶋田真貴・西村克之・松本晃・為田裕行・山田未知之・松本暁,2019,『学習塾白書』株式会社私塾界.
- 中室牧子,2015,『学力の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン.
- 田所雅之,2017,『起業の科学』日経 BP.

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100 点満点になるように換算する。
60 点を超えるものに単位を付与する。
１．授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」（35%）

本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。

２．最終授業回でのディスカッションならびに発表（65%）

本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。

その他の重要事項

Teams のチャット機能で連絡をすること。相談内容は問わない。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	−	−	○	−

授業名称	教育のマネジメントの理論と実践			科目コード	PEPC2311L
担当教員	藏田 實	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	土 A（1・2 限）
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、教育のマネジメントに関する議論を今日的な教育状況に即して読み解き、それに基づく国の施策や先進的な事例を検討することで、教育プログラムの質保証をそれぞれの教育関連機関の水準で担保することについて考察する。教育のマネジメントをめぐる議論の広がりを学修者本位の内在的な観点に留意し、あるべき実践的な教育のマネジメントに関する手法を修得する。本授業では、中央教育審議会が作成した高等教育における「教学マネジメント指針」についても多面的な分析を行い、教育現場からの事例報告も踏まえ、履修者が独自の教育プログラム作りに取り組み、教育のマネジメントの在り方について理解を図る。

到達目標

① 履修者が教育のマネジメントをめぐる主要な課題について理解し、説明することができる。
② 履修者が教育のマネジメントの方法論を実践の水準に落とし込む方策について提案することができる。
③ 履修者が教育のマネジメントの手法を用いて自らが取り組む教育プログラムを設計することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）ガイダンス及びイントロダクション	事前	シラバスの精読（0.5h） 授業での質問事項の検討（0.5h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h）
第 2 週	（第 2 講）高等教育の今日的な課題について整理する （第 3 講）高等教育をめぐる改革を検証する	事前	授業資料の確認（1h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h）
第 3 週	（第 4 講）大学の組織と運営について考える （第 5 講）教員と学生の現状を理解する	事前	授業資料の確認（1h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h）
第 4 週	（第 6 講）「教学マネジメント指針」を読み解く① ——３つのポリシー（DP・CP・AP）について （第 7 講）「教学マネジメント指針」を読み解く② ——PDCA サイクルについて	事前	授業資料の確認（1h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h）
第 5 週	（第 8・9 講）教育のマネジメントに係る教育行政の考え方 ——文部科学省前担当官からの報告（予定）	事前	授業資料の確認（1h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h）
第 6 週	（第 10 講）教育のマネジメントに係る教育現場からの先進的事例①　——大学学長からの報告（予定） （第 11 講）教育のマネジメントに係る教育現場からの先進的事例②　——大学教員からの報告（予定）	事前	授業資料の確認（1h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h）
第 7 週	（第 12・13 講）教育プログラムの作成① ——３つのポリシーを考える	事前	授業資料の確認（1h） 発表の準備（7h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（1.5h） 発表内容のレポート提出（5h）

第 8 週	（第 14・15 講）教育プログラムの作成② ――カリキュラムツリーを考える	事前	授業資料の確認（1h） 発表の準備（7h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（1.5h） 発表内容のレポート提出（5h）

授業の進め方と方法

本授業は、第 2 週目以降、2 講（90 分×2）連続で実施する。

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、第 2 週～4 週は担当教員による講義と履修者とのディスカッションを交えた演習方法で行う。第 5・6 週はゲスト講師を招聘し、実践的な内容についてディスカッションを含め実施する。第 7・8 週には、それまで学修した知見を生かし、各履修者が作成した教育プログラムの発表を行う。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

参考資料：中央教育審議会大学分科会（2020）『教学マネジメント指針』

https://www.mext.go.jp/content/20200206-mxt_daigakuc03-000004749_001r.pdf

参考書：濱名篤（2018）『学修成果への挑戦　地方大学からの教育改革』, 東信堂.

永田恭介・山崎光悦(編著)（2021）『教学マネジメントと内部質保証の実質化』, 東信堂.

評価方法

1　コメントペーパー（30%）

2　授業への貢献度（30%）

3　第 7・8 週での発表内容及び発表レポート（40%）

その他の重要事項

1　授業前後にオフィスアワーを設け、その予約の方法については初回の授業で説明する。

2　本授業は、第 1 週と第 7・8 週をハイフレックス、第 2 週～第 6 週をオンラインで実施する。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	－	－

授業名称	ICT と教育			科目コード	PEPC2312S
担当教員	中川 哲	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	水 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、教育 ICT の取り組みに関する歴史的経緯、および教育 ICT が求められる背景や目指す教育像を理解し、受講者が ICT 教育の現状と展望について検討するための素養を身につけることにある。主に初等中等教育における ICT を用いた教育実践について学ぶ。既存の教具や教材は、技術革新によりアップデートされ続けるものであり、「ICT を教育に適用すること」の本質を理解しない限り、目先の新技術への対応に腐心することになる。本授業では、履修者による課題報告の時間を設けることで、表層的理解を超えて、ICT 教育の未来について考える契機を提供する。

到達目標

1　履修者が、ICT を用いた教育の歴史的経緯、教育 ICT が求められる背景を理解し、説明できる。
2　履修者が、ICT を用いた初等中等教育において授業で用いる教育コンテンツを構想することができる。
3　履修者が、2 を応用し、自ら構想した教育コンテンツを用いて授業を構成し、実際に大学あるいは大学院などで授業を運営できるようになる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）オリエンテーション（本授業の目的・到達点・授業の進め方、教育における ICT の必要性と全体像把握） キーワード：ICT 教育の歴史的展開、教育工学	事前	シラバスの精読（1h） 到達目標についての自己設定（2h）
		事後	リフレクション(2h)
第 2 週	（第 2・3 講）「ICT と教育（初等中等教育）」の現状 キーワード：GIGA スクール構想、デジタル教科書、EdTech、プログラミング教育、	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 3 週	（第 4・5 講）：ICT による個別最適な学びと協働的な学び キーワード：クラウド学習支援、探究学習、PBL、自由進度学習	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 4 週	（第 6・7 講）：事例に基づく ICT を用いた教育のデザイン 1 キーワード：ID、ARCS モデル、ガニエ	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 5 週	（第 8・9）：事例に基づく ICT を用いた教育のデザイン 2 キーワード：リフレクション、ALACT モデル、コルトハーヘン	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 6 週	（第 10・11 講）：事例に基づく「ICT と教育」に関する実践	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 7 週	（第 12・13 講）：「ICT と教育」に関する事例研究	事前	本週の内容に関する学習（2h） 発表準備(4h)
		事後	リフレクション(2h)
第 8 週	（第 14・15 講）課題の発表と全体ディスカッション・講評～授	事前	発表準備(5h)

	業総括	事後	リフレクション(2h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は授業範囲の内容を各自が事前学習することが求められる。また、第 2－7 週の授業では、受講者が持ち回りで授業範囲について発表を行い、全参加者でディスカッションを行う。また、各自、授業についてのリフレクションを行い、授業終了後に提出する。

第 8 週の授業では、第 7 週までに学んだ内容をもとに課題設定と考察を行い、まとめ発表を行うものとする。

なお、各会の講義内容については、受講者の既有知識や社会の情勢変化に対応して変更することがある。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

参考書として、日本教育工学会監修（2018）『初等中等教育におけるＩＣＴ　活用』ミネルヴァ書房.

鈴木克明（2016）『インストラクショナルデザインの道具箱』北大路書房

学び続ける教育者のための境界（2019）『リフレクション入門』

ほか参考となる行政文書や書籍等については、毎回の授業で適宜提示する。

評価方法

・第 2 週～7 週の授業での発表資料準備とその資料を用いた発表（25%）

・第 2 週～7 週の授業でのディスカッションへ参加や発言内容などの貢献度（25%）

・第 2 週～7 週の授業終了後のリフレクション（25%）

・第 8 週の授業での発表内容（25%）

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約方法については、初回の授業で説明する。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	－	－	○	－

授業名称	探究基礎演習			科目コード	PEPD1401S
担当教員	川山 竜二 荒木 貴之 齋藤 崇徳 大谷 晃	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位・2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期・後期	曜日	水 A/木 B/土 A（１・２限）/土 B（１・２限）
年間開講数	2 回	授業種別	演習	授業区分	必修

授業の目的

本授業は、2 年次に専門職学位論文を執筆するための基盤として、現代社会における知識のあり方を理解し、社会に遍在する暗黙知と学術的知見を体系化し、普及・活用するための基礎的な能力の醸成をめざす。

（川山 竜二） 川山は、知識社会学、知の理論、専門職と専門職教育を専門とし、実務家教員養成の制度設計に携わっている。担当する基礎演習では、とくに「実践の理論（自らの知見を構造化することを含む）」や職業教育の制度化や高度化、あるいは「学習社会論」やリカレント教育に関心をよせる学生の履修を主に想定している。 ※本授業の主任教員である。

（荒木 貴之） 荒木は、社会教育・生涯学習における教育工学の応用を専門としている。担当する基礎演習では、社会教育・生涯学習の視点に立ち、ICT や EdTech を用いた教育や学習の質的変革、学習者中心主義に立脚した自己調整学習、PLN（プロフェッショナル／プライベート、ラーニング・ネットワーク）における学習に関心のある学生の履修を主に想定している。

（齋藤 崇徳）齋藤は、高等教育論、教育社会学を専門としている。担当する基礎演習では、教育社会学や教育学の立場から、高等教育の組織、制度、経営、歴史など高等教育の「仕組み」を主に実証的な調査研究により解明すること、あるいは広く教育社会学の観点から教育現象を説明することに関心のある学生の履修を主に想定している。

（大谷 晃）大谷は、地域社会論、現代社会論、市民社会論、社会調査方法論（質的研究）を専門とし、東京郊外の団地自治会の活動に携わってきている。担当する基礎演習では、質的研究の方法をもちいて教育・人材育成にかんする調査研究や構想を検討していくこと、あるいは地域社会やそれぞれのコミュニティ内の人材育成・マネジメントに関心のある学生の履修を主に想定している。

到達目標

本授業の具体的な到達目標は、以下のとおりである。

- これから実施していく研究の社会的布置やその意義について、研究の社会的布置、自らが携わる実務や組織、産業の領域と関連づけながら他者に説明することができる。
- 研究における基本である先行研究レビューの意義を理解し、適切に実践することができる。
- 多様な研究・分析手法の特性を理解し、自らの課題にあった手法を用いて研究を進めることができる。
- 研究に関する倫理、コンプライアンス等を理解し、それらを遵守しながら研究を進めることができる。
- 自らが携わる実務や組織、産業の領域と関連 2 年次に執筆する専門職学位論文のプロットを作成することができる。

授業計画	授業外の学習

【前期】 第 1 週	【前期】（第 1 講）：本演習の目的・グランドルール等の確認、前期の進め方について	事前	シラバスおよび授業資料の確認（1h）
		事後	プログレスレポートの執筆（2h）
第 2 週	（第 2・3 講）：入学時点における研究計画報告	事前	資料確認・ディスカッション準備（1h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（3h）
第 3 週	（第 4・5 講）：研究計画の報告とディスカッション 1	事前	資料確認・ディスカッション準備（1h） プログレスレポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（3h）
第 4 週	（第 6・7 講）：研究計画の報告とディスカッション 2	事前	資料確認・ディスカッション準備（1h） プログレスレポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（3h）
第 5 週	（第 8・9 講）：研究計画の報告とディスカッション 3	事前	資料確認・ディスカッション準備（1h） プログレスレポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（3h）
第 6 週	（第 10・11 講）：研究の進捗報告とディスカッション①- 1	事前	資料確認・ディスカッション準備（1h） プログレスレポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（3h）
第 7 週	（第 12・13 講）：研究の進捗報告とディスカッション①- 2	事前	資料確認・ディスカッション準備（1h） プログレスレポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（3h）
第 8 週	（第 14・15 講）：研究の進捗報告とディスカッション①- 3		資料確認・ディスカッション準備（1h） プログレスレポートの執筆（2h）
			履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（3h） 学期末レポート執筆（6h）
【後期】 第 1 週	【後期】（第 1 講）：本演習の目的・グランドルール等の再確認、後期の進め方について	事前	シラバスおよび授業資料の確認（1h）
		事後	プログレスレポートの執筆（2h）
第 2 週	（第 2・3 講）：研究の進捗報告とディスカッション②- 1	事前	資料確認・ディスカッション準備（1h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（3h）
第 3 週	（第 4・5 講）：研究の進捗報告とディスカッション②- 2	事前	資料確認・ディスカッション準備（1h） プログレスレポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（3h）
第 4 週	（第 6・7 講）：研究の進捗報告とディスカッション②- 3	事前	資料確認・ディスカッション準備（1h） プログレスレポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（3h）
第 5 週	（第 8・9 講）：研究の進捗報告とディスカッション③- 1	事前	資料確認・ディスカッション準備（1h） プログレスレポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（3h）
第 6 週	（第 10・11 講）：研究の進捗報告とディスカッション③- 2	事前	資料確認・ディスカッション準備（1h） プログレスレポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（3h）
第 7 週	（第 12・13 講）：研究の進捗報告とディスカッション③- 3	事前	資料確認・ディスカッション準備（1h） プログレスレポートの執筆（2h）

		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（3h） 1 年次中間報告会提出資料(専門職学位論文のプロット)執筆（6h）
第 8 週	（第 14・15 講）: 1 年間の学びのまとめとふりかえり、1 年次中間報告会に向けて	事前	資料確認・ディスカッション準備（1h） プログレスレポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） 1 年次中間報告会提出資料(専門職学位論文のプロット)修正（11h）

授業の進め方と方法

本授業は、履修者の研究テーマ及び教員の専門領域を踏まえて、履修者を担当教員ごとに割り当てた複数の少人数ゼミ形式で進めることとし、前期・後期それぞれ、第 2 週目以降は 2 講（90 分×2）連続で実施する。

上記目的・到達目標を達成するため、本授業では前期の第 1 週から第 4 週までは、学術研究の基本的な考え方について具体的な事例も踏まえて解説する。その上で、第 5 週から第 8 週は代表的な研究手法を各分野における代表的な論文等を用いながら概説する。

後期は、前期のふりかえりを行った上で、第 1 週から第 4 週まで各履修者が自身の関心に基づいてリサーチ・クエスチョンの設定からデータの収集・分析まで行い、それに基づいて執筆した小論文を第 5 週から第 7 週にかけて発表し、担当教員及び他の履修者と討論する。第 8 週は、次年度に執筆する専門職学位論文のプロットを作成・発表し、２年次の研究計画を具体化する。

教科書・参考書

教科書は特に指定しない。参考書については必要に応じて適宜演習内で紹介するが、以下の文献は手元に用意することを推奨する。

- ウェイン・C・ブース（2018）『リサーチの技法』、ソシム。
- 上野千鶴子（2018）『情報生産者になる』、 筑摩書房。
- 小熊英二(2022)『基礎からわかる 論文の書き方』、講談社。

評価方法

- 毎時のディスカッションへの貢献（30%）
- 毎時の発表内容・方法（30%）
- プログレスレポート（20%）
- 学期末レポート[前期]、1 年次中間報告会提出資料(専門職学位論文のプロット)[後期] （20%）

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法など、詳しくは初回の授業で説明する。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（知識社会学）			科目コード	PEPD2402S
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位・2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期・後期	曜日	土 A（3・4 限）
年間開講数	2 回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が実務教育研究科の修了要件となっている「専門職学位論文」を執筆し完成させること（の支援・教育研究指導）である。この演習では、履修者の問題関心に基づいて議論することにくわえて、自身が実践の場において還元しようとする「実践の理論」を履修者自身の手で創造することを目指している。

想定されるテーマとしては、知識社会学、知の体系化、学習社会論、高等教育機関の構想、職業教育、リカレント教育（生涯学習や社会教育の制度）などに関するものなどは特に歓迎するが上記の限りではない。

到達目標

① 履修者が「専門職学位論文」を執筆し完成させること、また口頭試問に耐えうる知見を蓄えること。

② 履修者の「専門職学位論文」を第三者が読んだときに「この専門職学位論文の書き手は、実務教育に関する高度専門職業人である」と認識させるような実務的な研究能力を身につけていること。

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第 1 週	**（第 1 講）前期イントロダクション** 現在の問題関心や各履修者の研究構想を確認する。また、研究進捗状況の共有や 1 年間のスケジュールを確認する。	事前 事後	前期研究計画書の執筆（3h） 履修生同士の相互レビュー（1h）
第 2 週	**（第 2 講／第 3 講）専門職学位論文の研究計画** 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方向性について討議する。	事前 事後	プログレスレポートの執筆（3h） 履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第 3 週	**（第 4 講／第 5 講）先行研究レビュー１** 各履修者の問題関心に応じて、一編の論文・報告書（それに相当する書籍の 1 章分相当）を読み、発表する。	事前 事後	プログレスレポートの執筆（3h） 履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第 4 週	**（第 6 講／第 7 講）先行研究レビュー２** 各履修者の問題関心に応じて、一編の論文・報告書（それに相当する書籍の 1 章分相当）を読み、討議する。	事前 事後	プログレスレポートの執筆（3h） 履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第 5 週	**（第 8 講／第 9 講）専門職学位論文のスケルトン１** 各履修者の専門職学位論文のスケルトンを発表し、論文の構造をより精緻なものにするために討議する。	事前 事後	プログレスレポートの執筆（3h） 履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第 6 週	**（第 10 講／第 11 講）専門職学位論文のスケルトン２** 各履修者の専門職学位論文のスケルトンを発表し、論文の構造をより精緻なものにするために討議する。	事前 事後	プログレスレポートの執筆（3h） 履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第 7 週	**（第 12 講／第 13 講）主要仮説の検討１** 専門職学位論文における主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。	事前 事後	プログレスレポートの執筆（3h） 履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第 8 週	**（第 14 講／第 15 講）主要仮説の検討２**	事前	プログレスレポートの執筆（3h）

	専門職学位論文における主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。	事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
【後期】 第 1 週	**（第 1 講）後期イントロダクション** 夏季休暇や中間報告会などでの助言を踏まえ、研究成果を共有する。	事前	後期研究計画書の執筆（3h）
		事後	履修生同士の相互レビュー（1h）
第 2 週	**（第 2 講／第 3 講）専門職学位論文のスケルトン再検討１** 各履修者の専門職学位論文のスケルトンについての変更状況について検討する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第 3 週	**（第 4 講／第 5 講）専門職学位論文のスケルトン再検討２** 各履修者の専門職学位論文のスケルトンについての変更状況について検討する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第 4 週	**（第 6 講／第 7 講）専門職学位論文指導１** 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように論文に落とし込むのかを検討する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第 5 週	**（第 8 講／第 9 講）専門職学位論文指導２** 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように論文に落とし込むのかを検討する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第 6 週	**（第 10 講／第 11 講）専門職学位論文指導３** 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように論文に落とし込むのかを検討する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第 7 週	**（第 12 講／第 13 講）専門職学位論文指導４** 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように論文に落とし込むのかを検討する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第 8 週	**（第 14 講／第 15 講）研究発表準備** 口頭発表練習を通じて、1 年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業はそれぞれの履修者の関心にあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導が主となる。前期は、履修者の発表にくわえて、毎回 30 分程度の「研究手法」に関する話題提供をおこなう。専門職学位論文は、演習に出席すれば自動的に完成するものではなく履修者が自律的に執筆するものである。履修者の人数により変動はあるものの、前期・後期を通じて 9 回は発表することになる。

初回授業で詳しく述べるが、授業ごとにプログレスレポート（A４サイズ 1〜2 枚）を作成することを求める。また、自身の発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすることが求められる。くわえて演習の進行は、履修者が行う。課外指導として、月 1 回 30 分の研究指導日を設ける。

教科書・参考書

教科書は指定しない。以下、研究手法や論文執筆についての参考図書を列記する。

- ウェイン・C・ブースら（2018）『リサーチの技法』、ソシム。
- デイビッド・コフラン（2021）『実践アクションリサーチ』、碩学舎。

- 松浦年男・田村早苗（2022）『日本語パラグラフ・ライティング入門』、研究社。
- 小熊英二（2022）『基礎からわかる 論文の書き方』、講談社現代新書。
- 近江幸治（2022）『学術論文の作法 第３版』、成文堂。
- スティーヴン・ヴァン・エヴェラ（2009）『政治学のリサーチ・メソッド』、勁草書房。
- 川﨑剛（2010）『社会科学系のための「優秀論文」作成術――プロの学術論文から卒論まで』、勁草書房。

評価方法

「専門職学位論文」にあわせた研究、執筆について評価をする。前期の評価については、発表時に用意したレジュメに基づいて評価する。精確（精密で的確）なレジュメを評価する。

○ 報告担当週の報告内容・方法（30%）

○ プログレスレポート（20%）

○ 授業中のディスカッションへの貢献（20%）

○ 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度（30%）

その他の重要事項

コンタクトならびにオフィスアワーについて

○メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること（相談内容については問わない）。

○授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること（予約優先）。

○授業担当者の Web ページなどでも情報提供をおこなう。

2023 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（教育マネジメント）			科目コード	PEPD2403S
担当教員	藏田 實	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位・2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期・後期	曜日	土 B（1・2 限）
年間開講数	2 回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

今日、学習指導要領の大幅な改訂をはじめ、高大接続システム改革の実施や専門職大学制度の導入など、教育改革がこれまでにないスピードで進行している。これに対応し、教育に関するマネジメント（「教育マネジメント」）にも大胆な変革が求められている。このことは、初等・中等教育や高等教育のみならず、多様な教育プログラムに取り組んでいる教育関連機関等にも、大胆な発想の転換や新たな制度設計が必要となっている。

本授業の目的は、教育方針の策定やカリキュラムの開発、組織の管理・運営、地域との連携など「教育マネジメント」に関する今日的な諸課題を考察し、その在り方を探究する。

履修者一人ひとりは、それぞれの課題テーマに基づく「教育マネジメント」をデザイニングしながら研究を進め、専門職学位論文にまとめる。

到達目標

① 履修者が「教育マネジメント」の諸課題について理解し、説明できる。
② 履修者が今日的な「教育マネジメント」をデザイニングすることができる。
③ 履修者が専門職学位論文を執筆し、完成させることができる。

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第 1 週	（第 1 講）ガイダンス：本演習の位置付け	事前	シラバスの精読（1h） 授業での質問事項の検討（2h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h）
第 2 週	（第 2・3 講）「リサーチペーパー」の発表とディスカッション	事前	発表準備（2h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 発表内容の整理（2h）
第 3 週	（第４・5 講）研究論文の手法と論文執筆のプロセス	事前	授業資料の確認（2h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h）
第 4 週	（第 6・7 講）研究構想の発表とディスカッション①	事前	発表準備（2h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 発表内容の整理（2h）
第 5 週	（第 8・9 講）研究構想の発表とディスカッション②	事前	発表準備（2h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 発表内容の整理（2h）
第 6 週	（第 10・11 講） 専門職学位論文のテーマ・構成の発表とディスカッション①	事前	発表準備（2h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 発表内容の整理（2h）
第 7 週	（第 12・13 講） 専門職学位論文のテーマ・構成の発表とディスカッション②	事前	発表準備（2h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 発表内容の整理（2h）
第 8 週	（第 14・15 講） 中間報告会に向けての相互レビュー	事前	中間報告会発表資料の作成（10h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h） 中間報告会発表資料整理（6h）
【後期】	（第 1 講）	事前	リフレクションの整理（1h） 研究内容の検討（2h）

第 1 週	中間報告会のリフレクションと研究内容の確認	事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h）
第 2 週	（第 2・3 講） 研究内容の整理と進捗状況の発表とディスカッション①	事前	発表準備（2h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 発表内容の整理（2h）
第 3 週	（第 4・5 講） 研究内容の整理と進捗状況の発表とディスカッション②	事前	発表準備（2h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 発表内容の整理（2h）
第 4 週	（第 6・7 講） 専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション①	事前	発表準備（2h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h）
第 5 週	（第 8・9 講） 専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション②	事前	発表準備（2h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h）
第 6 週	（第 10・11 講） 専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション③	事前	発表準備（2h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h）
第 7 週	（第 12・13 講） 専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション④	事前	発表準備（2h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパー の提出（1h） 授業内容の整理（2h）
第 8 週	（第 14・15 講） 最終審査会に向けての研究発表とディスカッション	事前	発表準備（2h） ディスカッションの準備（1h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 授業内容の整理（2h） 最終審査会発表資料整理（12h）

授業の進め方と方法

本授業は、前期・後期それぞれ、第 2 週目以降は２講（90 分×2）連続で実施する。上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、第 2 週で 1 年次の「リサーチペーパー」学修成果をもとに、各履修者の研究のねらいを共有化する。第 3 週では、論文執筆にあたって基本的な留意事項について、具体的な事例をもとに解説する。第 4 週以降は、専門職学位論文執筆に向けた研究の取組みについて各履修者が発表を行い、それをもとに担当教員および他の履修者とのディスカッションにより授業を進める。要望があれば、授業時間外に個別指導を実施する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。履修者の研究テーマにより参考文献を紹介する。

参考書：本図愛実・末冨芳編著（2015）『新・教育の制度と経営』、学事出版

永田恭介・山崎光悦編著（2021）『教学マネジメントと内部質保証の実質化』、東信堂

評価方法

- 報告担当週の報告内容・方法 20%
- 授業中のディスカッションへの貢献 20%
- 授業後に提出したコメントペーパーの内容 30%
- 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 30%

その他の重要事項

1　オフィスアワーについては、初回の授業で説明する。

2　履修者の人数や論文執筆の進捗状況に応じて、授業形態・授業スケジュールを変更することもある。

3　履修者の要望により、演習時間外の個別指導に対応する。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（教育学）			科目コード	PEPD2406S
担当教員	齋藤 崇徳	実施方法	ハイフレックス	単位数	4 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期・後期	曜日	金 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、教育学に関連する理論や研究方法論、実践例、研究例を学ぶことを通じて、論文執筆上の作法について習得することである。各履修者の研究テーマについて履修者同士で討論することを通じて、互いの研究の優れている点や改善点、課題を主体的、批判的に発見する能力、および学術上の討論の技法等を習得することを目指す。さらに論文の構成内容や執筆方法、分析方法について習得することを通じて、学術的に、社会的に水準の高い、教育学に関連する専門職学位論文を執筆できるようになることを目指す。

到達目標

① 履修者が教育学に関連する研究方法論について説明することができる。
② 履修者が自らの研究テーマについて教育学に関連する理論や研究方法論を用いて説明することができる。
③ 履修者が論文執筆のルールを守り、読み手に説得的に伝わりやすい専門職学位論文を執筆し、完成させることができる。

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第 1 週	（第 1 講）本授業の方針およびスケジュールに関する説明、履修者の関心の共有	事前	シラバス、参考書の確認（1h）
		事後	授業内容の復習（3h）
第 2 週	（第 2・3 講）研究計画の報告と討論	事前	報告準備作業（4h）
		事後	授業内容の復習（1h） 論文構想作成作業（3h）
第 3 週	（第 4 講）論文執筆方法／（第 5 講）教育学の研究方法論	事前	論文構想作成作業（1h） 文献の確認（2h）
		事後	授業内容の復習（1h） 論文構想作成作業（4h）
第 4 週	（第 6・7 講）:教育学分野での研究例の紹介と討論	事前	論文構想作成作業（1h） 文献の確認（2h）
		事後	授業内容の復習（1h） 論文構想作成作業（4h）
第 5 週	（第 8・9 講）:専門職学位論文構想報告①―リサーチクエスチョンをつくる	事前	論文構想作成作業（3h）
		事後	授業内容の復習（1h） 論文構想作成作業（4h）
第 6 週	（第 10・11 講）:専門職学位論文構想報告②―研究の背景・先行研究を執筆する	事前	論文構想作成作業（3h）
		事後	授業内容の復習（1h） 論文構想作成作業（4h）
第 7 週	（第 12・13 講）:中間報告会に向けた相互レビューと討論①	事前	論文構想作成作業（3h）
		事後	授業内容の復習（1h） 論文構想作成作業（4h）
第 8 週	（第 14・15 講）:中間報告会に向けた相互レビューと討論②	事前	論文構想作成作業（3h）
		事後	授業内容の復習（1h） 論文構想作成作業（4h）
【後期】	（第 1 講）:中間報告会の振り返りと今後の研究方針の策定	事前	中間報告会振り返り（2h）

第 1 週		事後	授業内容の復習（2h）
第 2 週	（第 2・3 講）:専門職学位論文執筆の進捗報告と討論①	事前	論文作成及び発表準備作業（3h）
		事後	授業内容の復習（1h） 論文執筆作成作業（4h）
第 3 週	（第 4・5 講）:専門職学位論文執筆の進捗報告と討論②	事前	論文作成及び発表準備作業（3h）
		事後	授業内容の復習（1h） 論文執筆作成作業（4h）
第 4 週	（第 6・7 講）:専門職学位論文執筆の進捗報告と討論③	事前	論文作成及び発表準備作業（3h）
		事後	授業内容の復習（1h） 論文執筆作成作業（4h）
第 5 週	（第 8・9 講）:専門職学位論文執筆の進捗報告と討論④	事前	論文作成及び発表準備作業（3h）
		事後	授業内容の復習（1h） 論文執筆作成作業（4h）
第 6 週	（第 10・11 講）:専門職学位論文執筆の進捗報告と討論⑤	事前	論文作成及び発表準備作業（3h）
		事後	授業内容の復習（1h） 論文執筆作成作業（4h）
第 7 週	（第 12・13 講）:専門職学位論文執筆の進捗報告と討論⑥	事前	論文作成及び発表準備作業（3h）
		事後	授業内容の復習（1h） 論文執筆作成作業（4h）
第 8 週	（第 14・15 講） :最終審査会に向けた研究発表と討論	事前	論文作成及び発表準備作業（3h）
		事後	最終審査会準備（5h）

授業の進め方と方法

上記目的および到達目標を達成するため、まず前期第 2 週において、履修者の研究計画の報告および討論を行う。前期第 3 週および第 4 週では、論文執筆の手法や教育学の文献例について解説の上、討論を行う時間を設ける。前期第 5 週以降は教育学の研究方法論や理論の習得をふまえ、履修者の研究テーマの選定・精緻化の作業に入る。

原則として履修者は毎週、専門職学位論文執筆に向けたレジュメ・資料を作成し報告する。報告をふまえ、履修生同士での討論を行い、担当教員からもコメントを行う。

なお、必要に応じて授業時間外にも随時、研究に関する相談に応じる。

教科書・参考書

教科書は指定しない。適宜、履修者の研究関心にあわせ、個別に書籍や論文等を紹介する。

教育学に関連する専門職学位論文執筆一般に役立つと思われる参考書を以下に挙げる。

参考書 : 耳塚寛明監修・中西啓喜編集（2021）『教育を読み解くデータサイエンス : データ収集と分析の論理』, ミネルヴァ書房.

関口靖広（2013）『教育研究のための質的研究法講座』, 北大路書房.

佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄（2015）『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』, 大修館書店.

松浦年男・田村早苗（2022）『日本語パラグラフ・ライティング入門 : 読み手を迷わせないための書く技術』, 研究社.

評価方法

報告担当週の報告内容・方法　30%

授業中のディスカッションへの貢献　20%

授業後・授業外に書き込んだコメントの内容　20%

各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度　30%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。

受講者の人数や興味関心に応じて、授業計画は変更する可能性がある。

2022 年度科目との読替え

なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（教育産業と教育事業）			科目コード	PEPD2407S
担当教員	廣政愁一	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位・2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期・後期	曜日	水 A
年間開講数	2 回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「実務教育学修士（専門職）」を授与されるにふさわしい専門職学位論文を完成させることにある。専門職大学院において説得力のある専門職学位論文を作成するにあたり、本授業では、教育事業と教育産業にまつわる発想や視点を提供する。

実現可能かつ持続可能な教育事業を展開するためには、当該領域に関連する教育産業の正確な把握が必要不可欠である。そこで本授業の序盤では、履修者各自が構想している新たな教育事業について、先行事例や産業動向の分析を通じて理解を深める機会を設ける。

到達目標

① 履修者が先行事例や産業動向の分析を行うことができる。

② 履修者が 実現可能性・持続可能性の担保された教育事業を構想することができる。

③ 履修者が専門職学位論文を執筆し、完成させることができる。

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第 1 週	（1 講）オリエンテーション 履修者各自が 1 年次の「探究基礎演習」で作成した「リサーチペーパー」の内容を全体で共有するとともに、専門職学位論文の完成に至るまでのスケジュールを検討する。	事前	シラバスの精読（0.5h） 「リサーチペーパー」の内容をもとにした発表準備（1.5h）
		事後	参考書の精読（4h）
第 2 週	（2・3 講）教育事業と教育産業の視点 履修者各自の研究テーマに関連する教育事業について、先行事例の探し方や分析方法を解説する。	事前	教育事業と教育産業に関する事前学習（2h）
		事後	フィードバック事項の整理（1h） 参考書の精読（3h）
第 3 週	（4・5 講）先行事例研究 履修者が、自らの研究テーマに関連する教育事業の事例や教育産業の動向について調査を行い、発表する。	事前	先行事例に関する事前学習（2h）
		事後	フィードバック事項の整理（1h） 参考書の精読（3h）
第 4 週	（6・7 講）：論点整理・先行研究・研究方法の検討とディスカッションⅠ 専門職学位論文の内容に関する履修者各自の発表に基づき、意見交換を行う。また、それぞれの研究に関連する先行研究について調査するとともに、それぞれの研究にふさわしい研究方法を検討する。「研究の背景」「先行研究・先行事例」のパートについては、前期の段階で概ね完成させることが望ましいため、そのための指導を行う。	事前	発表資料の準備（2h） 他のゼミ生資料の事前確認（1h）
		事後	フィードバック事項の整理（1h） 参考書の精読（3h）
第 5 週	（8・9 講）：論点整理・先行研究・研究方法の検討とディスカッションⅡ	事前	発表資料の準備（2h） 他のゼミ生資料の事前確認（1h）
		事後	フィードバック事項の整理（1h）

第 6 週	（10・11 講）：中間報告会に向けた準備とディスカッションⅠ	事前	発表資料の準備（2h） 他のゼミ生資料の事前確認（1h）
		事後	フィードバック事項の整理（3h）
第 7 週	（12・13 講）：中間報告会に向けた準備とディスカッションⅡ	事前	発表資料の準備（2h） 他のゼミ生資料の事前確認（1h）
		事後	ディスカッション内容の整理（1h）
第 8 週	（14・15 講）：模擬報告会・後期に向けたガイダンス 8 月に実施される中間報告会に向けて、模擬プレゼンテーションを行う。	事前	模擬報告会の準備（4h）
		事後	フィードバック事項の整理（2h） 夏休み中の研究計画作成・共有（2h） 中間報告会に向けた最終調整（2h）
【後期】 第 1 週	（1 講）オリエンテーション 中間報告会・夏季休暇を経て履修者が研究した事柄について全体で共有するとともに、専門職学位論文の執筆スケジュールを検討する。	事前	研究成果の発表準備（2h）
		事後	フィードバック事項の整理（4h）
第 2 週	（2･3 講）教育事業の実現可能性に関するディスカッションⅠ	事前	研究発表の準備（4h）
		事後	フィードバック事項の整理（4h）
第 3 週	（4･5 講）教育事業の実現可能性に関するディスカッションⅡ これまでに履修者各自が検討してきた教育事業について内容および実現可能性、さらには持続可能性を精査し、それを専門職学位論文に落とし込むための方法についてディスカッションを行う。	事前	研究発表の準備（4h）
		事後	これまでのフィードバック事項を踏まえた専門職学位論文執筆（4h）
第 4 週	（6･7 講）模擬中間審査 11 月に実施される中間審査会に向けて、模擬審査を行う。	事前	模擬中間審査の準備（4h）
		事後	学位論文の執筆・検討（4h）
第 5 週	（8･9 講）専門職学位論文 執筆指導Ⅰ 履修者からの進捗報告をもとに、専門職学位論文の完成に向けたディスカッションを行う。	事前	調査・研究の遂行（4h）
		事後	学位論文の執筆（7h）
第 6 週	（10･11 講）専門職学位論文 執筆指導Ⅱ	事前	調査・研究の遂行（4h）
		事後	学位論文の執筆・検討（7h）
第 7 週	（12･13 講）専門職学位論文 執筆指導Ⅲ	事前	調査・研究の遂行（4h）
		事後	学位論文の執筆・検討（9h）
第 8 週	（14･15 講）模擬最終審査 2 月に実施される最終審査会に向けて、模擬審査を行う。	事前	模擬最終審査の準備（3h）
		事後	フィードバック事項の整理（3h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、第 3 週までの時間を使って、履修者各自の研究テーマに関連する事例研究を行う。その後、第 4 週からは、研究の進捗状況に関する各自の発表に基づき、全体でのディスカッションにより進行する。また、報告会・審査会の直前には模擬審査を実施することで、研究発表のクオリ

ティを担保する。本授業は、前期・後期とも第 2 週目以降は 2 講（90 分×2）連続で実施する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

参考書：

小熊英二（2022）『論文の書き方』、講談社現代新書

評価方法

- 報告担当週の報告内容・方法 30%
- 授業中のディスカッションへの貢献 20%
- 授業後・授業外に書き込んだコメントの内容 20%
- 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 30%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（組織・マネージメント）			科目コード	PEPD2408S
担当教員	中川　哲	実施方法	オンライン	単位数	2 単位・2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期・後期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業は、コミュニケーションデザイン研究科 1 、2 年次生と実務教育研究科 2 年次生を対象として、履修者自らが選定したテーマに関して、教員による個別の指導・助言のもと、専門職学位論文の作成に向けた個別研究を推進することを目的とする。指導対象とする主な研究領域は、企業および教育行政、教育機関（主に初等中等）における組織内でのマネージメントや人材育成、DX による組織変革などである。

到達目標

④ 履修者が研究者として必要な批判的思考を獲得し、自らおよび他者に対して行使することができる。
⑤ 履修者が選定したテーマに関して研究を自律的に推進する手法を理解し、活用できるようになる。
⑥ 履修者が専門職学位論文を執筆し、完成することができる。

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	（第 1 講）研究の意義と進め方―リサーチペーパーをもとに社会人が研究することの意義と論文の役割、今後の進め方の基礎を確認する。	事前	シラバスの精読および授業の準備（1h）
		事後	参考図書の精読（6h）
第 2 週	（第 2・3 講）研究課題の構造化―論理的で客観的に課題を構造化するための思考法を、履修者の研究テーマに関する発表をもとに確認、獲得する	事前	研究テーマに関する発表準備（2h）
		事後	フィードバック事項の整理（1h） 参考図書の精読（6h）
第 3 週	（第 4・5 講）批判的思考の涵養―意味や論理展開の課題を見極め、思考を深める問いかけを生み出す思考術に関して、演習目的の題材にて議論し確認する	事前	演習テーマに関する事前学習（2h）
		事後	参考図書の精読（6h）
第 4 週	（第 6・7 講）リサーチクエスチョンを磨く―履修者によるリサーチクエスチョンの発表を通して、リサーチクエスチョンの本質とそこに至るための視点を獲得する	事前	リサーチクエスチョンに関する発表準備（2h）
		事後	フィードバック事項の整理（1h） 参考図書の精読（6h）
第 5 週	（第 8・9 講）問題意識の背景説明―論文第 1 章で扱うだろう問題意識の背景にある事象を整理、分析する方法に関して、履修者による発表を通して確認する	事前	問題意識の背景説明に関する発表準備（3h）
		事後	フィードバック事項の整理（1h）
第 6 週	（第 10・11 講）先行研究のレビューⅠ―論文第 2 章で扱うだろう先行研究のレビューの意義や手法、注意点に関して、履修者による発表を通して検討する	事前	先行研究レビューに関する発表準備（5h）および他のゼミ生資料の事前確認（2h）
		事後	フィードバック事項の整理と再構築（3h）
第 7 週	（第 12・13 講）先行研究のレビューⅡ―前週に引き続き発表を通して考察を深める	事前	ゼミ生の発表資料の事前確認および指摘の準備（2h）
		事後	ディスカッション内容の整理（1h）
第 8 週	（第 14・15 講）調査設計―夏休み以降に実施する可能性のある	事前	調査設計に関する発表準備（6h）

	定量および定性調査に関して、履修者の発表を通して設計の注意点等を確認する	事後	フィードバック事項の整理（2h） 夏休み中の研究計画作成と Teams での共有（2h）
第 9 週	（第 16 講）研究成果の共有―中間報告会以降の研究の進捗および成果に関して発表し、今後の研究課題や計画を確認する	事前	研究成果の発表準備（2h）
		事後	フィードバック事項の整理と再構築（4h）
第 10 週	（第 17・18 講）研究課題の深化Ⅰ―履修者の専門職学位論文を発表し、さらなる研究課題を明らかにする	事前	研究発表の準備（4h）
		事後	フィードバック事項の整理と再構築（4h）
第 11 週	（第 19・20 講）研究課題の深化Ⅱ―履修者の専門職学位論文を発表し、さらなる研究課題を明らかにする	事前	研究発表の準備（4h）
		事後	フィードバック事項の整理と再構築（4h）
第 12 週	（第 21・22 講）研究成果報告書執筆指導Ⅰ―履修者の研究進捗や課題に応じて相談、討論する	事前	研究内容の検討（4h）
		事後	学位論文の執筆検討（4h）
第 13 週	（第 23・24 講）研究成果報告書執筆指導Ⅱ―履修者の研究進捗や課題に応じて相談、討論する	事前	研究内容の検討（4h）
		事後	学位論文の執筆検討（4h）
第 14 週	（第 25・26 講）研究成果報告書執筆指導Ⅲ―履修者の研究進捗や課題に応じて相談、討論する	事前	研究内容の検討（4h）
		事後	学位論文の執筆検討（4h）
第 15 週	（第 27・28 講）研究成果報告書執筆指導Ⅳ―履修者の研究進捗や課題に応じて相談、討論する	事前	研究内容の検討（4h）
		事後	学位論文の執筆検討（4h）
第 16 週	（第 29・30 講）研究発表の準備―履修者の研究成果を実装もしくは社会普及させるための課題や計画を討議する	事前	実装や普及の計画発表準備（3h）
		事後	フィードバック事項の整理（3h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は各自の研究経過の報告と、参加者相互の批判的討議を通して、研究に多角的検討を加え、厚みを増す進行を予定している。また、研究の段階に即して個別に協議のうえ、指導・助言を行う。授業外において履修者は各自の責任において研究を自主的に進捗させることを期待する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

参考書：太田裕子（2019）「はじめて『質的研究」を『書く」あなたへ」，東京図書.

飯村周平，松井智子，宅香菜子（2022）「ゲーム感覚で身につく論文執筆」,風間書房.

評価方法

報告担当週の報告内容・方法 30%

授業中のディスカッションへの貢献 20%

授業後・授業外に書き込んだコメントの内容 20%

各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 30%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。

授業はハイフレックスにて開講する。一部、オンラインのみにて開講する。				
2023 年度科目との読替え				
なし				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（社会教育）			科目コード	PEPD2410S
担当教員	荒木貴之	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位・2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期・後期	曜日	木 B
年間開講数	2 回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、1 年次に行う探究基礎演習をふまえ、履修者が教育工学の理論や手法を用いて課題解決能力を高めるとともに、研究者に求められる研究成果の発表および質疑応答能力を身につけ、最終的に専門職学位論文を完成させることである。想定される研究テーマとしては、社会教育・生涯学習への教育工学の応用を中心として、社会教育経営、社会教育施策（演習）、社会教育人材の育成あるいはネットワーク化、ネットワーク上の教育・学習に関連する内容を歓迎するが、左記以外の研究を否定するものではない。全ての履修希望者は、あらかじめ研究内容について相談すること。

到達目標

① 履修者が、専門職学位論文を執筆し完成させること。
② 履修者が、口頭試問で研究成果を発表し、研究者からの質疑に適切に対応できること。
③ 履修者が、実務的な研究能力を身につけるとともに、高度専門職業人として、実践と理論を融合し、新たな知を社会実装できること。

授業計画		授業外の学習	
[前期] 第 1 週	（第 1 講）前期イントロダクション 社会教育に関連した研究論文の精読と解説を通して、論文の構造を理解するとともに、今後の研究計画の見通しを立てる。	事前	社会教育に関連した論文の精読を通した論文構造の理解（3h）
		事後	社会教育に関連した論文の検討と相互レビュー（2h）
第 2 週	（第 2 講／第 3 講）専門職学位論文の研究計画 専門職学位論文の精読と解説を通して、実践と理論を融合した新たな知の創造と社会実装について、検討する。	事前	専門職学位論文の精読を通した論文構造の理解（3h）
		事後	専門職学位論文の検討と相互レビュー（2h）
第 3 週	（第 4 講／第 5 講）先行研究レビュー１ 研究テーマに関連する先行研究をレビューし、研究の独自性、継続性、関連性を検討する。	事前	先行関連研究に関するリサーチワーク（3h）
		事後	先行研究レビューの検討（2h）
第 4 週	（第 6 講／第 7 講）先行研究レビュー２ 研究テーマに関連する先行研究をレビューし、研究の独自性、継続性、関連性を検討する。	事前	先行関連研究に関するリサーチワーク（3h）
		事後	先行研究レビューの検討（2h）
第 5 週	（第 8 講／第 9 講）専門職学位論文の構造検討１ それぞれの履修者の専門職学位論文の進捗状況を発表し、研究と論文の構造を発表し、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の構造の検討（6h）
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク（4h）
第 6 週	（第 10 講／第 11 講）専門職学位論文の構造検討２ それぞれの履修者の専門職学位論文の進捗状況を発表し、研究と論文の構造を発表し、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の構造の検討（6h）
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク（4h）
第 7 週	（第 12 講／第 13 講）主要仮説の検討１ 専門職学位論文で主張する仮説の妥当性について、相互に検討する。	事前	研究仮説の妥当性の検討（4h）
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク（4h）

第 8 週	（第 14 講／第 15 講）主要仮説の検討２ 専門職学位論文で主張する仮説の妥当性について、相互に検討する。	事前	研究仮説の妥当性の検討（4h）
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク（4h）
[後期] 第 1 週	（第 1 講）後期イントロダクション 中間報告会の指摘事項を踏まえ、後期の研究計画の修正を行う。	事前	後期の研究計画の立案（3h）
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク（4h）
第 2 週	（第 2 講／第 3 講）専門職学位論文の構造再検討１ それぞれの履修者の専門職学位論文の進捗状況を発表し、研究と論文の構造を発表し、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の構造の検討（6h）
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク（4h）
第 3 週	（第 4 講／第 5 講）専門職学位論文の構造再検討２ それぞれの履修者の専門職学位論文の進捗状況を発表し、研究と論文の構造を発表し、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の構造の検討（6h）
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク（4h）
第 4 週	（第 6 講／第 7 講）専門職学位論文指導１ 専門職学位論文の完成に向けて、論文の構造、仮説の妥当性、研究で明らかになる知見、結論等について、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の執筆（6h）
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク（4h）
第 5 週	（第 8 講／第 9 講）専門職学位論文指導２ 専門職学位論文の完成に向けて、論文の構造、仮説の妥当性、研究で明らかになる知見、結論等について、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の執筆（6h）
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク（4h）
第 6 週	（第 10 講／第 11 講）専門職学位論文指導３ 専門職学位論文の完成に向けて、論文の構造、仮説の妥当性、研究で明らかになる知見、結論等について、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の執筆（6h）
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク（4h）
第 7 週	（第 12 講／第 13 講）専門職学位論文指導４ 専門職学位論文の完成に向けて、論文の構造、仮説の妥当性、研究で明らかになる知見、結論等について、相互に検討する。	事前	専門職学位論文の執筆（6h）
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク（4h）
第 8 週	（第 14 講／第 15 講）研究発表準備 最終口頭諮問に向けて、口頭発表練習を行う。	事前	プレゼンテーション作成（9h）
		事後	履修者同士の相互レビューとリサーチワーク（4h）

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、履修者の自発的・自律的な研究への取り組みを支援し、助言指導することが主となる。教育工学は、教育や学習をシステム化することにより、教育目標を効果的かつ効率的に達成することを目標であり、専門職学位論文の検討や執筆にあたっても、教育工学的アプローチをとるものとする。すなわち、履修者は研究計画を自主的に管理し、遂行することが求められる。また、研究者コミュニティによる学びを促進する観点から、自身の研究発表にコメントを得るだけでなく、他者の研究発表に対してもコメントを与えること。本探究演習の運営と進行は、履修者が主体的に行うものとする。

教科書・参考書

教科書：なし

参考書：

鈴木克明・中山実（2016）『職業人教育と教育工学（教育工学選書 II）』，日本教育工学会

評価方法
専門職学位論文，最終研究発表および研究活動などの状況により総合的に判断する（100%）
その他の重要事項
オフィスアワーの予約方法：電子メールにて希望日時を調整し、研究相談を実施する。 授業以外に月に１度、個別の研究相談（１時間）を設ける。クローズドな SNS を用いて、履修者同士が研究の進捗状況を共有し、学びの共同体として研究を相互に補完・推進する。
2022 年度科目との読替え
なし

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（地域社会論）			科目コード	PEPD2411S
担当教員	大谷 晃	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位・2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期・後期	曜日	金 B
年間開講数	2 回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が地域社会論の理論や関連する諸領域における知見を理解し、みずからのアプローチとして応用し、専門職学位論文を執筆するための能力を身につけることにある。大半の授業回において、各履修者の問題関心に基づいた報告とディスカッションの時間をとることで、履修者が自らの実務上の課題の社会的意義、地域社会論および周辺領域における学術的な意義を見出し、専門職学位論文を執筆できるようになることをめざす。

到達目標

1　履修者が、論証可能なリサーチ・クエスチョンを立てることができる
2　履修者が、適切なリサーチ・デザインを立て、調査や実践を行うことができる
3　履修者が、地域社会論や関連領域のアプローチに基づき、自らの研究の社会的・学術的意義を説明することができる
4　履修者が、専門職学位論文を執筆し、完成することができる

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第 1 週	（第 1 講）イントロダクション（授業の進め方と現代における地域社会研究の意義、履修者による関心報告）	事前	これまでの研究成果のとりまとめ（2h）、シラバス確認（1h）
		事後	研究計画の執筆（3h）
第 2 週	（第 2・3 講）論文の構成とリサーチ・デザイン	事前	報告資料の準備（4h）
		事後	調査研究・論文執筆の進行（2h）
第 3 週	（第 4・5 講）量的・質的調査と地域社会論のアプローチ	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
		事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第 4 週	（第 6・7 講）問いを立てる、課題を設定する	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
		事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第 5 週	（第 8・9 講）研究計画の発表とディスカッション①	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
		事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第 6 週	（第 10・11 講）研究計画の発表とディスカッション②	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
		事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第 7 週	（第 12・13 講）中間報告会へ向けた相互レビュー①	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
		事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第 8 週	（第 14・15 講）中間報告会へ向けた相互レビュー②	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
		事後	調査・研究、論文執筆の進行（2h） 中間報告会発表資料の準備（2h）

【後期】 第 1 週	（第 1 講）中間報告会のレビューと進捗報告	事前	夏休みの研究成果のとりまとめ（2h）
		事後	研究計画の執筆（4h）
第 2 週	（第 2・3 講）専門職学位論文の進捗報告とディスカッション①	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
		事後	調査研究・論文執筆の進行（2h）
第 3 週	（第 4・5 講）専門職学位論文の進捗報告とディスカッション②	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
		事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第 4 週	（第 6・7 講）専門職学位論文の進捗報告とディスカッション③	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
		事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第 5 週	（第 8・9 講）専門職学位論文の進捗報告とディスカッション④	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
		事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第 6 週	（第 10・11 講）専門職学位論文の進捗報告とディスカッション⑤	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
		事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第 7 週	（第 12・13 講）専門職学位論文の進捗報告とディスカッション⑥	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
		事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）
第 8 週	（第 14・15 講）最終審査会に向けた研究発表とディスカッション	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行（2h）、報告資料の予習（2h）
		事後	調査研究・論文執筆の進行（4h）

授業の進め方と方法

上記目的、到達目標を達成するために、本授業では論文執筆に必要な基礎的な知識の講義を交えつつ、履修者によるディスカッションを中心として進めていく。

本授業は、前後期ともに第 1 週をのぞき、2 講連続（90 分×2）で実施する。前期第 2～4 週については、学術的な論文執筆の方法論、地域社会論的な調査研究のリサーチ・デザインの立て方や調査方法論の解説を担当教員から行い、各回のテーマに合わせてディスカッションを行い、履修者の問題設定を明確化していく。

第 5 週目以降は、履修者による専門職学位論文執筆に向けた計画や成果についての報告と、それについての他の履修者および担当教員をまじえたディスカッションによって進行する。各週の報告担当者は事前に決定し、担当者となった履修者には報告資料の準備を課す。報告をふまえ、履修者同士の相互レビュー、担当教員からのコメントを行う。

教科書・参考書

【教科書】指定しない

【参考書】以下の文献を参照。また、それ以外にも履修者の関心に応じて適宜参考文献を提示する。

- 佐藤健二（2014）『論文の書き方』，弘文堂.
- 野村康（2017）『社会科学の考え方――認識論、リサーチ・デザイン、手法』，名古屋大学出版会.
- 似田貝香門・古城利明・岩崎信彦・矢澤澄子監修（2006）『地域社会論講座　第 1 巻～第 3 巻』，東信堂.

評価方法

- 報告担当週の報告内容・方法　30%
- 授業中のディスカッションへの貢献　20%
- 授業後・授業外に書き込んだコメントの内容　20%
- 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度　30%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。

＊担当教員の連絡先：大谷晃（akira.otani@sentankyo.ac.jp）

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（教育デザイン）			科目コード	PEPD2412S
担当教員	北村 士朗	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期・後期	曜日	火 B
年間開講数	１回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が実務教育研究科の修了要件を満たすため、専門職学位論文を完成させ、口頭試問に耐えうる知見や方法を身につけさせることの支援・指導である。

本演習ではインストラクショナル・デザイン、学習環境デザインや経営学等の知見を活かし、教育すなわち学習の外的支援について、分析・探索→デザイン（設計）→構築・開発→実施・実装→評価→（再）分析・・・のサイクルを回しながら知見を紡ぎ出す「教育デザイン研究」を行っていく。

研究（デザイン）対象としては、研修や授業、ｅラーニング（コンテンツ、プラットフォーム）およびそれらの評価の他、人材育成システム（体系）、学習環境、学習風土、ナレッジ・マネジメント（システム）、職場現場での教育・学習（ＯＪＴ、ワークプレイスラーニング）、ＣｏＰ（実践コミュニティ）、越境学習などが想定されるが、教育に関わる活動やシステムであればこれら以外も歓迎する。

到達目標

① 履修者が教育デザイン研究の手法に則り、創造性・新奇性・客観性・説得性を備え、学位獲得に値する専門職学位論文を完成させること。

② 履修者が教育デザイン研究ならびに選択した研究テーマの専門家として、その領域に関する代表的な諸理論、モデル、先行研究、議論等を口頭試問に耐えうるレベルで説明できるようになること。

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第 1 週	（第 1 講）オリエンテーション、研究計画案の共有	事前	研究計画の策定（3h）
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h)
第 2 週	（第 2 講／第 3 講）専門職学位論文の研究計画	事前	研究計画書の執筆（3h）
		事後	リフレクションとリフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク（4h）
第 3 週	（第 4 講／第 5 講）研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク（4h）
第 4 週	（第 6 講／第 7 講）研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク（4h）
第 5 週	（第 8 講／第 9 講）研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク（4h）

第 6 週	（第 10 講／第 11 講）研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク（4h）
第 7 週	（第 12 講／第 13 講）研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク（4h）
第 8 週	（第 14 講／第 15 講）中間報告会に向けた準備・相互レビュー	事前	中間報告準備（3h）
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク（4h）
【後期】 第 1 週	（第 1 講）後期オリエンテーション、研究計画の改訂	事前	前期研究計画の点検と改訂（3h）
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h)
第 2 週	（第 2 講／第 3 講）研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク（4h）
第 3 週	（第 4 講／第 5 講）研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク（4h）
第 4 週	（第 6 講／第 7 講）研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク（4h）
第 5 週	（第 8 講／第 9 講）研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク（4h）
第 6 週	（第 10 講／第 11 講）研究進捗報告・相互レビュー	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク（4h）
第 7 週	（第 12 講／第 13 講）最終審査会発表練習（１）	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) リサーチワーク（4h）
第 8 週	（第 14 講／第 15 講）最終審査会発表練習（２）	事前	論文執筆・報告準備(3h)
		事後	リフレクションと相互レビュー(1h) 専門職学位論文提出稿完成（4h）

上記の授業計画は研究の進捗状況などに応じ変更される場合がある。

授業の進め方と方法

- 上記目的・到達目標を達成するため、本授業は前後期の各初回で担当教員によるオリエンテーションと研究計画案の共有および点検・改訂を行った後、各授業週の演習で履修者自身による研究の進捗状況報告と履修者同士の相互レビューおよびディスカッションを行い、これらに対して担当教員が助言指導を中心とする研究活動の支援を行う。演習の進行は、履修者が行う。
- 履修者は下記の報告を行う。

  授業週：進捗状況およびその時点での成果・問題。プレゼンテーションの練習も兼ね、口頭で行う。

  ただし履修者数によっては輪番等にする場合がある。

授業週以外：テキストベースの簡易な進捗状況（数行程度）。Teams 上で行う。

- 授業実施方法は基本的にオンラインだが、一部ハイフレックスで実施する可能性がある。
- 必要に応じて、演習時間外にも指導等を行うことがある。
- 授業の内容や進行、報告の回数や時間は、履修者数や進捗状況などに応じて調整・変更する。

教科書・参考書

【教科書】

- S.マッケニー／T.リーブス（著）鈴木克明（監訳）(2021)『教育デザイン研究の理論と実践』,北大路書房
- 清水康敬(2018)『教育工学論文執筆の要点』,ミネルヴァ書房

【参考書】

以下の通り。この他、履修者の研究テーマ計画や状況にあわせて適宜参考文献・先行研究等を紹介する。

- 中原淳（編著）北村士朗ら（著）(2006)『企業内人材育成入門』,ダイヤモンド社
- 鈴木克明 (著, 監修)ら(2016)『インストラクショナルデザインの道具箱 101』, 北大路書房

評価方法

「専門職学位論文」にあわせた研究、執筆、報告について下記の項目で評価する。

なお、前期は発表時に用意したレジュメ等に基づいて評価する。

- 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度（40%）
- 各報告会・審査会での口頭試問の内容（30%）
- 各週の報告内容・方法（30%）

以上の全てに 6 割以上得点することを単位取得条件とする。

また、授業でのディスカッション等への貢献によって加点する場合がある。

その他の重要事項

- 事前に科目「インストラクショナル・デザイン」の履修（またはインストラクショナル・デザインに関する研修やｅラーニング等の受講）をしておくことを強く推奨する。
- 教員とのコンタクトは Microsoft Teams を用いる。
  原則としてクラスのチャットで行い、内容はクラス内で共有する。
- 提出物へのコメントや質疑応答等も原則として全てクラス内で共有する。
- オフィスアワーの予約、報告の方法や頻度など、科目運用の詳細は第 1 回演習時に履修者と話し合いながら決定する。
- 履修にあたって特別な配慮が必要な場合にはチャットで担当教員に連絡し、相談すること。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

自由科目

社会構想大学院大学の専門職学位課程に所属する学生は、他研究科で開講される授業のうち、必修科目・選択必修科目を除く授業を「自由科目」として履修できます。自由科目の単位は、修了単位数に算入することはできませんが、成績表に記載されます。単年度に履修できる単位数には、自由科目も含まれます。なお、履修希望者が多数となった場合には、開講元課程の院生による履修を優先します。

オフィスアワー

本学常勤教員のオフィスアワーは下表の通りです。当該時間帯は対面ないし Teams でのご相談に対応するため、各教員が研究室で待機しています。履修や学習方法、研究に関するご相談など、自由にご活用ください。各授業担当教員もメールや Teams 等でオフィスアワーの設定が可能ですので、各教員へ個別にお問い合わせください。 Teams のチャットを用いて教員に連絡する場合は、アプリ上部の検索ウインドウにメールアドレス（次ページ以降参照）の@より前の文字列を記入してください。

教員名	所属	前期	後期
橋本 純次	CD	随時（ガイダンス資料参照）	随時（ガイダンス資料参照）
中川 哲	CD	木 A 17:00-18:00	水 A 17:00-18:00
齋藤 崇徳	PE	月 A 18:00-19:00 月 B 18:00-19:00	月 A 18:00-19:00 月 B 18:00-19:00
大谷 晃	PE	火 A 18:00-20:00	火 A 18:00-20:00
富井 久義	SD	火 A 18:00-19:00 火 B 18:00-19:00	水 A 18:00-19:00 水 B 18:00-19:00

※「CD」は「コミュニケーションデザイン研究科」,
「PE」は「実務教育研究科」,
「SD」は「社会構想研究科」を指す。

教員メールアドレス一覧 （実務教育研究科）

職位	氏名	メールアドレス（Teams アカウントも同様）
学長	吉國 浩二	（事務局にお問い合わせください）
学監・研究科長	川山 竜二	（事務局にお問い合わせください）
教授	藏田 實	minoru.kurata@socialdesign.ac.jp
教授	廣政 愁一	shuichi.hiromasa@sentankyo.ac.jp
教授	田原 祐子	yuko.tahara@socialdesign.ac.jp
教授	荒木 貴之	takayuki.araki@ socialdesign.ac.jp
教授	北村 士朗	shiro.kitamura@sentankyo.ac.jp
専任講師	齋藤 崇徳	takanori.saito@socialdesign.ac.jp
助教	大谷 晃	akira.otani@sentankyo.ac.jp
兼担教員	富井 久義	h.tommy@sentankyo.ac.jp
兼担教員	橋本 純次	j.hashimoto@socialdesign.ac.jp
兼担教員	中川 哲	satoshi.nakagawa@socialdesign.ac.jp
客員准教授	石﨑 友規	tomonori.ishizaki@socialdesign.ac.jp

科目等履修生

科目等履修生として登録された方は、正規の院生と同様に社会構想大学院大学の施設・設備・LMS を利用することができます。ただし、学外の学割等を受けることはできません。

学則・その他規則は正規院生と同様に適用されます。授業時間帯・実施方法・録画データの配信については、P.2 以降をご確認ください。

（1）科目等履修生番号・登録証

科目等履修生として登録されると、8 桁の科目等履修生番号が付与されます。本学専門職学位課程修了生であっても、新たな科目等履修生番号が付与されますので、ご留意ください。複数年度において科目等履修生として在籍する者は、登録期間が連続している場合のみ、同一の科目等履修生番号となります。

発行される登録証は科目等履修生であることを証明するものであり、同時に、入館セキュリティカード、図書室利用証としての機能を兼ねています。紛失しないよう十分注意し常に携帯するとともに、本学教職員から要求があったときはこれを提示しなければなりません。**登録証の再交付（再発行）は、理由の如何を問わず、実費（5,500 円）を請求いたします。**

（2）Microsoft365 アカウント

科目等履修生には大学院の Microsoft365 アカウントを付与いたします。アカウントドメインは【@nd.socialdesign.ac.jp】です。事前にお送りする設定マニュアルに従って、授業開始までに Microsoft365 および Teams の設定を完了してください。Microsoft365 アカウントは登録学期末まで利用することが可能です。

なお、複数年度において科目等履修生として在籍する者は、登録期間が連続している場合のみ、同一のアカウントとなります。また、本学専門職学位課程修了生として科目等履修生へ申し込まれた方は、修了生アカウントを引き続き、科目等履修生として利用いただきます。

（3）履修登録

科目等履修生として登録を許可された段階で、申し込み時の申請科目への履修が登録されます。そのため、追加の履修登録手続きは必要ありません。授業開始後一週間、オリエンテーションのチームに登録されますが、ご自身の申請した授業のみ視聴するようにしてください。オリエンテーションが終わりますと、新たに登録された授業のチームが割り当てられます。

（4）成績評価

各学期の終了後、成績通知書の送付をもって修了となります。Microsoft365 アカウント停止後の成績証明書については、事務局へお問い合わせください。

なお、本学専門職学位課程修了生につきましては、正規院生としての成績証明書と、科目等履修生としての成績証明書は別に発行されます。

研究生

研究生として登録された学生は、正規学生と同等に社会構想大学院大学の施設・設備・LMS を利用することができます。ただし、学外の学割等を受けることはできません。

研究指導については、指導担当教員に直接お問い合わせください。

(1) 研究生番号・登録証

研究生として登録されると、8 桁の研究生番号が付与されます。本学専門職学位課程修了生であっても、新たな研究生番号が付与されますので、ご留意ください。

発行される登録証は研究生であることを証明するものであり、同時に、入館セキュリティカード、図書室利用証としての機能を兼ねています。紛失しないよう十分注意し常に携帯するとともに、本学教職員から要求があったときはこれを提示しなければなりません。**登録証の再交付(再発行)は、理由の如何を問わず、実費(5,500 円)を請求いたします。**

(2) Microsoft365 アカウント

研究生は、専門職学位課程の修了生アカウントを引き続きご利用いただきます。

(3) 聴講

研究生は、指導教員が研究指導上必要と認めた場合に限り、専門職学位課程の科目を聴講することができます。指導教員からの指示のうえで聴講を希望する場合は、授業担当教員に直接連絡を取り、聴講の許可を得てください。聴講の可否については、授業担当教員から事務局へ連絡するよう、依頼してください。履修希望者が多数となった場合には、開講元課程の院生による履修を優先します。

なお、聴講によって単位を習得することはできません。

(4) 延長

研究生の在籍期間は 1 年以内ですが、研究生が研究の継続を希望する場合、在籍期間の延長が認められる場合があります。延長期間は 1 年以内とし、再度の延長が許可されることもあります。